

Hyogo University of Health Sciences



兵庫医療大学年報

平成29年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学

目 次

序章

| | |
|----|---|
| 沿革 | 1 |
|----|---|

第1章 理念・目的

| | |
|------------------------|---|
| 1. 大学全体 | 2 |
| 2. 学部・大学院 | |
| 1) 薬学部・薬学研究科 | 4 |
| 2) 看護学部・看護学研究科 | 5 |
| 3) リハビリテーション学部・医療科学研究科 | 7 |
| 4) 共通教育センター | 9 |

第2章 教育研究組織

| | |
|---------------|----|
| 1. 学部 | 11 |
| 2. 大学院 | 11 |
| 3. 先端医薬研究センター | 11 |
| 4. RI実験センター | 11 |
| 5. 動物実験センター | 12 |
| 6. 共同機器室 | 13 |

第3章 教育課程・学習成果

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 教育目標、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針 | |
| 1) 学部 | 15 |
| 2) 大学院 | 21 |
| 2. 教育課程 | |
| 1) 学部 | 25 |
| 2) 大学院 | 31 |
| 3) 職業実践力育成プログラム (BP) | 33 |
| 3. 教育方法 (学習指導、シラバス、成績評価・単位認定) | |
| 1) 学部 | 35 |
| 2) 大学院 | 39 |
| 3) 職業実践力育成プログラム (BP) | 39 |
| 4. 成果 (学位授与等) | |
| 1) 学部 | 40 |
| 2) 大学院 | 42 |
| 3) 職業実践力育成プログラム (BP) | 43 |

第4章 学生の受け入れ

| | |
|-----------------|----|
| 1. 学部 | |
| 1) 薬学部 | 44 |
| 2) 看護学部 | 44 |
| 3) リハビリテーション学部 | 45 |
| 2. 大学院 | |
| 1) 薬学研究科 | 45 |
| 2) 看護学研究科 | 46 |
| 3) 医療科学研究科 | 46 |
| 3. 入学者選抜および入試結果 | |
| 1) 学部 | 47 |
| 2) 大学院 | 51 |

| | |
|-------------------------|-----|
| 4. 学生募集（入試関連広報） | 52 |
| 5. 定員数と在籍学生数 | 55 |
| 第5章 教員・教員組織 | |
| 1. 学部 | |
| 1) 薬学部 | 58 |
| 2) 看護学部 | 59 |
| 3) リハビリテーション学部 | 62 |
| 4) 共通教育センター | 63 |
| 2. 大学院 | |
| 1) 薬学研究科 | 64 |
| 2) 看護学研究科 | 65 |
| 3) 医療科学研究科 | 66 |
| 第6章 学生支援 | |
| 1. 修学支援 | |
| 1) 教育支援室 | 67 |
| 2) 奨学金 | 68 |
| 3) 学内広報 | 69 |
| 2. 実習支援 | |
| 1) 臨床薬学研修センター | 69 |
| 2) 医療人育成研修センター | 70 |
| 3. 生活支援 保健管理センター | |
| 1) 保健室 | 70 |
| 2) 学生相談室 | 73 |
| 4. 進路支援 キャリアデザインセンター | 74 |
| 5. 学生会・課外活動 | 80 |
| 第7章 教育研究等環境 | |
| 1. 校地・校舎・施設設備 | 82 |
| 2. 図書館 | 83 |
| 3. 情報センター | 84 |
| 4. 薬用植物園 | 84 |
| 5. 研究活動 | |
| 1) 科学研究費助成事業 | 86 |
| 2) 学内研究助成事業 | 89 |
| 3) 法人内研究助成事業 | 89 |
| 4) 受託研究 | 90 |
| 5) 共同研究（産学連携含む） | 90 |
| 6) その他の研究助成 | 90 |
| 7) 学術講演会および研究セミナー | 90 |
| 8) 薬学部・薬学研究科 | 91 |
| 9) 看護学部・看護学研究科 | 91 |
| 10) リハビリテーション学部・医療科学研究科 | 91 |
| 11) 共通教育センター | 91 |
| 6. 教育研究等の支援 | 91 |
| 第8章 社会連携・社会貢献 | |
| 1. 社会学連携推進機構 | 93 |
| 1) 地域連携実践ステーション | 97 |
| 2) 臨床薬剤師生涯教育ステーション | 103 |
| 3) シームレス看護教育研究ステーション | 103 |

| | |
|----------------------------|-----|
| 4) リハスタッフ臨床教育ステーション | 104 |
| 2. 高大連携 | 104 |
| 3. 国際交流 | |
| 1) 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム | 108 |
| 2) アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム | 109 |
| 3) 欧州研修 | 109 |
| 4) JBI-Kobe Center | 110 |
| 5) トゥルク応用科学大学学術交流協定 | 110 |
| 4. 生涯教育 | |
| 1) 中医薬実践講座 | 110 |
| 2) 看護学部 | 111 |
| 3) リハビリテーション学部 | 111 |

第9章 大学運営

| | |
|---|-----|
| 1. 大学全体 | |
| 1) 学校法人兵庫医科大学組織機構図 | 112 |
| 2) 兵庫医療大学組織図 | 113 |
| 3) 大学協議会 | 114 |
| 4) 役職者名簿 | 115 |
| 5) 全学教職員集会 | 115 |
| 6) 教職員の資質向上方策 | 116 |
| 2. 事務組織 | 116 |
| 3. 学内委員会 | 117 |
| 1) 自己点検・評価委員会 | 121 |
| 2) 学生委員会 | 121 |
| 3) 教育委員会 | 122 |
| 4) 入試センター運営会議 | 123 |
| 5) 図書館委員会 | 123 |
| 6) 広報委員会 | 124 |
| 7) 情報倫理委員会 | 124 |
| 8) 国際交流委員会 | 125 |
| 9) キャリアデザイン委員会 | 125 |
| 10) 研究推進委員会 | 125 |
| 11) 研究委員会 | 125 |
| 12) 公正研究推進小委員会 | 126 |
| 13) 先端医薬研究センター運営委員会・先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会 | 126 |
| 14) RI実験センター運営委員会 | 126 |
| 15) 放射線障害予防委員会 | 127 |
| 16) 動物実験センター運営委員会 | 127 |
| 17) 動物実験委員会 | 128 |
| 18) 遺伝子組換え実験安全委員会 | 129 |
| 19) 環境安全委員会 | 130 |
| 20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会 | 130 |
| 21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会 | 130 |
| 22) 病原体等安全管理委員会 | 131 |
| 23) 利益相反マネジメント委員会 | 132 |
| 24) 倫理審査委員会 | 132 |
| 25) 共同機器室運営委員会 | 136 |
| 26) 情報センター運営委員会 | 137 |
| 27) 紀要委員会 | 137 |
| 28) キャンパス有効利用委員会 | 138 |
| 29) 将来構想委員会 | 138 |

| | |
|----------------------------|-----|
| 30) 防火防災対策委員会 | 138 |
| 31) 衛生委員会 | 139 |
| 32) 医療人育成研修センター運営委員会 | 139 |
| 33) 社会学連携推進機構運営委員会 | 139 |
| 34) 大学院運営委員会 | 140 |

序 章

沿 革

- 平成18年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可および兵庫医療大学設置認可
- 平成19年 4月 兵庫医療大学開学
- 4月 保健管理センター開設
- 6月 医療人育成センター（西宮キャンパス）開設（旧：医学・医療教育研修センター）
- 10月 地域連携実践センター開設
- 10月 兵庫医療大学先端医薬研究センター開設（旧：医薬共同創薬研究開発センター）
- 平成20年 1月 神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携協定締結
- 4月 動物実験センター開設
- 9月 薬用植物園開設（旧：薬草園）
- 10月 第1回兵庫医療大学大学祭（海泉祭）開催
- 10月 臨床薬学研修センター開設
- 12月 神戸ポートアイランドキャンパス4大学連携における単位互換に関する協定締結
（兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学）
- 平成21年 3月 兵庫医療大学体育館（アリーナ）完成
- 3月 防災・減災およびボランティア活動に関する5大学連携支援協定を締結
（兵庫医療大学、工学院大学、大妻女子大学、神戸学院大学、神戸女子大学）
- 4月 キャリアデザインセンター開設
- 9月 RI実験センター開設
- 平成22年12月 兵庫医療大学大学院看護学研究科・医療科学研究科設置認可
- 平成23年 3月 第1期卒業生輩出（看護学部、リハビリテーション学部）
- 4月 兵庫医療大学大学院（看護学研究科・医療科学研究科）開設
- 6月 フィンランド共和国トゥルク応用科学大学との学術交流に関する協定を締結
- 平成24年11月 兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
- 平成25年 3月 大学基準協会認定評価において大学基準適合認定
- 3月 第1期卒業生輩出（薬学部）
- 3月 第1期修了生輩出（看護学研究科、医療科学研究科）
- 4月 兵庫医療大学大学院薬学研究科設置
- 平成26年 3月 オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
- 平成27年 4月 兵庫医療大学社会学連携推進機構設置
- 8月 JBI KOBELT CENTER 開設
- 12月 兵庫医療大学職業実践力育成プログラム（BP）の文部科学大臣認定
- 平成28年 3月 兵庫医療大学リハビリテーション学部教育評価認定
- 3月 兵庫医療大学薬学部教育評価認定
- 8月 篠山市と地域連携に関する協定締結
- 平成29年 2月 兵庫県と就職支援に関する協定締結
- 3月 第1期修了生輩出（薬学研究科）
- 3月 神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学および兵庫医療大学の連携協力に関する協定締結
- 3月 神戸市と災害時の医薬品集積センターとしての一時利用に関する協定締結
- 9月 兵庫医療大学開学10周年記念式典開催

第1章 理念・目的

1. 大学全体

学校法人 兵庫医科大学 建学の精神

- ・社会の福祉への奉仕
- ・人間への深い愛
- ・人間への幅の広い科学的理解

兵庫医療大学教育理念

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する

兵庫医療大学教育目標

- ・幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

HUHS VISION 20

次なる10年へ

兵庫医療大学（Hyogo University of Health Sciences）は、これまでの10年の教学の実績をもとに、医療総合大学として次なる10年で目指す目標を宣言します

—到達目標—

「西日本を代表する医療総合大学としての教学基盤の確立」

Leading Health Science Innovation

- ・学校法人兵庫医科大学の「建学の精神」に則り、直面する医療にかかる課題を、深い専門性と包括的視点で捉え、多職種との協働で解決に導く豊かな知性としなやかな人間性を持つ医療専門職者を育成する
- ・コミュニケーション力などの人間力を涵養すると共に、学術領域の高度な専門性の修得と、医療の包括的理解を促す教育を実践する
- ・薬学、看護学、リハビリテーション学研究の深化を図り、同時に、新しい学術領域を生み出す教学イノベーションを推進する

—ビジョン—

教 育

「次代を担う中核的医療人育成のための包括的教育」

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、ヘルスサイエンスにおけるさまざまな課題を解決する強い志と、高い専門性を持つ医療専門職者を育成する。

研 究

「次代を拓くヘルスサイエンスイノベーション」

未病、予防医療など、これからの医療課題解決を目指すヘルスサイエンスイノベーションに、薬学、看護学、リハビリテーション学などの学術領域の専門性を深化しつつ、学部協働的または全学的に取り組む。

社学連携

「地域と共に学ぶ大学」

ヘルスサイエンスを基盤とする心と体の健康支援について地域と連携協働するとともに、地域企業・団体との共同研究としてヘルスサイエンスイノベーションに取り組む。

学生を参画メンバーとすることで、社会的視点を育む。

学生支援・生涯教育

「学生生活における安全・安心の担保」

「医療人のキャリアアップを目指す生涯教育支援」

安全・安心な教学環境のもと、学生一人ひとりに向き合い、その学びと成長を支援する。

卒業生の生涯教育を含め、「社会人学び直しシステム」の充実を図る。

運 営

「高い公共性をもつ公益組織としての社会的責任を果たす大学」

学部・研究科の自律性と大学としての一体性を確保し、社会的視点からの自己改革を推進する。

併せて、ビジョン達成のための多元的経営基盤の確立を目指す。

—基 軸—

- ・兵庫医科大学との協働
- ・医療専門職者としての、高い専門性と、人間力の醸成
- ・次代を拓くヘルスサイエンスの深化と創出
- ・地域社会との双方向の教学実施による社会学連携
- ・安全・安心な大学環境の維持・健全な管理運営

—行動計画—

- ・兵庫医科大学との協働による先進的チーム医療教育を実践する
- ・医療専門職者として必要な知識と技術の修得とコミュニケーション力を育む
- ・卒業研究を充実し、学生の考える力を涵養する
- ・海外協定大学（オーストラリア、中国）との双方向の学術交流を推進する
- ・学内研究助成・顕彰制度により研究活動を活性化する
- ・統合領域研究と地域創生研究を重点課題に位置付けて推進する
- ・地域医療課題解決型カリキュラムを充実する
- ・兵庫県多自然地域の地域創生に取り組む
- ・社会学連携活動をアクティブラーニングとして活用する
- ・学生一人ひとりに向き合う支援体制を充実させる
- ・「社会人学び直しシステム」により地域医療を支援する
- ・大学一体となり安定的財政基盤を維持する
- ・大学のブランディングを強化する
- ・自己点検・評価により教育の質を保証し、情報公開する

2. 学部・大学院

博士課程理念

本学の大学院博士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担うより高度な医療人の育成を目的としています。すなわち、優れた科学的知識と研究能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、基礎および臨床の両分野において新たな展開を目指した研究領域を置いています。

修士課程理念

本学の大学院修士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展さ

せることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、新たな展開を目指した研究領域と、社会の期待に対応すべく高度実践専門職者を育てる領域の二つの柱を置いています。

1) 薬学部・薬学研究科

薬学部 教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的実践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成します。

薬学部 教育目的

薬学部では、「くすり」(医薬品・化学物質・手段)と「生体」(ヒト、生物/病原体、生体成分)に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指します。

薬学研究科 理念・目標

現代医療においては、各分野の高度専門化が進む一方、異なる職種間の連携や地域の医療・介護施設、住民、行政との連携が強く求められています。その中で、医療にかかわる者は広い社会的視野をもって、最先端の知識と科学的なものを見方を生かしていく必要があります。本学大学院薬学研究科は、あらゆる場面で「多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる医薬品の専門職者を養成する」という本学薬学部の精神を継承しつつ、兵庫医科大学との協力関係を最大限に活用しながら、より先端的な内容の講義、演習、研究活動によってその能力をさらに高め、医療薬学の諸問題を解決する能力を持った人材を養成することにより、医療の発展に貢献することを理念とします。この理念を実現するために、以下に示す能力を身に付けた人材の養成を目標とします。

1. 高度な研究能力、すなわち医療の現場において問題点を発見し、それを解決する適切な研究計画を立案し、さらにその成果を論文化することのできる能力を持って医療の質向上と変革を推進することができる医療専門職者。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から提起し、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる薬学研究者。

薬学部・薬学研究科 HUHS VISION 20

開学から10年を経て、兵庫医療大学薬学部を巣立った多くの卒業生が兵庫医科大学病院をはじめとする病院や薬局などで活躍している。大学院薬学研究科からは、初めての博士号取得者も誕生した。急速な高齢化が進む我が国にあって、これからの医療を担う薬剤師には、地域包括ケアの観点からこれまで以上に高い専門性と独自性に基づく多職種者との協働力が必要となる。さらに、先進的医療の推進においても、医療の世界に変革をもたらす研究能力が求められている。また、少子化の進行に伴い、大学間の競争は厳しさを増している。このような社会的環境の中、薬剤師国家資格を基盤とし中核的にチーム医療に取り組む人材の育成をめざす本学薬学部が、今後10年で目指す目標をここに掲げる。

—到達目標—

医療総合大学の薬学部として、西日本において揺るぎない地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. 本学学生に即した学びを促す医療薬学教育を実践し、薬剤師国家試験成績を向上させる。
2. 本学の特色であるチーム医療教育を深化し、臨床能力の高い薬剤師を育成する。
3. 臨床における問題を研究課題として捉え、科学的に考えて解決できる薬剤師を育成する。
4. 東洋医薬的な視座をもち、包括的な地域医療に貢献できる薬剤師を育成する。
5. 医療産業都市・神戸に根ざし、地域社会に貢献する薬学部を目指す。
6. 海外の教育研究機関と協働し、国際的視野を有する薬剤師・薬学研究者を育成する。

研 究

1. 超高齢社会における地域医療の変革に貢献する臨床薬学研究を推進する。
2. 自由なアカデミズムから生まれる柔軟な発想を生かし、最先端の創薬科学に取り組む。
3. 在学生や卒業生の成長を促す医療薬学教育システムの開発研究を推進する。
4. 東洋医薬と西洋医薬を融合する研究に取り組み、超高齢社会に新しい医療を提案する。
5. ヘルスサイエンス新領域の創生を目指し、地域に潜む新たな研究シーズを発掘する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 組織的に薬学部教育力を強化し、自立した学習者を育てる教育課程を編成する。
2. 全学的チーム医療教育に加えて、チーム医療の場を意識した臨床薬学教育を実施する。
3. 科学的な知識を基盤にした考える力を育む薬学教育・薬学研究プログラムを創出する。
4. 兵庫医科大学中医薬孔子学院と連携し、在学生や卒業生を対象とした中医薬教育を推進する。
5. 生涯教育講座や公開講座などを通じて、地域の薬剤師や住民のリカレント教育に取り組む。
6. 学部学生、大学院生、ポストドクター、教員などの海外派遣や受入れ体制を充実させる。

研 究

1. 地域医療機関との共同研究や社会人大学院生の積極的な受け入れを通じて、医療現場の課題解決をめざす臨床薬学研究を推進する。
2. 先端医薬研究センターを中心として取り組む創薬研究を拡充するため、製薬企業とのマッチングや外部資金獲得に取り組む。
3. ICTの活用やアクティブラーニングの実施と検証を通じて、新しい医療薬学教育プログラムを開発する。
4. 東洋医薬部門を中核とする東洋医薬・西洋医薬融合研究を展開するため、北京中医薬大学との共同研究を推進する。
5. 行政機関や地域産業と連携し、医薬・医療のシーズ探索研究を推進する。

2) 看護学部・看護学研究科

看護学部 教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、増進させる看護専門職者を育成します。

看護学部 教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養います。医

療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成をめざします。

看護学研究科 理念・目標

保健・医療・福祉および社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康とQOLの向上および看護学の進歩・発展に寄与することにあります。そのために、以下の5つを目標としています。

1. 専攻する看護専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる
2. 専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術をもとに看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる
3. 人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる
4. 先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる
5. 専攻する看護専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める

看護学部・看護学研究科 HUHS VISION 20

少子超高齢社会が進展する中、医療の進歩、社会から求められる医療ニーズの多様化等に対応できる高い倫理観を持ち、患者の急性期から地域での暮らしや看取りまで見据えた看護を提供できる看護師が求められている。このような状況に対応するためには、これまで以上に高い専門性と独自性に基づく看護実践力、多職種者との協働力と共に医療・看護の世界に変革をもたらす研究マインドの涵養が重要である。そこで、保健師・助産師・看護師の国家資格取得を基盤に、多様なニーズに対応できる看護実践力、チーム医療の中核的存在となる人材の育成に取り組み、今後10年間で医療総合大学の看護学部として西日本地区におけるリーダーとなる地歩を固める。

—到達目標—

医療総合大学の看護学部として西日本地区におけるリーダーとなる地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. あらゆる場（急性期から地域での暮らしや看取りまで）で発揮できる科学的根拠に基づいた全人的な看護実践能力・良好な人間関係が築けるコミュニケーション能力を育成する。
2. 本学の特色であるチーム医療教育を深化し、多職種連携におけるキーパーソンとなる高い協働力を育成する。
3. 主体的に考える力（研究マインド）を持ち、看護の質向上・変革に貢献できる人材を育成する。
4. グローバリゼーション、国際化のなかでの国際看護活動を探求する知力をもつ人材を育成する。
5. 人間への深い愛・豊かな人間性と共に専門職者意識（プロフェッショナリズム）をもつ人材を育成する。

研 究

1. 超高齢社会における地域医療・看護の変革に貢献する先進的な看護学研究を推進する。
2. 自由なアカデミズムから生まれる柔軟な発想・学際的な視点を生かし、他の学術分野と融合した看護学研究領域を切り拓く。
3. 超高齢社会において地域で必要とされる多元的なケアを実践できる優れた看護実践力を育成するために職業実践力育成プログラムの充実と進化に取り組む。
4. 学部卒業生の研究マインドのフォローアップに取り組み、大学から大学院への進学・学修の継

続を支援する。

5. JBI Kobe Centerの活動を強化し、国際研究活動の拠点とする。

—アクション・プラン—

教 育

1. 看護学教育モデル・コア・カリキュラムによる教育の質保証、社会の要請（地域包括ケア・災害時の健康危機管理など）に応じたカリキュラムの見直しを図る。
2. 多様な人々との相互関係を成立・発達させるコミュニケーション・スキルを獲得するために、コミュニケーション関連科目を強化する。
3. 全学的チーム医療教育に加えて、学部科目にTeam Based Learningを積極的に活用する。
4. 地域医療課題解決型の学修を初年次から組み込み、本学看護学部、兵庫医科大学病院看護部、ささやま医療センター看護部等と連携し、卒前・卒後の一貫した教育プログラムの開発に取り組む。
5. 主体的な学修と考える力を伸ばすために、早期研究セミナー（卒業研究）の開始、上級生・下級生の混合ゼミなどを実施する。
6. アデレード大学、北京中医薬大学等との大学間または部局間の学術交流プログラムの充実を図る。
7. 倫理性・職業アイデンティティを早期に確立するために基礎と専門科目の進捗・内容のつながりを検討する。

研 究

1. 医療・看護・介護・生活支援・環境改善などを貫く理念とそれらを具現化する理論・方法論を他の学術分野との融合を視点に開発する。
2. 地域で必要とされる多面的なケアを実践ならびに保健医療福祉の改革に果敢に挑戦できる研究者の育成を目指した博士課程の教育内容を検討する。
3. 職業実践力育成プログラムにおいて事例ディスカッションをはじめとする魅力的な双方向的授業のさらなる充実を図る。
4. 学部卒業生の研究マインドのフォローアップとしての多様なプログラムを展開し、学部から修士、修士から博士課程への進学・学修の継続を促す。
5. アデレード大学看護学部との共同研究を推進する制度を確立するとともに教員および大学院生の短期留学制度を導入し研究力向上を目指す。

3) リハビリテーション学部・医療科学研究科

リハビリテーション学部 教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることをめざします。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術および教育研究技術を育み、社会人として、またリハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成します。

リハビリテーション学部 教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解および保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的実践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力および生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成をめざします。

医療科学研究科 理念・目標

医学・医療科学の発展ならびに急速な高齢化の進行、個人の価値観の多様性等によって、疾病や

障害を有した方が社会で生活していくためのニーズは多様化・複雑化してきており、これらの変化に対応していくことが求められています。その中で、リハビリテーション科学の学問的發展に寄与するとともに、より高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職の育成に寄与することにあります。そのために、以下の4つを目標としています。

1. 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培います
2. 専攻する分野において、より高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践するとともに、更なる発展・向上に努めることができる素養を培います
3. 高度な臨床的推論に基づく臨床実践を展開するとともに、後進の育成に寄与できる指導者としての素養を培います
4. 専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を培います。

リハビリテーション学部・医療科学研究科HUHS VISION 20

兵庫医療大学リハビリテーション学部は開学以来10年間、「臨床力のある質の高い理学療法士・作業療法士の輩出」を第一目標として教育を行い、理学療法学科、作業療法学科ともに、新規卒業生の国家試験合格率100%を複数回達成し、第1志望への就職率80%以上を維持してきた。また、本学大学院に進学する卒業生も増えている。

今後10年間、地域に根差した学部としてさらに発展し、西日本を代表する学部となり、理学療法士・作業療法士の中核となる人材を育成する教育・研究の基盤を確立するためのビジョン、およびそれを達成するためのアクション・プランを以下に掲げる。

—到達目標—

医療総合大学のリハビリテーション学部として西日本地区において揺るぎない地歩を確立する。

—ビジョン—

教 育

1. 理学療法士・作業療法士として、多様な臨床現場で様々な対象者および他の専門職の価値観を理解し、良好な人間関係を構築できる人間力を培う。
2. 質の高い臨床力・研究力を備え、理学療法、作業療法を包括的に理解し、中核的存在となる理学療法士・作業療法士を輩出する。
3. 常に最先端の医療、社会情勢、その他広い視野をもって情報収集し、その情報を深く理解し実践に活かしながら自己研鑽を続ける態度を、学部のみでなく卒業後も育成し続ける。

研 究

1. 臨床的課題および地域医療における課題の解決に貢献する研究力を涵養する。
2. 理学療法学、作業療法学を中心にリハビリテーションの発展に寄与する研究成果を発信する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 医療人育成研修センター・共通教育センターと協働し、兵庫医科大学と連携した教育およびチーム医療教育を発展させるとともに、学部授業におけるアクティブ・ラーニングがチーム医療教育の一環であることを明示し、確実に意識化していく。
2. 地域の医療関連施設等の見学、障害をもったひとやその家族の授業参加、国際的医療活動および諸外国の理学療法・作業療法の紹介などを、教育課程を通して構成的に配置する。
3. 学部における学習の集大成として位置づけられている現行の研究力育成教育に、早期から研究志向を涵養する機会を加え、充実を図る。

4. 学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー、本学学術講演会やさまざまな学術集会などへ学生を積極的に参加させる。
5. シラバスの作成に始まる授業、授業以外の教育支援、および教員の質に関して、教育の質保証システムを常に適用する。
6. キャリアデザインセンターと協働し、卒業生の就職施設での評価を参考として、教育の質のさらなる向上を図る。
7. 学部生・卒業生・大学院生の学術的交流を促進し、卒業生の生涯学習支援体制をさらに充実させる。

研 究

1. 本学部・研究科の教育の質の向上・地域のニーズへの対応を目的とした研究領域を樹立する。
2. 医療科学研究科における成果を、さらに社会に向けて発信し続ける。

4) 共通教育センター

共通教育センターHUHS VISION 20

開学10年を迎え、共通教育センターが兵庫医療大学の中で果たしてきた役割を振り返ると、チーム医療教育、初年次教育、各医療職の基盤となる科目の基礎教育、教養教育をあげることができる。こうした教育は一定の成果を上げていると考えられるが、しかし、いずれの教育についても、共通教育センターと各学部とで一貫したカリキュラムが形成されているとはいえないのが現状である。今後10年で西日本を代表する医療総合大学となることを目指すために、共通教育センターとして、これまでの活動を振り返り、改善を図りつつ、各学部との連携を緊密にとることが必要である。

—到達目標—

学生が課題を解決するのに必要な能力を育成するためのカリキュラムを明確にするとともに、多職種連携教育を全学に浸透させる。

—ビジョン—

教 育

1. 科目関連会議の拡充による基礎教育と専門教育の連携を強化する。
2. 1年次から卒業年次まで継続的な多職種連携教育（IPE）を実施し、各学年次で習得すべき多職種連携（IPW）のコアコンピテンシーを明確にする。
3. 教養科目の拡充を図る。
4. 共通教育センター教員の専門分野の特性を活かし、卒業研究をサポートする。
5. 初年次教育科目の継続的な改善を図る。

研 究

1. 多職種連携教育（IPE）の手法とその効果についての研究を行う。
2. 医療系大学に必要な初年次教育の教育内容の検討と教育プログラムの開発を行う。
3. 多様な専門領域の研究者が所属する共通教育センターの特性を活かし、分野融合的な研究の推進を図る。
4. 海外の教育研究機関との共同研究を推進する。

—アクション・プラン—

教 育

1. 3部との科目関連会議の拡充と教育の連続性を確保する。
2. 3学部合同科目（早期臨床体験実習、チーム医療概論、チーム医療論演習等）で修得を目指すIPWのコアコンピテンシーを明確にし、カリキュラムマップを策定する。

3. 幅広い教養を身につけるための教養科目の拡充を図る（天文学、科学論、英語学、文献購読演習等）。
4. 新しい学術領域を生み出す教学イノベーションを推進するため、学部の垣根を越えた卒業研究のサポート体制を整備し、3学部の学生が選択可能なゼミを開講する。
5. 課題解決に必要な考える力と他者との協働に必要な力を涵養する。

研 究

1. PBL、TBL、反転授業など、IPEの効果的な教育手法を検討し、その効果について検証する。
2. 次世代を担う医療人にとって必要な能力を同定し、その育成に必要な教育プログラムを開発する。
3. 共通教育センター教員が自らの専門分野の研究を遂行する中で、領域横断的な課題を発見し、学際的な研究を推進する。
4. 海外の大学や研究機関と学術交流を深め、国際的な教育及び研究活動を推進する。

第2章 教育研究組織

1. 学部

概要

本学は、薬学部医療薬学科、看護学部看護学科、リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科、共通教育センターの3学部4学科、1センターより構成されている。

共通教育センターは一般教養科目のみならず、アカデミックリテラシー、早期臨床体験実習(Early Clinical Exposure : ECE)、チーム医療概論、チーム医療論演習等を兵庫医科大学とも連携して全学的に実践している。

2. 大学院

概要

修士課程看護学研究科および医療科学研究科、博士課程薬学研究科より構成されている。

平成28年度より文部科学大臣認定職業実践力育成プログラム(Brush up Program for professional : BP)を開設した。地域医療を担う医療専門職者のキャリアアップを支援する3プログラム(地域在宅看護実践力育成プログラム、PT・OT臨床力ステップアッププログラム、リハビリテーション科学課題研究コース)を設置し、多数の受講生が参加した。

3. 先端医薬研究センター

概要

兵庫医療大学先端医薬研究センターは、医学および薬学の関連分野の研究推進を図るため、医薬・医療に関する先端的な研究開発を行い、その成果を疾病の予防および治療に反映させることを目的として、薬学部設置されている。同センターは、G棟1階に配置された薬学部研究室と同様な研究環境をもつ3室の実験室から構成され、それぞれの実験室で特色ある研究プロジェクトが実施されている。このうち、先端医薬研究センター1では、大学発の創薬をめざす研究プロジェクトが実施され、独自の先端技術を活用した外部機関との共同研究が展開されている。先端医薬研究センター2では、学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院の研究部門として中医薬に関する法人内の共同研究活動が実施されている。先端医薬研究センター3では、兵庫医科大学との研究プロジェクトが新たに開始されている。

4. RI実験センター

概要

RI実験センターは放射性同位元素(ラジオアイソトープ)を用いたトレーサー実験を安全に行うための実験施設である。本センターでは ^3H 、 ^{14}C 、 ^{32}P および ^{125}I 等ベータ線またはガンマ線放出核種の使用が許可されており、生化学実験または分析化学実験に対応した実験器具および放射線計測器が設置されている。本センターは平成20年1月に放射線管理区域として認可され、翌年4月に放射線取扱主任者が選任され、同年9月より稼働している。本センターは放射線障害防止について総括的な監督を行う放射線取扱主任者の他、管理区域責任者、安全管理責任者および施設管理責任者より構成された管理組織にて運営されている。この他に各学部より選出された委員で構成された組織として放射線障害予防委員会およびRI実験センター運営委員会を設置している。前者の委員会では放射線予防規程の改定や放射線管理状況報告書について、後者では本センターの運営および放射線管理に必要な事項についてそれぞれ審議を行っている。

特記事項

- ・点検実施
年2回実施している施設点検では補修等の措置を講ずべき不具合は認められなかった。
- ・非密封RIの保管状況
11品目の¹⁴C標識化合物として計18.2MBq、2品目の³H標識化合物として計9.4MBqおよび⁴⁵Ca標識化合物36.8MBqの放射性同位元素を保管している。
- ・放射線業務従事者数
放射線業務従事者の登録者は9名（含む女子登録者2名）であった。いずれも年間被ばく線量は検出限界以下であり、個人実効線量分布は5 mSv/年以下であった。
- ・放射線管理状況報告書の提出
前年度の放射線管理の記録類を管理状況報告書（許可使用者）として原子力規制委員会へ提出した。

5. 動物実験センター

概要

動物実験センターおよび同分室は、「動物の愛護および管理に関する法律」、「動物の愛護および管理に関する条例」、「実験動物の飼養および保管ならびに苦痛の軽減に関する基準」、および「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営されている。実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験等のバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発等を支援している。

統計

- ・利用者人数（延べ人数）

| | |
|------------|-------|
| 動物実験センター | 7,037 |
| 動物実験センター分室 | 833 |
| 計 | 7,870 |

- ・飼育ケージ数（延べ個数）

| 種 | エリア | | |
|-------|-------|--------|-------|
| | SPF | CNV | 分室 |
| 組換マウス | 4,316 | 0 | — |
| マウス | 5,505 | 6,479 | 3,583 |
| ラット | 0 | 11,577 | — |
| ハムスター | — | 0 | 2,983 |
| モルモット | — | 126 | — |
| ウサギ | — | 0 | — |

・搬入動物数

| 種 | エリア | SPF | CNV | 分室 |
|-------|-----|-----|-------|----|
| 組換マウス | | 52* | 0 | 0 |
| マウス | | 514 | 704 | 65 |
| ラット | | 0 | 1,306 | 0 |
| ハムスター | | 0 | 0 | 10 |
| モルモット | | 0 | 6 | 0 |
| ウサギ | | 0 | 0 | 0 |
| ウシガエル | | 0 | 64 | 0 |

※自家繁殖含む

6. 共同機器室

概要

本学の研究・教育活動を推進するための共同利用施設として、高度な研究機器を配した共同機器室がG棟に設置されている。核磁気共鳴装置やフローサイトメーターをはじめとする研究機器が導入され、ライフサイエンスを広くカバーする本学の研究・教育の基盤として重要な役割を担っている。

共同機器室は研究活動の場を提供するばかりでなく、本学研究者の活発な交流や次世代の医療科学を担う学生の教育にも重要な役割を担うことが期待されている。共同機器室の管理・運営は共同機器室運営委員会と共同機器室利用者が連携してこれにあたっている。

共同機器室に設置されている主な研究設備機器を表1. に示す。また平成27年度より共同機器室4と共同機器室6に私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金（文部科学省）の支援を受けたPBLラボラトリを併設している。

表1. 共同機器室研究設備機器一覧

| | |
|---------|--|
| 共同機器室 1 | |
| | 超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置（NMR） |
| | ・ NMR system PS600型（600MHz）（Agilent Technologies 社） |
| | ・ JNM-ECX400PKS 型（400MHz）（日本電子（株）） |
| 共同機器室 2 | |
| | ・ 生体成分相互作用解析装置 Biacore 3000システム（GE Healthcare 社） |
| | ・ 走査型電子顕微鏡 SU1510（日立ハイテクノロジーズ社） |
| 共同機器室 3 | |
| | ・ 共焦点レーザー顕微鏡 FV1000-D（オリンパス社） |
| | ・ 正立蛍光顕微鏡 BX51-FL（オリンパス） |
| | ・ Ca ²⁺ イメージング装置 Fura2レシオイメージングシステム（浜松ホトニクス社） |
| | ・ マルチガスインキュベーター（TAITEC 社） |
| | ・ HS オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-9000（キーエンス社） |
| | ・ 実体顕微鏡 SZ61（オリンパス社） SZX10（オリンパス社） |
| | ・ 倒立ルーチン顕微鏡 CKX41（オリンパス社） |
| | ・ 磁気細胞分離システム AutoMACS（ミルテニー社） |
| | ・ 超音波洗浄機 AU-507CB（EYELA 社） |
| | ・ セルソーター FACS Aria II（ベクトンディッキンソン社） |
| | ・ フローサイトメーター Accuri C6（ベクトンディッキンソン社） |
| | ・ P2実験室（細胞） |

| 共同機器室4 | |
|---|--|
| ・サーマルサイクラー PCRsystem9700 (AppliedBiosystems社) | |
| ・サーマルサイクラーVeriti (AppliedBiosystems社) | |
| ・RealTimePCRStepOnePlus-01 (AppliedBiosystems社) | |
| ・RealTimePCR7500Fast (AppliedBiosystems社) | |
| ・レーザーキャナ型イメージアナライザー TyphoonTrio (GEHealthcare社) | |
| ・CCDカメラ型イメージアナライザー ImageQuant400 (GEHealthcare社) | |
| ・卓上超遠心機 OptimaMax-XP (ベックマン社) | |
| ・高速冷却遠心機 AvantiHP-30I (ベックマン社) | |
| ・多本架け冷却遠心機 CF12RX (日立工機社) | |
| ・非観血式自動血圧測定装置 (ラット、マウス) BP-98A-L ((株) ソフトロン) | |
| ・クリオスタット HYRAX-C-50 (ZEISS社) | |
| ・ABIPRISM310GENETICANALYZER (AppliedBiosystems社) | |
| ・振動刃マイクローム VT1200S (ライカ社) | |
| ・ポリトロンホモジナイザー PT3100/PT1200E (kinematica社) | |
| ・超音波破碎装置 Model250D-Advanced (Branson社) | |
| ・遺伝子導入装置 Xcellコンプリートシステム (Bio-Rad社) | |
| ・遺伝子導入装置 ヌクレオフェクター (Amamax社) | |
| ・超純水製造装置 Milli-QIntegral (MerckMillipore社) | |
| ・MAXART大判インクジェットプリンター PX-9550S (EPSON社) | |
| ・分光光度計 Nanodrop1000 (ThermoScientific社) | |
| ・サイトスピン CYTOSPIN4 (ThermoScientific社) | |
| ・クロマトグラフィシステム AKTAprime (GEHealthcare社) | |
| 共同機器室5 | |
| ・低温室 | |
| ・P2実験室 (微生物) | |
| ・LOCATOR 8 PLUS Rack and Box Systems (Thermo Scientific社) | |
| ・超低温フリーザー (-80° C) MDF-U383 (三洋電機社) | |
| 共同機器室6 | |
| ・超高精度ESI-Q TOF/LC-MS/MSシステム microTOF-Q (Bruker Daltonics社) | |
| ・高速液体クロマトグラフ・三次元分析システム LaChrom Elite 2000三次元分析システム (日立ハイテック社) | |
| ・高速液体クロマトグラフ・分取分析用システム LaChrom Elite200 分取分析用システム (日立ハイテック社) *紫外吸収検出器セットおよび示差屈折検出器セット | |
| ・フーリエ変換赤外分光光度計 FT/IR-4100 (日本分光社) | |
| ・旋光度計 P-2100 (日本分光社) | |
| ・吸光/蛍光プレートリーダー SpectraMax M2e (Molecular Devices社) | |
| ・発光プレートリーダー SpectraMax L Dual Injectors (Molecular Devices社) | |
| ・ウルトラマイクロ天秤 XP26 (メトラートレド社) | |
| ・ロータリーエバポレーター (減圧ポンプ、冷却水循環装置付き) R-210V (ビュッヒ社) | |
| ・接触還元装置 (水素発生装置付き) CH-100 (石井理化機器) | |
| ・試料水平型多目的X線回折装置 Ultima IV (リガク社) | |
| ・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore社) | |
| ・凍結乾燥装置 FDU-2100 (EYELA社) | |
| ・角型ドライチャンバー DRC-1000 (EYELA社) | |

第3章 教育課程・学習成果

1. 教育目標、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針

教育目標

- ・幅広い教養と心豊かな人格の育成
- ・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得
- ・優れたコミュニケーション能力を基礎とした、チーム医療・地域医療を担える資質の育成
- ・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念・目標のもとに、人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者の資質をもった学生に学位を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

幅広い教養と心豊かな人格の育成・関連分野とのボーダレスな教育環境のもと専門性の高い知識と技術の修得・優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療を担える資質の育成・次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養が、可能になるように教育課程を編成します。大学での学びに必要な学習方法や基本的能力を修得する科目および医療専門職者として必要な専門領域以外の自然科学、人文科学、語学などの多彩な教養科目を開講します。チーム医療関連科目をはじめとする専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を開講します。

1) 学部

①薬学部

教育目標

1. 「くすり」と「生体」およびその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師としての基盤となる正しい知識を身に付ける。
2. 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
3. ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
4. 医療の高度化・多様化および科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身につける。
5. 個人にとって安全かつ適切な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
6. 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（薬学）を授与します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を持ち、医療専門職者に必要な倫理観、使命感、責任感を有する。
2. チーム医療の一員として、他の医療専門職者とコミュニケーションを取り、互いの立場を理解し尊重しながら、薬剤師として貢献することができる。
3. 十分なコミュニケーション能力を有し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解したうえで薬物治療を実践することができる。
4. 「医薬品・化学物質」と「生体・環境」およびその相互作用について正しい知識を身につけ、さらにそれを応用する技能を有する。
5. 西洋医学および東洋医学に基づく安全かつ有効な薬物療法を主体的に実施するために必要な薬学的管理を実践する能力を有する。
6. 地域の医療・保健・福祉に関する知識と、それを地域住民の健康増進、公衆衛生の向上に結びつける能力を有する。
7. 研究活動に取り組む意欲を有し、研究課題を発見し解決する基本的能力を有する。
8. 世界の医療・科学技術の進歩に迅速に対応できるよう、生涯にわたり自ら学び続けることができる。
9. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する科目
2. 薬剤師に必要な倫理観、使命感、責任感を涵養する科目
3. 薬学の専門的知識・技能を活かし、チーム医療の中で、連携協力し合う能力を培う統合科目
4. 薬物治療を実践するために薬剤師に必要なコミュニケーション能力を養成する科目
5. 基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目
6. 地域の医療、保健、福祉に関する知識を修得し、地域住民の健康増進、公衆衛生向上に結びつける能力を養成する科目
7. 医療や科学技術の発展に貢献できる研究能力と、生涯を通して学び続ける自己研鑽能力を養成するための科目
8. 次世代の医療を担う人材を育成し、医療の継続的な発展に貢献するため、後進を指導する意欲と態度を養成するための科目

編成方針

初年次は、全教育課程を全うするために必要な学習諸要素を修得する機会を提供する。薬学専門科目を学ぶ基礎として的高大接続科目を初年次の初めに配置する。人文科学、社会科学、自然科学などの教養科目は低学年次に修得させる。

低学年次から高学年次にわたり医療専門職者としての意識づけや態度教育を行い、チーム医療科目やコミュニケーションに関する科目は複数年次にわたって継続的・発展的に編成する。専門科目はキャリアイメージを早期に確かなものとするために、初年次から開始し、段階的に能力を各年次において発展させるべく編成する。

薬剤師業務の基礎的知識、技能、態度が修得できるよう4年次に実務実習事前学習や共用試験を受験させ、その試験に合格後、5年次に5か月間にわたる薬局実務実習および病院実務実習を履修

する。4年次後半より研究室配属を行い、実験・研究を通じて問題解決能力、自己研鑽能力、後進を指導する意欲と態度を養成する。さらに、最終学年次には、6年間の学修内容を統合的に連携付けさせる総合演習科目を配当する。

実施方針

学習効率の向上および能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義・演習・自己学習の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習を積極的に取り入れる。技能・態度の修得を目的に、実習科目を取り入れる。さらに、授業科目に関連する医療施設・薬事衛生施設・企業の見学、学識経験者や薬害患者などの招聘講義、医療専門職者・模擬患者の授業参加を取り入れる。

成績評価方法

紙面での試験、レポート評価のほか、技能・態度の評価（形成的評価を含む）、ピア評価、口頭試問、プレゼンテーションなど多角的な視点で評価する。病院・薬局実務実習に関しては、技能・知識の評価に加えて、医療専門職者となるための心構えを含めた、マナー、積極性、探求心、協調性、社会的常識などの獲得に関しても評価する。研究実習・研究研修に関しては、研究活動、研究発表、研究論文に関するルーブリック評価表を作成して評価する。

②看護学部

教育目標

1. 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力および問題解決能力を身につける。
3. 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術および人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身につける。
4. 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身につける。
5. 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
6. 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。

1. 人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。
2. 地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備える。
3. 看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につける。
4. 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。
5. 看護の基本技術を的確に実施できる。

6. コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる。
7. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の特長および役割を理解できる。
8. 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる。
9. 地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる。
10. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した次の授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

1. 人間の多面的な理解を深めるための幅広い教養を身につける科目
2. 医療専門職者として人の価値観を尊重できる態度と倫理観を育む科目
3. 人間を取り巻く環境と健康に関わる医学・保健学・福祉学など近接学問領域の幅広い知識や技術を養成する科目
4. チーム医療に必要な知識と協働する力を養成する科目
5. 看護学における専門知識と基本技術を養成し、論理的思考力や問題解決力を身につける科目
6. 看護学の対象となる人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の専門科目
7. 国際的な視点から看護を探究し創造する力を育む科目

編成方針

教育課程を「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成する。

看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護をもとに、これらの内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成する。また、学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置する。

看護実践能力を効果的に育成するために講義・演習・学外実習を織り交ぜた授業形態で編成する。また、段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習を配置する。

実施方針

授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を積極的に取り入れる。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、模擬患者・当事者の授業参加による授業を取り入れる。

学内演習は、シミュレーション教育を取り入れ、シミュレーター人形の活用、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開する。

学外実習は、臨地において知識・技術・態度の統合を図るため、教員・臨床指導者の指導のもとに看護実践を展開する。

成績評価方法

成績評価方法は、筆記試験、レポート評価のほか、実技試験、学習態度の評価、ピア評価など多

角的な視点で評価する。学外実習に関しては、対象の理解、看護技術の確実性、倫理に基づく看護実践について評価する。さらに、学内演習・学外実習ではルーブリックを活用した評価を取り入れるなど測定方法の工夫を行っている。

③リハビリテーション学部

教育目標

1. 多様な文化や価値観を受け容れる地域的・国際的感覚、豊かな人間性、および人々の幸福と共生に奉仕する精神を身に付ける。
2. さまざまな医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携・協力できる総合的実践力を身に付ける。
3. 地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
4. リハビリテーションを実践するために必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解するための知識を身に付ける。
5. 効果的なりハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。
6. 医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身に付ける。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学部所定のカリキュラムを修了するとともに、以下の資質を身に付けた学生に卒業を認定し、理学療法学科では学士（理学療法学）、作業療法学科では学士（作業療法学）を授与します。

1. 人々の幸福と健康に貢献するために行動する人間力を身に付ける。
2. リハビリテーションを実践するために必要な、医学・医療・保健・福祉・行政などの知識を身に付ける。
3. 効果的にリハビリテーションを実践するために必要な、確かな技術を身に付ける。
4. チーム医療・地域医療を担う一員として、さまざまな専門職者と連携・協力できるコミュニケーション能力を身に付ける。
5. ICU（集中治療室）をはじめとする急性期から施設・在宅の生活期に至る幅広い対象者の問題に向き合う対応力を身に付ける。
6. さまざまな臨床的課題を解決できる総合的実践力を身に付ける。
7. 先駆的な研究・教育を展開できるように自分の能力を磨き、他者ととともに自己を高めていく能力を身に付ける。
8. 地域社会から国際社会に至る多様な文化や価値観を理解する豊かな人間性を身に付ける。

理学療法学科

理学療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、理学療法と人間の生体反応を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 運動器、神経系、内部障害に対する理学療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

作業療法学科

作業療法学を修め、以下の能力を修得する。

1. 自ら、作業療法と人間の生活活動や心身機能を結びつけて考えることができる臨床推論力を修得する。
2. 身体機能・精神機能・人間発達と関連づけて作業療法の知識と技術を理解し、個々の対象者に応じて適用できる応用力を修得する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」に準拠した授業科目と本学が独自に設定した授業科目を組み入れた特色あるカリキュラムを編成します。

理学療法学科

1. 理学療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 理学療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 理学療法を実践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な理学療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 理学療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な理学療法学へ発展させる能力を培う総合科目

作業療法学科

1. 作業療法士として必要な幅広い教養を培い人間性を育む科目
2. 作業療法士としての基本的態度を修得する科目
3. 作業療法を実践するために必要なひとを精神的・医学的に理解する科目およびさまざまな疾患・障害の知識を修得する専門基礎科目
4. 効果的な作業療法の実践に必要な専門知識と確かな技術を修得するための専門科目
5. 作業療法の専門的知識・技術を活かしチーム医療の中で連携・協力し合う能力を培う統合科目
6. 先駆的な作業療法学へ発展させる能力を培う総合科目

編成方針、実施方針、成績評価方法については、両学科共通です。

編成方針

初年次前期には、大学での全教育課程を全うし医療専門職者となるために必要な基本的要素を修得する。教養を身に付ける科目、専門基礎科目、専門科目を原則的には初年次から4年次まで段階的に学ぶ。理学療法士・作業療法士の職業イメージを確立するための専門科目（病院などでの学外実習を含む）、また、病院などで他職種と連携・協力し合う能力を培うためのチーム医療科目などは、初年次から4年次まで継続的に配置する。最終学年では、学修したすべての成果を総合し、卒業後も発展させていく能力を修得する総合科目を配置する。

実施方針

授業の実施形態としては、学修効率の向上、能動的学修態度の形成、コミュニケーション能力の育成などを目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習などの参加型学習（学生が主体的に学修する方法）を積極的に取り入れる。さらに、リハビリテーションに

関連する施設や企業等の見学、学識経験者などを招いての講義、障害のある人・模擬患者の授業参加を取り入れる。

成績評価方法

成績評価方法は、紙面での試験、レポート評価のほか、実技試験、学修態度の評価、ピア評価（学生同士の評価）など多角的な視点で評価する。学外実習では、理学療法士・作業療法士としての態度や人間関係のとり方、学修意欲についても評価する。

2) 大学院

①薬学研究科

教育目的

1. 薬剤師業務の質向上と変革を推進するために不可欠な高度研究能力、すなわち臨床現場における問題点を発見し、それを解決するために適切な研究計画を立案し、その成果を論文化できる能力を涵養する。
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展できる能力を涵養する。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 自立した薬学研究者として活動するために必要な専門的知識を有する。
2. 学術論文等から修得した医療薬学に関する最先端の知識を基に、他者の研究を理解し、かつ批判的に吟味できる能力を有する。
3. 医療の抱える問題点を自ら見出し、それに基づき検証可能な薬学的課題を設定する能力を有する。
4. 薬学的課題を解決するために必要な技能と意欲を有する。
5. 研究成果を論文などとして発表することができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

高度な研究能力を持つ医療専門職者、医療薬学における問題点を解決できる薬学研究者を養成するために、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・専門基礎科目：先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ
- ・専門演習科目：各専門演習Ⅰ・Ⅱ
- ・研究指導科目：医療薬学特別研究

編成方針

研究の実施に必要な基盤的な知識・技能・態度を修得させることを目的とする専門基礎科目や専門演習科目は低学年次に配置する。研究指導科目は、問題発見能力・課題設定能力・問題解決能力・情報発信力を含む幅広い研究能力を養成するための中心となる科目であるので、4年間にわたり配置する。

実施方針

コースワークとして実施される専門基礎科目や専門演習科目は、学生の広い視野を涵養するとと

もに学際的研究を可能にするため、本研究科の複数の教員が分担して実施する。リサーチワークとして実施される研究指導科目は、研究指導教員の指導の下に実施する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、薬学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、研究指導教員を除く複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、薬学研究科委員会で確認する。

②看護学研究科

教育目的

兵庫医療大学大学院看護学研究科は、建学の精神に則り、真に人々にとって必要とされる看護学の専門的知識・技術を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じて役割・機能を果たすことのできる看護専門職者を育成します。看護学研究科のモットーは、大学院生と教員・指導者とが学修の目標を共有し、一体となって学修を促進し、常に相互交流を通して互いに成長することを目指しています。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（看護学）の学位を授与します。

看護学基礎研究領域

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 医療・保健・福祉チームにおける連携・協働を促進する役割を果たすことができる。
3. 国際的な視野に立ち看護の課題に取り組む姿勢を有する。

看護学課題研究・高度実践領域（CNS）

1. 高い倫理観を基盤とした看護の高度な実践能力や研究者としての基礎的能力を有する。
2. 専門看護師（CNS）に求められる「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高適な倫理観」の6つの能力を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・看護学研究科共通科目
- ・看護学研究科専門科目

編成方針

1. 修士課程における共通科目は、科学的根拠に基づいた医療・保健・福祉に関連する専門的知識の修得と高度実践への応用、先進医療に関わる最新の情報と課題の修得を目的として1年次に

配置する。

2. 看護学研究科共通科目は、各看護学分野、および看護学基礎研究領域と高度看護学課題研究・高度実践の領域を超えて必要な専門知識と研究・実践能力の修得を目的として1年次に配置する。
3. 看護学研究科専門科目は、主要な概念・理論を探究する看護学特論、看護対象や援助の枠組みを探究する看護学援助特論、学内・臨地における体験を通じて専門的看護実践能力を高める看護学演習を配置する。
4. 看護学基礎研究領域では研究能力育成のために看護学特別研究を配置する。
5. 看護学課題研究・高度実践領域（CNS）では専門看護師としての看護実践能力・役割を修得するための実習および看護実践の質向上を探究する看護学課題研究をそれぞれ配置する。

実施方針

コースワークとして実施される共通科目や専門科目における講義科目は、学生の広い視野を涵養するとともに教育・研究者の育成および高度看護実践者の育成のため、双方向・多方向の講義形態を用いる。

リサーチワークとして実施される専門科目は、研究指導教員の指導のもとに実施する。研究課題の明確化と研究テーマの設定、研究計画に基づく実施データの分析と考察、論文の作成と公表を通じて、研究者となるに足る知識・技術・態度を修得する。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は、専門看護師としての高い専門性と優れた看護実践能力を修得するとともに、看護実践の質向上を探究する看護学課題研究を修得する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究成果論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、看護学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査委員会が公正な評価を行い、看護学研究科委員会で確認する。

③医療科学研究科

教育目的

兵庫医療大学大学院医療科学研究科は、建学の精神に則ると共に、本学リハビリテーション学部の学部教育を基盤として、リハビリテーション科学領域における研究の発展と高度実践専門職者の養成を目指しています。大学院生と教員・指導者とが学修目標を共有し、より高度な臨床実践能力を持つ専門職者の育成と、臨床場面での問題や課題を解決できる研究者の育成を目指しています。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

本研究科所定の単位を修得し、以下の目標を達成した学生の修了を認め、修士（医療科学）の学位を授与します。

・リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。

2. 臨床経験および先行研究をもとに、研究疑問を焦点化する能力を有する。
 3. 研究疑問を解決するための適切な過程を決定し、実施する能力を有する。
 4. 実施した研究を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
 5. 常にリハビリテーション科学および関連領域の先駆的知識を理解する姿勢を有する。
- ・リハビリテーション科学課題研究コース
1. リハビリテーション科学を究め、広めるために必要な知識および実践力の基礎的能力を有する。特に、研究倫理に関しては、十分な知識および高い倫理意識を有する。
 2. 臨床経験および先行研究をもとに、臨床的課題を焦点化し、その課題を解明する科学的根拠を推論する（臨床的推論）能力を有する。
 3. 臨床的推論に基づいて介入した症例を通して、介入前後の変化を客観的に評価する能力を有する。
 4. 臨床的課題を解明する過程を適切な文章、および、効果的なプレゼンテーションを用いて他者に説明する能力を有する。
 5. 常にリハビリテーションの臨床的課題を探求し解明しようとする姿勢を有する。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門性を重視した教育・研究者の育成および高度医療専門職の育成を目指し、以下の3つの科目でカリキュラムを編成します。

- ・修士課程における共通科目
- ・医療科学研究科専門基礎科目
- ・医療科学研究科専門科目

編成方針

- ・リハビリテーション科学研究コース
 1. 共通科目・専門基礎科目を主に1年次に配置する。
 2. 教育論（養成教育・臨床教育）、統計学等の研究者・教育者志向を目指した科目を2年次前期までに配置する。
 3. 在籍期間を通じて研究活動を展開する。
 4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。
- ・リハビリテーション科学課題研究コース
 1. 共通科目・専門基礎科目を1年次に配置する。
 2. 臨床能力向上を目的とした科目を2年次前期までに配置する。
 3. 在籍期間を通じて臨床研修ならびに課題研究を実施する。
 4. 社会人大学院生に配慮したカリキュラム編成をする。

実施方針

コースワークとして実施される共通科目、専門基礎科目ならびに専門科目は、学生の広い視野を涵養するとともに学生相互の意見交換を重視するため、双方向・多方向の講義形態を用いる。リサーチワークとして実施される研究科専門科目は、研究指導教員の指導を中心に、各研究領域に所属する全ての教員・大学院生を含めた意見交換を通じて実施する。

成績評価方法

成績評価は、授業・研究への積極的・能動的な取り組み姿勢と提出された成果物（レポート、研究論文など）の内容に基づいて科目責任者が行い、医療科学研究科委員会で確認する。学位の認定においては、複数の審査員から構成される学位論文審査会において公正な評価を行い、医療科学研究科委員会で確認する。

2. 教育課程

特記事項

本学では、平成19年の開学以来、学校法人兵庫医科大学の建学の精神に基づき、兄弟校である兵庫医科大学との緊密な連携のもと、医療専門職の育成を実践してきた。

開学10周年を迎え、今日まで作り上げてきた医療総合大学としての独自の教学体制を基盤とし、西日本を代表する特色ある医療総合大学への成長を推進するため、次の10年（開学20周年）で目指す目標を「HUHS VISION 20」として宣言した。（第1章参照）

1) 学部

①薬学部

概要

教育目標に掲げた「教養」と「倫理・人間性」、「コミュニケーション能力」、「基礎薬学的知識」、「医療薬学的知識」、「安全・衛生管理能力」、「実務能力」、「探求心」という主題の習得を目的に、第3章1に示すようにカリキュラム・ポリシーを設定している（平成28年10月改訂）。

カリキュラムにおける配当科目を大きく基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3分野にグループ分けし、専門分野はさらに基礎薬学（化学系）、基礎薬学（生物系）、衛生薬学、医療薬学、臨床薬剤学の5グループに分類されている。第1学年次に生物学、化学、物理学等の専門基礎科目を配置し、高学年次の専門科目への導入を行う。第2・3学年次は化学系基礎薬学科目、生物系基礎薬学科目、衛生薬学科目および関連実習科目を配置することで物質と生体に対する基本的理解を深め、第3・4学年次に医療系薬学科目を配置することで、領域内の個別項目に掲げられる一般目標の修得がスムーズに進むよう構成されている。

また、薬学部内では物理系、化学系、生物系、衛生薬学、薬理・薬治、薬剤・薬動、臨床薬学の教科専門部会に分かれ、それぞれの専任教員が専門領域に関するカリキュラムや講義の問題点を意見交換、情報共有および議論する場を設けている。

各授業科目の教育目標達成のために、講義、実験実習、チュートリアル学習と成果発表会、体験学習を組み合わせた実効的カリキュラムを構築し実施している。

科学的思考力の醸成に役立つ技能および態度を修得するため、基礎薬学、衛生薬学、医療薬学の各系科目に関連づけた計8科目の実験実習を第2～3学年次に実施しており、その中で科学的思考力と実験技能を養っている。

特記事項

- ・平成28年度より、学年別履修オリエンテーションにおいて冊子体のカリキュラム・ポリシーを配布して周知した。また、社会に対しては、カリキュラム・ポリシーは、本学ホームページに提示しており、「情報の公表」で公表している。
- ・平成28年度からは卒業の研究研修期間を概ね1年間確保するために、国家試験対策は、研究研修に割り当てられた時間割以外の時間帯でエクステンション・クラスとして実施した。

模擬患者養成事業

本学では近隣の住民の皆様のご協力を仰ぎ、模擬患者（Simulated Patients; 以下SP）になって頂いている。薬学部第4学年次生は「実務実習事前学習」の授業内で、学生はこれらのSPさんを相手に、患者接遇の実習を行っている。また、SPさんには薬学共用試験OSCE課題である患者接遇、情報提供の領域において標準SPとして参加して頂いた（平成28年度：60名、平成29年度：68名）。SPさんは平成20年度から毎年募集し、現在（平成30年3月）73名が登録している。平成28年度は13名、平成29年度は13名の薬学教員がタスクフォースとして実習、OSCEのためのSPおよび標準SP養成講習会を実施した。

②看護学部

概要

平成25年度から、学生の国際的な視野を育むために、「国際看護」を必修科目とし、また、アデレード大学看護学部との学術交流の実施など重点的に取り組んできた。また、増設した「看護研究セミナー」は、学生の主体的・創造的に看護を探究する力の育成に効果を上げている。また、保健師国家試験受験資格の取得は選択制（30名）とし、保健師育成のための教育課程・内容の充実化を図ってきた。国家試験の合格率からみてもその成果は得られている。

これまで看護学部は、カリキュラム検討委員会を常設し、教育の質担保・充実を図ってきた。

平成25年度に変更した教育課程の完成年度に合わせて、①学修進度にあわせた科目配置、②学修効果を考慮した専門科目の内容の見直しと科目配置、③年次ごとの科目・単位数の適正化の3つを変更方針としてカリキュラムの見直しを実施した。その結果、平成29年度より、看護学概論を看護学概論Ⅰ・Ⅱとし第1学年次、第4学年次に配当、公衆衛生学、健康教育論、国際医療福祉論、母性看護学概論、母性看護援助論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱ、基礎助産学、助産診断学Ⅰなどの科目の配当年次を変更した。さらに、平成29年10月に策定された看護学教育モデル・コア・カリキュラムに抱合される看護実践能力の修得を目指し、さらなる看護学教育の質保証を図るために、平成29年度もカリキュラムの自己点検・評価の検討を継続した。その結果、①自然科学の関連科目の見直しと充実、②多様な場における看護実践力育成のための基礎科目および専門科目の充実、③多職種連携に関する科目の増設、④多様性・国際化に対応するための語学教育の強化の4つに重点が置かれた変更（平成31年度変更予定）が検討された。

特記事項

- ・「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の3分野から構成し、看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護の内容を含んだ科目を効果的かつ体系的に編成している。
- ・学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと積み上がるように科目をバランスよく配置している。段階的・発展的に看護実践能力を学修できるように各年次に学外実習（基礎看護学実習から専門領域の実習へと）を配置している。
- ・各専門科目の演習では、看護過程を展開する事例検討を含み、臨地実習に向けて問題解決能力を高める既習の知識の統合化を図る内容を積極的に取り入れている。また、必要な看護技術を患者体験や視覚教材・モデル人形などを用いて、少人数グループ体制による演習を実施している。
- ・第4学年に3年までの臨地実習の振り返りを行い、それまでに学んだ内容の共有や学びの考察・今後（最終学年）の課題を明確にするグループワークを実施している。
- ・第4学年次の統合看護実習および研究セミナーの分野選択を同一分野とし、統合看護実習と研究

セミナーを関連させて実施している。統合看護実習の実習経験が研究疑問や研究テーマに繋がっていた。

③リハビリテーション学部

概要

リハビリテーション学部は、リハビリテーション専門職のうち、理学療法士を育成する理学療法学科と作業療法士を育成する作業療法学科を設置し、リハビリテーション学部ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に則り作成されたリハビリテーション学部カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）に沿った教育課程を構成している。

教育課程は、実践に役立つ医療人を育成するため、本学薬学部生・看護学部生とのボーダレスな環境で行われる「基礎科目」、本学3学部兵庫医科大学の学生も加えて実施されるチーム医療教育および学部単位で行われる医学系科目等の「専門基礎科目」、主に学科単位で行われる「専門科目」から成る。

教育課程全体を通して、医療人としての人間力の涵養を目的として、障害をもった方やその家族を積極的に授業に招聘している。「専門科目」の病院・施設における実習に関しては、全学年に学生の学習経験に応じた実習科目を配置し、学校法人兵庫医科大学関連施設をはじめとする近隣施設において実施している。また、長期実習（評価実習・総合臨床実習）に関しては、その質の向上、および、実習指導者と教員の実習指導における協働を促進することを目的として臨床実習指導者会議を開催し、実習指導者との連携を密にし情報共有を確実化している。さらに、研究を発展させる能力の基礎を育成するため、「専門科目」の理学療法研究法または作業療法研究法・卒業研究を必修としているほか、他の専門科目においても研究志向を涵養している。

また、正規の授業以外に、国際性の涵養を目的としての外部講師による「国際交流セミナー」を、学業に余裕のある4年次生にさらなる学習機会を与えることを目的としての兵庫医科大学病院での「医療チーム実習」（学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター主催）を、実施している。「医療チーム実習」は、感染対策、緩和ケア、褥瘡対策などのチームに、希望する4年次生が数日間参加する形態で実施している。

特記事項

- ・「医療チーム実習」には、リハビリテーション学部から、緩和ケアチームに3名、呼吸ケアチームに6名、計9名（理学療法学科2名、作業療法学科7名）が参加した。
- ・「国際交流セミナー」は、タイでの青年海外協力隊経験（講師：國谷昇平氏）、および、南アフリカの作業療法：最大の作業効果を求めて（講師：Lana van Niekerk、2018年世界作業療法学会実行委員）を実施し、それぞれ約80名の学生が参加した。

④共通教育センター

概要

共通教育センターは、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の基礎教育および一部の専門基礎教育を担当し、また、兵庫医科大学医学部との教育連携を図る目的で、本学の教育の中心的理念であるボーダレス教育を支える部署として開学時に設けられた。

本学の卒業生が将来、医療チームの一員として心の通った医療を提供するためには、それぞれの患者を理解できる人間性、社会人としての常識が必要である。また、高度化する医療技術と複雑化する各種疾病に対処するために、医療専門職者は自分の担当領域のみならず、幅広い知識を備える

ことが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学、スポーツ健康科学など多彩な基礎科目とともに、いくつかの専門基礎科目を修得する必要がある。これらの学びを支えるのが「共通教育センター」である。

本学では、開学以来、各学部での専門教育に加えて、学部の垣根を超えた連携教育を行っている。また、兵庫医科大学およびその関連施設と連携して、病態や治療に関する知識を教育するとともに、実習を通じて実践に役立つ医療人の育成を行っている。すなわち3学部合同、さらには兵庫医科大学医学部をも交えた4学部合同で学ぶチーム医療関連科目のコーディネートも共通教育センターの重要な役割である。センターが主として対象とする学生は第1学年次の学生であるが、後記のように一部は高学年次の学生も対象としている。

共通教育センターが中心となって行っている教育内容は、以下の通りである。

- (1) アカデミックリテラシー
 - (2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育
 - (3) チーム医療教育
 - (4) 早期臨床体験実習 (ECE)
 - (5) 各教員の専門とする基礎教養科目
- 以下、(1)～(4)の概要を記載する。

(1) アカデミックリテラシー

アカデミックリテラシーは平成25年度より新たに開設された科目であり、科目責任者である紀平教授を中心として、共通教育センター教員全員と一部の学内の学部教員および非常勤講師などの協力を得て、第1学年次前期金曜日の午後に全学部合同で実施された。その教育目標は、①将来の医療人としての勉学への動機づけ、②社会生活に必要なマナーの理解、③情報検索の方法の理解、④作文とレポートの違いの理解、⑤情報機器による情報伝達手段・表現手法の基礎の習得、⑥情報機器やインターネットのしくみの理解、⑦他人との議論を通じた問題探究の手法の習得等である。

(2) 高等学校教育から大学教育につなげるためのリメディアル教育

平成24年度までは、高等学校で理系科目の未履修者への支援科目として薬学部においてのみ、「物理学入門」と「生物学入門」が開講されてきた。平成25年度のカリキュラム改訂において、導入教育科目を全学部に提供し、科目の種類も「数理科学入門」「生物学入門」「化学入門」「計算演習」と自然科学の学びの基礎学力涵養のために、全分野をカバーするように整備した。さらに、平成27年度より、薬学部の導入科目の「生物学入門」・「化学入門」をそれぞれ「基礎生物学」「基礎化学」に科目名変更し、薬学部の学生の基礎学力のボトムアップの工夫を行った。

(3) チーム医療教育

全学部混成の合同教育は、本学のモットーである「チーム医療」教育を支える中心となっている。チーム医療に関する教育は、共通教育センターが主として対象とする初年次においてのみならず、第2学年次および第4学年次においても実施しており、第1学年次と第4学年次においては、3学部に加えて兄妹校である兵庫医科大学医学部生も加えた4学部合同で行われている。将来の薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医師が一同に会し、同一の課題症例について、それぞれの視点から調査・討論・発表するという、他職種候補生との交流を含めてチーム医療の学びを様々な

段階でレベルにあわせて経験できる、日本でも類を見ない教育を展開している。

(4) 早期臨床体験実習 (ECE)

医療専門職としての知識や技術を習得するにあたり、医療の実際に直接触れることによって、入院患者の生活や看護業務の現状、病院各部署の機能を知り、医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高揚させることを目指し、開学以来、3学部4学科の学生の混成グループを編成し、夏期休暇前の1週間の間（その週の連続した2日間）、兵庫医科大学病院（各病棟・薬剤部・リハビリテーション部）において早期臨床体験実習を実施してきた。平成28年度は、より早い時期に医療への目的意識、医療職者としての人格形成を涵養させるために、実施時期をこれまでより大きく変更して実施した（詳細は特記事項参照）。

特記事項

・アカデミックリテラシー

平成29年度は、大学での学修方法および学生生活に早期に慣れてもらうという目的から、入学直後の3日間（計12コマ）でまず集中的にアカデミックリテラシーの導入部分を実施した。また、ECEの実施時期の変更に伴い、6月の時間割を学生半数ずつに分けた2部編成で実施した。

・早期臨床体験実習

平成29年度は、実施時期を6月の金曜日の4週間にわたりECEを設定し、アカデミックリテラシーと裏表のカリキュラムを組んで、学生の半数ずつ（前半もしくは後半の2週の2日間）での医科大学での実習に変更した。その結果、真夏に実施していた過去の年度よりも、実習をスムーズに遂行することができた。

資料① 主要行事

| 2017年度（H29）行事予定 | | |
|---------------------------------|----------------|--|
| 【前期】 | | |
| 4月 | 3日（月） | アドバイザー懇談会 |
| | 3日（月）・4日（火） | オリエンテーション（第1学年次） |
| | 4日（火） | BLS講習会（第1学年次） |
| | 5日（水） | 入学式 |
| | 6日（木） | オリエンテーション（看護学部第2・3・4学年次） |
| | 6日（木） | // （リハビリテーション学部第2・3・4学年次） |
| | 6日（木） | <前期>授業開始（第1学年次） |
| | 7日（金） | オリエンテーション（薬学部第2・3・4・5・6学年次） |
| | 10日（月） | <前期>授業開始（第2・3・4・5・6学年次） |
| | 10日（月）～14日（金） | <前期>履修登録期間（第1・2・3・4・5・6学年次） |
| 7月 | 29日（土）～8月4日（金） | <前期>試験期間（第1・2・3・4・6学年次） |
| 9月 | 4日（月）～8日（金） | チーム医療演習（医学部との合同チュートリアル/第4学年次）【※場所：西宮キャンパス】 |
| | 11日（月）・12日（火） | チーム医療演習（第4学年次） |
| | 11日（月）～13日（水） | 早期臨床体験実習（医学部との合同チュートリアル/第1学年次） |
| 【後期】 | | |
| 9月 | 22日（金） | <後期>授業開始（第1・2・3・4・5・6学年次） |
| | 22日（金）～28日（木） | <後期>履修登録期間（第1・2・3・4・5・6学年次） |
| 10月 | 8日（日）・9日（月） | 大学祭（第10回海鳥祭） |
| | 10日（火）～13日（金） | <後期>履修登録期間（リハビリテーション学部理学療法学科第3学年次） |
| | 23日（月）～27日（金） | // （リハビリテーション学部作業療法学科第3学年次） |
| 11月 | 22日（水）※授業日 | 学校法人兵庫医科大学創立記念日 |
| 12月 | 3日（日） | 薬学共用試験 OSCE（薬学部第4学年次） |
| | 19日（火） | // CBT（薬学部第4学年次） |
| | | 【※ 薬学部第4学年次<後期>日程は、共用試験の都合により変更することがある。】 |
| 1月 | 25日（木）～31日（水） | <後期>試験期間（看護学部・リハビリテーション学部第3学年次除く） |
| 3月 | 15日（木） | 学位授与式 |
| ※ 以下については祝日授業日のため、カレンダーに注意すること。 | | |
| | | 11月3日（金）、11月23日（木） |
| | | 兵庫医療大学 |

資料② 授業科目数

| 学部 | 学科 | 授業科目の総数 | 基礎分野 | 専門基礎分野 | 専門分野 | 卒業要件 |
|-------------|--------|---------|--|----------------|-------------------|---------|
| 薬学部 | 医療薬学科 | 146科目 | 必修25単位、選択6単位以上（うち選択必修2単位を含む。） | 必修12単位 | 必修146.5単位、選択5単位以上 | 194.5単位 |
| 看護学部 | 看護学科 | 117科目 | 必修16単位、選択10単位以上（うち「人間と言葉」から2単位以上、「人間と言葉」以外から8単位以上） | 必修26単位、選択5単位以上 | 必修68単位、選択5単位以上 | 130単位 |
| リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 95科目 | 必修22単位、選択8単位以上（うち選択必修2単位を含む。） | 必修34単位、選択1単位以上 | 必修64単位 | 129単位 |
| | 作業療法学科 | 102科目 | 必修22単位、選択8単位以上（うち選択必修2単位を含む。） | 必修36単位、選択1単位以上 | 必修65単位 | 132単位 |

※平成29年度の学則に基づく

2) 大学院

①薬学研究科

概要

薬学研究科の教育課程の特徴は、高度な研究能力を身につけた薬剤師、医療薬学における問題点を基礎薬学の手法を用いて解決することのできる研究者を養成するために、基礎薬学から医療薬学に至るまで幅広く学ぶことができることである。さらに兵庫医科大学大学院および兵庫医科大学病院との協力関係を活かして、お互いのセミナーや講演会に積極的に参加しあって、知識・研究手法・シーズを交換し、さらに兵庫医科大学大学院の各研究室や兵庫医科大学病院と共同研究を行う事を通じて、医学・薬学全般を幅広く見渡せる薬学研究者を養成する教育を行う。平成28年度、初めて2名の博士号取得者を輩出した。

教育課程全体は、専門基礎科目、専門演習科目および研究指導科目で構成される。

専門基礎科目4単位、専門演習科目から8単位以上選択、研究指導科目18単位の計30単位以上の履修が修了要件である。

(1) 専門基礎科目

専門基礎科目として、医学・薬学全般にわたる最新の知見を各分野の専門家が紹介する共通のオムニバス科目を先端医薬学特論I~IV、各1単位、計4単位を全必修科目として開講する。

(2) 専門演習科目

この科目は研究の遂行に必要な基盤的および先端的な知識・技能・態度を修得するための演習科目である。研究遂行に必要な知識・技能・態度を早期に修得するため、各専門演習I・IIとしてそれぞれ第1学年次、第2学年次に各4単位、計8単位の選択必修科目として開講する。外国文献の抄読会、自分の研究テーマに関するレビュー、自分の研究課題の進捗状況のプレゼンテーション等を通じて、他者の研究を正當に評価する能力や研究の進捗状況をプレゼンテーションする技能の獲得を目標とする。

(3) 研究指導科目

この科目は大学院博士課程の中心をなす科目である。研究指導科目として4年間で18単位の全必修科目として開講する。テーマの探索・設定、研究内容・計画の策定、研究の実施、研究成果の取りまとめ・公表を通じて、独立した研究者となるに十分な知識・技能・態度を修得する。

②看護学研究科

概要

科学的根拠に基づく高い専門知識と看護実践への応用を教授する研究科共通科目については、本学3学部と共通教育センター、さらに兵庫医科大学医学部・兵庫医科大学病院の協力を得て、本学の教育環境の特色を反映し、連携・協働を促進する教育体制をとっている。また、看護学共通科目(看護研究除く)については、学外の看護実践者・教育者の協力を得て教育の充実を図っている。各専門分野の理論的基盤となる講義科目および研究科目は、専門分野の豊富な教育・研究業績を有する教授・准教授を中心に担当している。専門的看護実践能力を高める演習・実習科目については臨床経験や研究業績に合致した講師・助教が加わる等、手厚い教育・指導体制をとってきている。

また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師(CNS)養成は専門分野の臨床経験および教育経験豊富な教授・准教授が担当している。特に卓越した看護実践と専門看護師の相談・教育・調整等の役割を果たす能力の育成は、各分野の資格を取得し活躍中の専門看護師が非常勤として教育にあたる体制を整えている。

複数教員からの指導・助言を受けることで研究計画の完成度を高める事を目的として、第1年次後期に「中間報告会」を3回にわたり開催している。

主査副査教員による研究指導強化のため、研究計画書の倫理審査から第2学年次後期の修士論文指導に至るまで同一教員による指導の継続性を図っている。

③医療科学研究科

概要

学校法人兵庫医科大学の建学の精神、兵庫医療大学の教育理念のもとに、科学的思考に支えられた高度な実践力の獲得を目指して、チームを形成して活動する力を養い、リハビリテーション医学・医療に貢献できる人材を育成する。

医療科学研究科では、病態運動学分野と人間活動科学分野を設置し、それぞれの分野において研究志向の強い大学院生はリハビリテーション科学研究コースを、高度実践専門職者を志向する大学院生にはリハビリテーション課題研究コースを開設している。それぞれのコースの詳細は表1のとおりである。いずれのコースにおいても、医療機関などに在職した社会人に配慮して、平日夜間および土日の開講や研究指導を行っている。

資料① 主要行事

2017（平成29）年度 大学院

【前期】

| | |
|-----------------|----------|
| 入学式 | 4月5日（水） |
| オリエンテーション | 4月5日（水） |
| 前期授業開始（薬学研究科） | 4月8日（土） |
| 前期授業開始（看護学研究科） | 4月15日（土） |
| 前期授業開始（医療科学研究科） | 4月8日（土） |
| 前期授業終了（薬学研究科） | 7月22日（土） |
| 前期授業終了（看護学研究科） | 9月23日（土） |
| 前期授業終了（医療科学研究科） | 9月23日（土） |
| 秋季学位授与式 | 9月16日（土） |

【後期】

| | |
|-----------------|-----------|
| 後期授業開始（薬学研究科） | 9月9日（土） |
| 後期授業開始（看護学研究科） | 9月30日（土） |
| 後期授業開始（医療科学研究科） | 8月26日（土） |
| 法人創立記念日 | 11月22日（水） |
| 後期授業終了（薬学研究科） | 2月24日（土） |
| 後期授業終了（看護学研究科） | 12月21日（木） |
| 後期授業終了（医療科学研究科） | 2月4日（日） |
| 学位授与式 | 3月15日（木） |

※授業時間表

| | |
|------|----------------------|
| 第1時限 | 9時30分～11時00分 (90分間) |
| 第2時限 | 11時10分～12時40分 (90分間) |
| 第3時限 | 13時40分～15時10分 (90分間) |
| 第4時限 | 15時20分～16時50分 (90分間) |
| 第5時限 | 17時00分～18時30分 (90分間) |
| 第6時限 | 18時40分～20時10分 (90分間) |
| 第7時限 | 20時20分～21時50分 (90分間) |

資料② 授業科目数

| 研究科 | 授業科目の総数 | 修了要件単位数 |
|---------|---------|---|
| 薬学研究科 | 23科目 | 30単位以上 |
| 看護学研究科 | 129科目 | 看護学基礎研究領域 32単位以上 看護学課題研究・高度実践領域 42単位以上 |
| 医療科学研究科 | 39科目 | 32単位以上 |

3) 職業実践力育成プログラム (BP)

①地域在宅看護実践力育成プログラム

概要

要介護度が高く、医療的なケアを必要とする人でも、最期まで住み慣れた地域で安心して暮らせるような社会を目指し、複雑で多様な状況を見極められる看護専門職能力と一般地域住民の地域力を向上させることができる能力を育成するために、「看護倫理」「アドバンスド・フィジカルアセスメント」「ベストプラクティス実践」「在宅看護ケア実践」の4科目を配置している。地域で暮らす生活者を看護の対象とすることから、小児期から老年期に至るすべての成長発達段階、病院から在宅および地域にわたるすべての療養・生活場所における看護ケアを網羅するために、看護学研究科全領域の教員が当該科目を担当している。

本プログラムでの学びを受講生が実践で即活用できるように、事例ディスカッションをはじめとする双方向的授業を取り入れている。

特記事項

- ・外部評価委員を交えた意見交換会を年1回開催し、講義内容の報告と受講生からの評価、今後の課題等について検討している。

②PT・OT臨床カステップアッププログラム

概要

より質の高い理学療法・作業療法が求められる今日、理学療法士・作業療法士の臨床力の向上は、社会の強い要請となっています。

本プログラムでは、新人教育を終えた理学療法士・作業療法士の次のステップとして、より高度な専門的観点を持ち、臨床場面において、患者・対象者の状態に応じた高度な臨床推論の展開、適切な治療プログラムの提供ができる能力を育み、多職種連携の中でリーダーシップが発揮出来る能力の育成を目的としています。

特記事項

本プログラムは、兵庫医療大学大学院医療科学研究科の課題研究コースを基盤としており、当該コースの開講科目を中心としたカリキュラムを編成しています。大学院でのカリキュラムに、BP独自の学習内容を加えたプログラムを履修証明プログラムとして提供するものです。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしています。

③リハビリテーション科学課題研究コース

概要

本学大学院教育の目的のひとつとして、高度専門職養成をあげている。課題研究コースは、学術研究に専念する大学院教育とは異なり、臨床力の向上を主たる目的としたコースであり、臨床研修の実施、ならびに臨床研修で経験した症例等について課題研究論文としてまとめることで、修士の学位を授与するコースである。

特記事項

臨床的知識・技術を積極的に高めたい人を対象に、専門領域別の特論、特論演習ならびに課題研究を行うコースである。さらに、院生の「修得したい臨床能力」と「臨床研修施設」のマッチングについて、適格と認められた施設において、臨床研修ならびにコースワークを実施し、学びの一連の成果を課題研究論文としてまとめ、修士の学位審査を行うものである。

また、本プログラムは、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、NPO法人全国在宅リハビリテーションを考える会と連携し、より実践的・専門的な教育プログラムを提供していくことをめざしている。

資料① 主要行事

| 2017（平成29）年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|------|--------------------|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|------|---------------------|
| 職業実践力育成プログラム（BP） | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【前期】 | | | | | | | | | | | | | | | |
| オリエンテーション | 4月 9日（日） | | | | | | | | | | | | | | |
| 前期授業開始（医療科学研究科 PT・OT臨床カステップアッププログラム） | 4月 9日（日） | | | | | | | | | | | | | | |
| 前期授業開始（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム） | 4月30日（日） | | | | | | | | | | | | | | |
| 前期授業終了（医療科学研究科 PT・OT臨床カステップアッププログラム） | 9月 8日（金） | | | | | | | | | | | | | | |
| 前期授業終了（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム） | 9月17日（日） | | | | | | | | | | | | | | |
| 【後期】 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後期授業開始（医療科学研究科 PT・OT臨床カステップアッププログラム） | 8月26日（土） | | | | | | | | | | | | | | |
| 後期授業開始（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム） | 10月14日（土） | | | | | | | | | | | | | | |
| 後期授業終了（医療科学研究科 PT・OT臨床カステップアッププログラム） | 2月 4日（日） | | | | | | | | | | | | | | |
| 後期授業終了（看護学研究科 地域在宅看護実践力育成プログラム） | 3月10日（土） | | | | | | | | | | | | | | |
| ※ 授業時間表 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tbody> <tr> <td>第1時限</td> <td>9時30分～11時00分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第2時限</td> <td>11時10分～12時40分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第3時限</td> <td>13時40分～15時10分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第4時限</td> <td>15時20分～16時50分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第5時限</td> <td>17時00分～18時30分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第6時限</td> <td>18時40分～20時10分（90分間）</td> </tr> <tr> <td>第7時限</td> <td>20時20分～21時50分（90分間）</td> </tr> </tbody> </table> | | 第1時限 | 9時30分～11時00分（90分間） | 第2時限 | 11時10分～12時40分（90分間） | 第3時限 | 13時40分～15時10分（90分間） | 第4時限 | 15時20分～16時50分（90分間） | 第5時限 | 17時00分～18時30分（90分間） | 第6時限 | 18時40分～20時10分（90分間） | 第7時限 | 20時20分～21時50分（90分間） |
| 第1時限 | 9時30分～11時00分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第2時限 | 11時10分～12時40分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第3時限 | 13時40分～15時10分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第4時限 | 15時20分～16時50分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第5時限 | 17時00分～18時30分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第6時限 | 18時40分～20時10分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第7時限 | 20時20分～21時50分（90分間） | | | | | | | | | | | | | | |

資料② 授業科目数

| BP | 授業科目の総数 | 修了要件単位数 |
|----------------------|---------|---|
| 地域在宅看護実践力育成プログラム | 4科目 | 必須4科目（各2単位）の合計8単位 |
| PT・OT臨床カステップアッププログラム | 11科目 | 必須6科目（7単位）と選択1科目（各1単位）以上の8単位以上 |
| リハビリテーション科学課題研究コース | 39科目 | 看護学研究科・医療科学研究科共通科目2単位以上、医療科学研究科専門基礎科目14単位以上、専門科目8単位、研究指導8単位を履修し、「リハビリテーション科学研究論文」を作成し、最終試験に合格 |

3. 教育方法（学習指導、シラバス、成績評価・単位認定）

1) 学部

①薬学部

特記事項

教育方法

- ・設立当初から教育においても「チーム医療」と「ボーダレス」をモットーにして高度医療人育成を目標にカリキュラムも作成してきた。その中で早期臨床体験学習に関しても2種類の見学・体験実習を実施している。ひとつは、全学部第1学年次の必修科目「早期臨床体験実習」の中で実施している兵庫医科大学病院における臨床体験実習であり、もうひとつは薬学部第1学年次の必修科目「新・薬学入門I」の中で実施している薬局・病院早期体験学習である。

- ・学生の学力を把握するための様々な制度が確立しており、学生個々のレベルに応じた細やかな指導に注力している。第1学年次の理科系科目（化学・物理・生物）では、学生のレベルに合わせた講義が行われており、専門教育が履修できるレベルまで基礎学力を向上させるための方策が実施されている。
- ・理科系科目の学力向上を目指した教育プログラムは入学前から実施されており、専門科目の開講時期と連動している一方、入学前準備教育講座の参加率が40%程度に留まっているため改善の余地がある。29年度からは、入学前準備教育に課題提出とスクーリングを取り入れ、薬学部教員がフィードバックする機会を設定することを予定している。
- ・研究成果報告書の作成要領に基づいた卒業論文の作成を、平成26年度の第6学年次から必須化している。
- ・卒業論文評価用ルーブリックをオリエンテーション時に開示するとともに、研究成果の医療や薬学における位置づけ、これから解決すべき問題点、今後の展望等について記載することも明文化した作成要領に基づき、平成28年8月末までに卒業論文を作成させた。
- ・卒後教育・生涯教育を企画・運営するための組織として、薬学部内に生涯教育ステーション運営委員会（旧：キャリアエクステンション委員会）がある。同委員会は、平成26年5月よりキャリアエクステンション委員会として活動を開始し、平成28年度は、4月と10月に本セミナーを開催した。これらのセミナーは、本学卒業生など現場薬剤師に対する催しであったが、本学部生にも授業前などに開催を案内し参加を促した結果、4月の学内講演会では参加者88名中学生は68名（昨年度1名）、10月のワークショップでは大阪市で開催したにもかかわらず参加者61名中学生は7名（昨年度1名）の参加があった。

成績評価・単位認定

成績評価は、兵庫医療大学教育要項の「成績の評価方法」の項目に各科目の成績評価の具体的方法を明記しており、その記載に従って公正かつ厳格に行われている。実習については、参加態度、レポートなどで、複数の教員が評価している。体育など実技、文学/芸術、実践語学、実学関連科目については、参加態度、課題解決能力、レポート、プレゼンテーションなどに重きを置いた評価を行っている。参加態度、問題解決能力、総合的な学習成果の測定に関して、ルーブリック評価を採用している科目もある。その他の科目については、概ね、定期試験結果を重視した評価が行われているが、科目責任者によっては、参加態度、小試験（平常の成績）または中間試験や課題レポート内容などを加味し、総合的に評価している。

やむを得ない事情で定期試験を受けられなかった学生には、追試験を行っている。また、定期試験で不合格となった学生に対しては、科目責任者の判断で再試験を実施している。再試験を行わない科目については、「再試験無」とシラバスに記載し、学生に周知している。

成績評価の結果は、実習を含めた全ての科目について、前期、後期の試験期間終了後に、Web上で、初期評価と最終評価の2段階で発表している。初期評価では、定期試験（本試験）の可否と、再試験を行う場合は、資格の有無を告知している。

②看護学部

特記事項

- ・シラバスは全学的に統一した書式で作成し、学生にWebで公開されている。シラバスの内容に関する第三者チェックも看護学部教育委員と学部長で実施している。そのシラバスに沿って授業が進められている。成績評価方法・基準もシラバスに明示されている。

- ・看護学部では、講義、演習、実習の授業形態で授業は行われている。授業は、学習効率の向上、および、能動的学習態度の形成、コミュニケーション能力の育成等を目的として、講義の他に、グループ学習、問題基盤型学習、チーム基盤型学習など参加型学習方法を取り入れている。さらに、授業科目に関連する学識経験者などの招聘講義、当事者・模擬患者の授業参加を取り入れている。
- ・学内演習は、モデル人形およびシミュレーター人形を活用、学生が模擬患者となる、模擬病室（実習室）の設置などにより積極的に実践的学習方法を展開している。授業時間外の看護技術練習の人的・物理的整備とともにナーシングスキル（オンラインツール）を整備し自主的な学修促進と教員の丁寧な看護技術指導を実施している。
- ・学外実習は、臨地実習部会という委員会を常設し、学部の学外実習全般の企画・実施および恒常的に検証を行い改善につなげてきた。29年度も同様に、臨地実習部会は実習要項の作成、ガイダンス・事前学習・事前技術演習などにより学生の実習に向けての準備を促し、実習に関する実習施設との調整および実習施設における実習指導者との研修などを担当した。平成29年度の入学者の増加に伴い、臨地実習体制の見直しを図った。
- ・臨地実習後の学生に実習を振り返るリフレクション（第4学年次）を実施することで「主体的に学ぶために必要な態度や能力」「他者を尊敬し信頼できる力」「良好な人間関係をたもつ力」を育成している。またリフレクションブックの活用によりその効果を高めている。
- ・履修指導は、学生個々の学習・生活相談に応じるためのクラス担任（学年アドバイザー）制度を設けており、平成27年度から、早期に大学生活に慣れ、学生各自が学習習慣を形成できるようにするために、初年次に手厚い学生支援が必要であるとの考えから第1・2学年次クラス担任を8名、第3・4学年次クラス担任4名を配置してきた。平成29年度も継続した。さらに、学年アドバイザーは、その年の目標を設定、それを学生と共有し、学年度末にはその評価を行いながら、生活面・学習面の相談に応じている。もし、学生の生活面・学習面に問題が生じた場合には速やかに学年アドバイザー主任に報告する。学年アドバイザー主任は学生委員、教育委員との連携に対応し、必要時には学部長に報告するという手続きに則って役割を遂行している。
- ・学生支援の一環として、看護学部内保護者会担当委員を中心に保護者会の企画運営を行っている。年1回の「定期総会および保護者懇談会」においては、保護者間や保護者と教員との交流を深め、大学側への要望等を汲み取るとともに「保護者・学生」とともに大学を運営する意識を高めている。
- ・国家試験については国家試験研究会（教員部会）を常設し、各年次クラスから選出された学生部会の年間活動をサポート、これまでの国家試験問題の傾向分析、学修支援などを行っている。学生の学修方法の指導や学習意欲の維持などに積極的に取り組み、よい成果を上げ続けている。
- ・前期・後期毎に、学生への授業、実習に対する評価アンケートを実施し、恒常的に自己点検・評価を行っている。その結果を看護学部教員が共有し、改善につなげている。特に、3年次後期の半年にわたる学外実習では、クールごとに結果を集計し、問題・課題がある場合は直ぐに当該教員、看護学部として対応している。
- ・平成29年度の看護学部FDとして「授業設計と指導案」のテーマによる看護教育の専門家による講義、平成29年後期・平成30年度前期の1年をかけて、教員間の授業参観・意見交換をすることを企画・実施することで、各教員の教育方法の見直しと教育力向上に取り組むことができている。

③リハビリテーション学部

特記事項

(学習指導)

- ・理学療法学科・作業療法学科とも、原則として各学年2名の担任を置いている。

- ・毎週学科単位で開催される学科ミーティングおよび適宜開催される学科会議において学科の全教員が学生に関する情報を共有し、教育面に限らず、学生に関して個別、グループ、あるいは全体に対してなんらかの対応が必要な状況を的確に把握し、迅速かつ適切に対応している。
- ・各教員は全学方針に則り、オフィスアワーを設けその時間帯を公表しているが、学生はオフィスアワーに限らず、学業に関する質問やキャリア・学生生活その他に関する相談など、自由に教員の研究室を訪ねており、教員は個別に適切な対応を行っている。
- ・学生の学年間交流を深め、学生の学習効率を高めることを目的として、学習の場での学年間の交流を促進している。

(シラバス)

- ・次年度のシラバス作成時に、「次年度学部授業シラバスの確認事項－当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に－」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会に報告している。
- ・作成されたシラバスは、全学システムに則り、学部教育委員および学部長が点検・確認し、全学的な点検・確認システムに挙げている。

(成績評価・単位認定)

- ・成績評価・単位認定に関しては、兵庫医療大学学則および兵庫医療大学教務に関する規程に則り、また、全学教育委員の方針に準じて、厳正に実施している。
- ・平成29年度後期から、学部教員が科目責任者を担当する授業科目において、単位認定をより厳格に行うシステムを導入した。具体的には、単位認定において不合格とする場合、当該科目に精通する第三者が不合格に至る過程を確認し、さらに、科目責任者の職位が第三者より高い場合は科目責任者と同等あるいはより高い職位の第三者も確認に加わることにした。

④ 共通教育センター

特記事項

共通教育センターの教育の特徴は、授業体系で可能なものについては、ボーダレスな環境で実施する、つまり3学部合同（一部は医科大学と連携して4学部合同）で教育を行う点にある。特にチーム医療関連科目（合同チュートリアル・早期臨床体験実習）は、医療総合大学としての本学独自の特色ある教育であり、目覚ましく進歩する医療情報や技術を鑑み、最新の教育技法を取り入れた教育の方法の改善につとめた。

以下、合同チュートリアルおよび早期臨床体験実習での平成28年度の新たな取組みを概説する。

(1) TBLおよびPBLを併用した4学部合同チュートリアルの実施

平成29年9月11日から9月13日の3日間、本学に兵庫医科大学医学部第1学年次約120名を迎え、本学の3学部学生約370名とあわせて総計約490名で実施された。全学生を学部混成の60グループに分け、予め配布した予習資料にもとづいて最初にI-RAT（個人試験）およびG-RAT（個人試験）を実施した。特にG-RAT実施の際はクリッカー（リアルタイムレスポンス・アナライザー）を利用することにより、学生の理解度の把握と解説への改善に工夫した。その後突然の妊娠を告げられた女性の悩みに関するオリジナルのシナリオをもとに、2日間グループ討議し、3日目の発表会でグループ学習の成果を発表した。その際の2日間のグループ討議には上級生（第4学年次）にも「チーム医療論演習」の授業の一環としてチューター業務（後輩の指導）を課し、受け身ではなく指導者としての経験を積む貴重な機会を持たせた。

(2) 早期臨床体験実習の実施時期変更および薬剤部・リハビリテーション部の見学の実施

より早い時期に医療への目的意識、医療職者としての人格形成を涵養させるために、これまで夏期休暇前の1週間に集中的に実施してきた早期臨床体験実習を、平成29年度は6月の金曜日の4週間にわたり、アカデミックリテラシーと裏表のカリキュラムを組んで実施した。また過去数年間、病院の薬剤部とリハビリテーション部については講義室での説明のみで、実際の見学を見合わせていたが、平成28年度は各部署の理解・協力により、説明後に実際の該当部署の見学が復活し、すべての学生が他の医療職の現場を見学できる貴重な体験ができた。

2) 大学院

①薬学研究科

特記事項

博士課程教育の中核は「研究指導科目」の履修と博士論文の作成である。「研究指導科目」の選択については、受験前の事前相談における指導教員との意向確認を踏まえ、指導教員からの履修指導において相談のうえ決定する。博士論文の作成のため、第1学年次は7月に、第2～4学年次は4月末に研究計画書を提出し研究を行う。その途中経過を毎年度末に研究結果報告書として提出する。すべての単位を取得し、博士論文が完成すれば、指導教員の承認を得て、原則として第4学年次後期に学位を申請する。ただし、優れた研究業績を上げた者については、第3学年次後期に行うことができる。博士論文発表会を行い、最終試験を受験し、その両者に合格すれば博士（薬学）が授与される。

②看護学研究科

特記事項

看護学研究科において、学生への教育・研究指導および環境の充実を図るため、到達度の自己評価を自己記入式調査で、カリキュラムに関する評価を面接にて毎年調査している。昨年度の検討課題である、修士課程生とBP受講生（医療科学研究科含む）が合同で履修する科目において、到達目標の設定のばらつきや演習で経験したい技術の違いに対して、看護学課題研究・高度実践領域（専門看護師養成）の大学院生用の授業を追加開講することになった。

就業状況下において予定期限内に修士課程を修了するための方策として、主査教員に加えて副査教員も研究計画書の作成とデータ分析および論文作成の要所においてかかわることで、当該年度修了予定者全員が学位取得に至った。

③医療科学研究科

特記事項

医療科学研究科では、病態運動学分野は3つ、人間活動科学分野は2つの研究領域に分かれ、その専門の教員が配置されており、きめ細やかな研究指導を行っている。また、毎月開催される研究科委員会において、研究科内における様々な事項に関する情報共有を行い、大学院生の支援を行っている。大学院生は全員社会人であり日中はそれぞれ勤務しているため、オフィスアワーは夜間帯および週末に設定し、各大学院生に合わせて個別に対応できるようにしている。

3) 職業実践力育成プログラム (BP)

①地域在宅看護実践力育成プログラム

特記事項

受講生に対して実施したプログラムの評価アンケートから、4科目を通して新たな知識と技術を習得することで、今までの自身の行動や考え方を変化させる必要性と可能性を感じ、具体的な自身の活動目標を持つことをできたことがうかがえた。一方、現職の業務の都合による就学の難しさや就学資金の確保などの課題があることも明らかになった。そこで就学資金の支援として専門実践教育訓練給付制度（厚生労働省）による給付制度を導入した。

②PT・OT臨床カステップアッププログラム

特記事項

本学の学部卒業生1名を含む7名が受講し、7名がプログラムを修了することができた。そしてプログラム修了生の中から1名が大学院医療科学研究科へ進学した。

受講生からのアンケート結果から、概ねプログラムに対する満足な感想が得られ、臨床力のアップにつながったものと思われる。また本プログラムに協力頂いている日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、全国在宅リハビリテーションを考える会の外部委員の方々との意見交換会において、本プログラムの現状を報告し、今後の改善点などを話し合った。

③リハビリテーション科学課題研究コース

特記事項

本コースによる受講者はいなかった。

4. 成果（学位授与等）

1) 学部

学位授与数

| 学部学科 | 学位授与数 |
|-------------------|-------|
| 薬学部医療薬学科 | 139 |
| 看護学部看護学科 | 89 |
| リハビリテーション学部理学療法学科 | 42 |
| リハビリテーション学部作業療法学科 | 43 |

①薬学部

CBT（Computer-based Testing）結果

CBT：知識および問題解決能力を評価する客観試験（合格基準：正答率60%以上）

| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
|------|------|------|-------|
| 本試験 | 154 | 141 | 91.5% |
| 追再試験 | 13 | 2 | 15.3% |

OSCE（Objective Structured Clinical Examination）結果

OSCE：技能および態度を評価する客観的能力試験（合格基準：課題ごとに、細目評価70%以上、概略評価5以上）

領域：患者・来局者応対、薬剤の調製、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供

| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
|-----|------|------|--------|
| 本試験 | 154 | 153 | 99.3% |
| 再試験 | 1 | 1 | 100.0% |

薬剤師国家試験結果

第103回 薬剤師国家試験

試験日：平成30年2月24日（土）～2月25日（日）

合格発表日：平成30年3月27日（火）

| | 新卒 | | | 既卒 | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本学 | 138 | 69 | 50.0% | 96 | 46 | 47.9% |
| 全国 | 8,606 | 7,304 | 84.9% | 4,577 | 2,151 | 47.0% |

②看護学部

看護師国家試験結果

第107回 看護師国家試験

試験日：平成30年2月18日（月）

合格発表日：平成30年3月26日（火）

| | 新卒 | | | 既卒 | | |
|----|--------|--------|--------|-------|-------|--------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本学 | 89 | 89 | 100.0% | 1 | 1 | 100.0% |
| 全国 | 57,929 | 55,764 | 96.3% | 6,559 | 2,918 | 44.5% |

保健師国家試験結果

第104回 保健師国家試験

試験日：平成30年2月16日（金）

合格発表日：平成30年3月26日（火）

| | 新卒 | | | 既卒 | | |
|----|-------|-------|-------|------|------|-------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本学 | 20 | 18 | 90.0% | | | |
| 全国 | 7,675 | 6,572 | 85.6% | 516 | 94 | 18.2% |

助産師国家試験結果

第101回 助産師国家試験

試験日：平成30年2月15日（木）

合格発表日：平成30年3月26日（火）

| | 新卒 | | | 既卒 | | |
|----|-------|-------|--------|------|------|-------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本学 | 7 | 7 | 100.0% | | | |
| 全国 | 2,087 | 2,074 | 99.4% | 143 | 127 | 88.8% |

③リハビリテーション学部

理学療法士国家試験結果

第53回 理学療法士国家試験

試験日：平成30年2月25日（日）

合格発表日：平成30年3月27日（水）

| | 新 卒 | | | 既 卒 | | |
|-----|--------|-------|--------|-------|------|-------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本 学 | 42 | 42 | 100.0% | | | |
| 全 国 | 11,033 | 9,679 | 87.7% | 1,115 | 206 | 18.5% |

作業療法士国家試験結果

第53回 作業療法士国家試験

試 験 日：平成30年2月25日（日）

合格発表日：平成30年3月27日（水）

| | 新 卒 | | | 既 卒 | | |
|-----|-------|-------|-------|------|------|-------|
| | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 本 学 | 43 | 41 | 95.3% | 1 | 0 | 0% |
| 全 国 | 5,289 | 4,506 | 85.2% | 875 | 279 | 31.9% |

2) 大学院

学位授与数

| 研究科 | 学位授与数 |
|---------|-------|
| 薬学研究科 | 3 |
| 看護学研究科 | 9 |
| 医療科学研究科 | 8 |

①薬学研究科

博士論文一覧

| 領 域 | 論文題目 | 著 者 |
|-------------------|---|-------|
| 臨床ゲノム・ 分子薬物動態学 | Therapeutic response to Paroxetine in major depressive disorders predicted by DNA methylation | 竹内 直博 |
| | 大うつ病におけるパロキセチン治療反応性予測のための全ゲノム網羅的DNAメチル化解析 | |
| 創薬化学 | Research for Discovery of Novel PCA-1 Inhibitor for Hormone-Refractory Prostate Cancers ~Structure-Metabolic Stability Relationship Study on a Known PCA-1 Inhibitor HUHS015 and its Derivatives~ | 上田 昌宏 |
| | 臨床で有効なホルモン非依存性前立腺がん治療薬の創製研究～体内安定性を考慮した評価系構築と新規PCA-1 阻害薬創製～ | |
| 臨床薬剤学 | Study on Effects of Renal Function prior to the Start on Hematological Toxicities of TAS-102 Monotherapy. | 辻井 聡容 |
| | トリフルリジン・チピラシル塩酸塩（TAS-102）の血液毒性におよぼす初回投与前腎機能の影響に関する研究 | |

②看護学研究科

修士論文・課題研究一覧

| 分野 | 学位論文種別 | 論文題目 | 著者 |
|-----------|--------|--|-------|
| 在宅看護学 | 修士論文 | 配偶者と死別した独居高齢者のソーシャルサポートに基づいた悲嘆の適応過程 | 柴田 りさ |
| 精神看護学 | 修士論文 | 精神科訪問看護師の暴力についての認識と対処の現状 | 田中 諭 |
| 急性看護学 | 修士論文 | 手術看護認定看護師教育に携わる臨床指導者が認識する看護実践能力と育成のための教育方法 | 山口 円 |
| 急性看護学 | 修士論文 | 集中治療領域における終末期移行判断時の葛藤とチームアプローチ | 森脇みさお |
| 慢性看護学 | 修士論文 | 慢性疾患患者の在宅移行期に訪問看護師が抱えるケア上の困難 | 板垣 綾子 |
| 助産学 | 修士論文 | 診療所に長期就業する専修学校卒助産師の内発的動機づけ | 奥 陽子 |
| 急性・重症患者看護 | 課題研究 | 集中治療後症候群の発症を見据えたICUケアに対する看護師の認識と実践 | 久保田絢子 |
| 看護教育学 | 修士論文 | 「一皮むけた経験」から探る教育担当者の成長を支えるもの | 春藤 友香 |
| 母性看護学 | 修士論文 | 統合失調症の女性が自分なりに子どもと過ごせるようになるプロセス | 柳 さおり |

③医療科学研究科

修士論文一覧

| 分野 | 論文題目 | 著者 |
|---------|---|-------|
| 内部障害 | 糖尿病の合併が心不全患者の運動耐容能に及ぼす影響 | 石原 広大 |
| 内部障害 | 末梢動脈疾患患者に対する身体活動量を指標とした在宅運動プログラムの効果検討 —準ランダム化試験による検討— | 大塚 翔太 |
| 内部障害 | Functional Electrical Muscle Stimulationが呼吸循環代謝応答に及ぼす影響 | 小泉 美緒 |
| 神経障害 | 社会復帰した頸髄損傷者の心理的变化におけるセラピストの役割 —障害受容過程を通して— | 佐々木 耀 |
| 神経障害 | 施設通所高齢者における筋力トレーニング効果に影響する因子の調査 | 竹脇 明広 |
| 運動器障害 | 急性上皮損傷に対する微弱電流刺激の即時的治癒促進効果の検証 —上皮化関連増殖因子に着目して— | 原口 脩平 |
| 身体・認知活動 | 急性期脳卒中中の作業療法に悩みをもつ作業療法士の「悩み」に関する現状 ～フォーカスグループディスカッションを用いて～ | 湯川 賀与 |
| 内部障害 | 急性腎障害患者における入院前の活動性が退院時の身体機能に与える影響 | 渡部 勇樹 |

3) 職業実践力育成プログラム (BP)

履修証明書授与者数

| プログラム・コース | 修了者数 (人) |
|----------------------|----------|
| 地域在宅看護実践力育成プログラム | 13 |
| PT・OT臨床カステップアッププログラム | 7 |
| リハビリテーション科学課題研究コース | 0 |

第4章 学生の受け入れ

兵庫医療大学学生受け入れ方針

学校法人兵庫医科大学の建学の精神ならびに本学の教育理念を理解し、主体性をもって学び医療専門職者を志す学生を求めています。このような学生を適正に選抜するために多様な選抜方式を実施しています。また、高等学校までに修得すべき基本的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」は学力試験等で判断します。

1. 学部

1) 薬学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

薬と生体についての「専門的な知識」、薬を正しく取り扱うことのできる「正確な技術」、および、他者との「コミュニケーション能力」を身につけた人を育てます。さらに、多様な専門職者からなる医療チームの中で、身につけた知識、技術、コミュニケーション能力を活かして活躍し、人の健康と幸福のために尽力し、社会の発展に貢献する意欲を持った薬のプロフェッショナルを育成します。

したがって、目標とする＜将来の自分像＞を持ち、以下の＜必要な素養と能力＞を有している人を求めます。

将来の自分像

1. 薬剤師として病院や薬局などでチーム医療や地域医療に貢献する。
2. 医薬品の研究・開発や販売を通して企業などで広く医療に貢献する。
3. 薬学研究者・教育者として研究機関や大学などで活躍する。
4. 薬事・衛生行政に関わり、国や地方自治体で活躍する。

必要な素養と能力

知識・技能

- ・薬学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・根拠に基づいて論理的に考え、判断し、行動できる素養がある。
- ・自分の考えを人に分かりやすく伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

- ・目的意識を持って自ら学び続けることができる。
- ・相手の話をよく聞いて理解し、柔軟に対応しようとする姿勢がある。

2) 看護学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

看護の実践者・研究者・教育者として活躍できる優れた看護専門職者(看護師・保健師・助産師)を育成します。そのため、生命の尊厳や個人の権利・価値観を理解し、尊重できる「感性豊かで倫理観に富んだ人間性」と、高度化・複雑化する医療現場に対応できる「確かな看護実践能力」を育成します。さらに、地域的・国際的な視野で医療・保健・福祉の課題を総合的に捉え、他職種と協働して、主体的・創造的に人々のquality of life（生活の質）の向上に寄与できる能力を育成します。

したがって看護専門職者として医療・保健・福祉などの分野に貢献しようとする意志を有し、以下の<必要な素養と能力>を有する人を求めます

必要な素養と能力

知識・技能

- ・看護学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・論理的に物事を考え、表現する力を身につけている。

主体性・多様性・協働性

- ・他者を理解し、協調しようとする姿勢を身につけている。
- ・看護専門職者になる強い意志を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる。
- ・自らの目標達成のために努力しやり遂げる意志がある。

3) リハビリテーション学部

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

リハビリテーション専門職者（理学療法士・作業療法士）として社会に貢献する人を育成します。そのために、人々の幸福と健康に貢献することができる人間力、理学療法学・作業療法学の知識・技術に基づく確実な臨床力、他職種と連携しながらリハビリテーション専門職として力を発揮することができる総合的実践力、そして、生涯にわたって自分の能力を磨き自己を高めていく能力・態度を育成します。

したがって、理学療法学科では理学療法士として、作業療法学科では作業療法士として、医療・保健・福祉などの分野に貢献しようという意志を有し、以下の<必要な素養と能力>を有する人を求めます。

必要な素養と能力

知識・技能

- ・理学療法学あるいは作業療法学を学ぶための高等学校卒業レベルの基礎的な学力がある。

思考力・判断力・表現力

- ・物事を論理的に考えるための基本的思考力がある。
- ・自分なりに物事を判断し、その理由を説明することができる。
- ・自分の気持ちや考えを人に伝えることができる。

主体性・多様性・協働性

- ・目的意識をもち続け自分から能動的に学修する。
- ・自分と異なる意見や気持ちをもっている人に関する興味と、そのような相手を理解しようとする姿勢をもっている。
- ・人とのコミュニケーションを大切にする。

2. 大学院

1) 薬学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

本研究科の理念に共感し、高度な研究能力を有する医療専門職者、そして医療薬学の問題を解決したいと願う薬学研究者を目指す以下のような人材を求めます。

1. 高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を有する人。
2. 薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を有する人。
3. 医療の現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を有する人。

入試との連関

1. 専門科目：高度な研究能力を獲得する基盤となる薬学に関する基礎知識を判定する。
2. 外国語：薬学に関する最先端の情報を獲得するために必要な外国語の能力を判定する。
3. 面接：医療現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけたいという意欲を持っているかどうかについて判定する。

2) 看護学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

生命と人権を尊重し、医療・保健・福祉および社会の変動に対応し、創造的かつ科学的に看護が実践できる能力をもち、人々の健康と quality of life の向上および看護学の発展に寄与できる高度専門職業人、研究者、教育者、管理者を育成します。本研究科では、以下のような人材を求めます。

1. 主体的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 看護専門職者として高度看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有する人。
3. 志望する専門分野に必要な基礎的知識と技術を有する人。
4. 国際的視野に立ち、柔軟な発想ならびに論理的思考で課題を探究する姿勢を有する人。
5. 倫理的な感受性と想像力をもって行動できる人。

入試との連関

1. 専門科目：志望する分野の専門的知識と専門分野の動向と現状の理解と課題を明確にできる能力を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：志望動機、学修準備状況、自主性、学習意欲、心構えを判定する。

3) 医療科学研究科

アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

高度な研究能力を有する医療専門職者ならびに高度な実践能力を有する医療専門職者を強く目指す以下のような人材を求めます。

1. 自ら積極的に学び、目標に向かって邁進できる人。
2. 自らの臨床的知識・技能を積極的に高めたいという意欲を有する人。
3. 先駆的・学際的・発展的研究に取り組み、医療科学の発展に寄与する姿勢を有する人。
4. 自らが修得した臨床的知識・技術、発展的知見を臨床実習教育・新人教育を通じて後進へ伝え、専門職業人としての発展に寄与しようとする人。

リハビリテーション科学研究コース

1. リハビリテーション科学領域において、先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようとする志向性を有する人。
2. 将来、本領域において研究・教育を牽引していく意欲を有する人。

リハビリテーション科学課題研究コース

1. 自らの臨床的知識・技術を積極的に高めたい人。
2. 本研究科で培った臨床的知識・技術を活用してリハビリテーション医療の向上に貢献しようとする人。

入試科目との関連

1. 専門科目：各専門領域に関する基礎的な知識を判定する。
2. 外国語：最新の知見を各種論文から読み取るための能力を判定する。
3. 面接：主体的・協動的に研究活動に取り組もうとする姿勢を判定する。

3. 入学者選抜および入試結果

1) 学部

平成30年度学生募集は、推薦入学試験（専願公募制・指定校推薦・公募制S日程・公募制A日程・公募制B日程）、一般入学試験（前期A日程・前期B日程・前期C日程・後期日程・大学入試センター試験利用入学試験（学力重視型）・大学入試センター試験利用入学試験（面接併用型））を次のとおり実施した。

特記事項

主な変更点は、多様な人材の確保を目的とした大学入試センター試験利用入学試験（面接併用型）の導入である。大学入試センター試験の成績（一次試験）と面接（二次試験）を併用し、学力試験による知識に加えて、表現力・思考力等を含めて判定を行う入試として実施した。なお、当該入試の導入に伴い、大学入試センター試験利用入学試験（中期日程）および（後期日程）は廃止した。

1. 推薦入学試験（専願公募制）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科、調査書
看護学部 外国語、小論文、調査書
リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、小論文、調査書
リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、小論文、調査書

②試験日：平成29年11月11日（土）

③合格発表日：平成29年11月20日（月）

④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 20 | 20 | 10 | 12 |
| 出願者数 | 35 | 131 | 75 | 31 |
| 受験者数 | 35 | 131 | 74 | 31 |
| 合格者数 | 20 | 20 | 12 | 15 |
| 入学者数 | 20 | 20 | 12 | 15 |

2. 推薦入学試験（指定校推薦入学制度）

- ①選抜方法：薬学部 面接および書類審査
 ②試験日：平成29年11月11日（土）
 ③合格発表日：平成29年11月20日（月）
 ④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 |
|------|-----|
| 募集人員 | 5 |
| 出願者数 | 9 |
| 受験者数 | 9 |
| 合格者数 | 9 |
| 入学者数 | 9 |

3. 推薦入学試験（公募制S日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科、調査書
 看護学部 外国語、調査書
 ②試験日：平成29年11月11日（土）
 ③合格発表日：平成29年11月20日（月）
 ④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 | 看護学部 |
|------|-----|------|
| 募集人員 | 10 | 7 |
| 出願者数 | 99 | 152 |
| 受験者数 | 99 | 152 |
| 合格者数 | 48 | 18 |
| 入学者数 | 14 | 9 |

4. 推薦入学試験（公募制A日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科、調査書
 看護学部 外国語、数学、調査書
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、調査書
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学、調査書
 ②試験日：平成29年11月18日（土）
 ③合格発表日：平成29年11月28日（火）
 ④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 12 | 10 | 4 | 4 |
| 出願者数 | 117 | 306 | 103 | 46 |
| 受験者数 | 112 | 304 | 102 | 46 |
| 合格者数 | 57 | 65 | 20 | 24 |
| 入学者数 | 17 | 33 | 13 | 12 |

5. 推薦入学試験（公募制B日程）

- ①選抜方法：薬学部 理科、調査書
 ②試験日：平成29年12月9日（土）
 ③合格発表日：平成29年12月15日（金）
 ④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 |
|------|-----|
| 募集人員 | 10 |
| 出願者数 | 44 |
| 受験者数 | 44 |
| 合格者数 | 25 |
| 入学者数 | 20 |

6. 一般入学試験（前期A日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、数学、理科
 看護学部 外国語、国語、理科
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学、理科
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、国語、理科
 ②試験日：平成30年2月2日（金）
 ③合格発表日：平成30年2月10日（土）
 ④募集人員等：

| 区分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 35 | 35 | 14 | 12 |
| 出願者数 | 139 | 348 | 120 | 45 |
| 受験者数 | 134 | 344 | 120 | 45 |
| 合格者数 | 68 | 40 | 16 | 19 |
| 入学者数 | 14 | 8 | 10 | 13 |

7. 一般入学試験（前期B日程）

- ①選抜方法：薬学部 外国語、理科
 看護学部 外国語、数学
 リハビリテーション学部 理学療法学科 外国語、数学
 リハビリテーション学部 作業療法学科 外国語、数学
 ②試験日：平成30年2月3日（土）
 ③合格発表日：平成30年2月10日（土）
 ④募集人員等：

| 区 分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 25 | 17 | 8 | 8 |
| 出願者数 | 121 | 269 | 126 | 46 |
| 受験者数 | 115 | 265 | 125 | 46 |
| 合格者数 | 56 | 25 | 17 | 17 |
| 入学者数 | 17 | 8 | 7 | 7 |

8. 一般入学試験（前期C日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科（必須）、外国語・数学（1教科選択）
 ②試 験 日：平成30年2月18日（日）
 ③合格発表日：平成30年2月23日（金）
 ④募集人員等：

| 区 分 | 薬学部 |
|------|-----|
| 募集人員 | 15 |
| 出願者数 | 80 |
| 受験者数 | 78 |
| 合格者数 | 46 |
| 入学者数 | 28 |

9. 一般入学試験（後期日程）

- ①選 抜 方 法：薬学部 外国語、理科
 看護学部 外国語、理科、国語
 ②試 験 日：平成30年3月3日（土）
 ③合格発表日：平成30年3月9日（金）
 ④募集人員等：

| 区 分 | 薬学部 | 看護学部 |
|------|-----|------|
| 募集人員 | 10 | 5 |
| 出願者数 | 37 | 78 |
| 受験者数 | 36 | 76 |
| 合格者数 | 32 | 30 |
| 入学者数 | 23 | 24 |

10. 大学入試センター試験利用入学試験（学力重視型）

- ①選 抜 方 法：薬学部 理科①、理科②、外国語
 看護学部 国語、理科、外国語
 リハビリテーション学部 理学療法学科 国語、数学①・数学②、理科、外国語
 リハビリテーション学部 作業療法学科 国語、数学、理科、外国語
 ②試 験 日：本学独自の学力試験は行わない。
 ③合格発表日：平成30年2月10日（土）

④募集人員等：

| 区 分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 6 | 3 | 2 | 2 |
| 出願者数 | 32 | 39 | 30 | 17 |
| 受験者数 | 30 | 39 | 29 | 17 |
| 合格者数 | 17 | 17 | 9 | 8 |
| 入学者数 | 2 | 0 | 3 | 1 |

11. 大学入試センター試験利用入学試験（面接併用型）

①選 抜 方 法：一次試験 数学、理科①、理科②、外国語

二次試験 面接

②試 験 日：一次試験 本学独自の学力試験は行わない。

二次試験 平成30年3月4日（日）

③合格発表日：平成30年3月9日（金）

④募集人員等：

| 区 分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|---------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 2 | 3 | 2 | 2 |
| 出願者数 | 3 | 28 | 13 | 1 |
| 受験者数 | 3 | 28 | 13 | 1 |
| 一次試験通過者 | 2 | 16 | 10 | 1 |
| 合格者数 | 1 | 8 | 2 | 1 |
| 入学者数 | 1 | 2 | 2 | 1 |

12. 合計

| 区 分 | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|-----|------|-------------|--------|
| | | | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 募集人員 | 150 | 100 | 40 | 40 |
| 出願者数 | 716 | 1351 | 467 | 186 |
| 受験者数 | 694 | 1339 | 462 | 186 |
| 合格者数 | 379 | 223 | 76 | 84 |
| 入学者数 | 165 | 104 | 47 | 49 |

2) 大学院

平成30年度学生募集は、Ⅰ期（薬学研究科・看護学研究科・医療科学研究科）、Ⅱ期（薬学研究科・看護学研究科）を実施し、出願人数が少なかった薬学研究科においては、追加募集としてⅢ期入試を予定していたが、出願者がいなかったために実施には至らなかった。

入学試験 Ⅰ期（薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科）

①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接

②試 験 日：平成29年9月23日（土）

③合格発表日：平成29年10月4日（水）午後3時

④募集人員等：

| 区 分 | 薬学研究科 | 看護学研究科 | 医療科学研究科 |
|------|-------|--------|---------|
| 募集人員 | 3 | 8 | 8 |
| 出願者数 | 0 | 5 | 15 |
| 受験者数 | 0 | 5 | 14 |
| 合格者数 | 0 | 3 | 10 |
| 入学者数 | 0 | 2 | 10 |

入学試験 II期（薬学研究科、看護学研究科）

①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接

②試 験 日：平成30年1月27日（土）

③合格発表日：平成30年2月7日（水）午後3時

④募集人員等：

| 区 分 | 薬学研究科 | 看護学研究科 |
|------|-------|--------|
| 募集人員 | 若干名 | 若干名 |
| 出願者数 | 1 | 6 |
| 受験者数 | 1 | 6 |
| 合格者数 | 1 | 4 |
| 入学者数 | 1 | 4 |

4. 学生募集（入試関連広報）

平成29年度オープンキャンパスを、平成29年8月5日（土）・6日（日）・19日（土）・20日（日）の計4日間開催し、1870名（受験生・高校生ベース）の参加者を得て、盛況に終えることができた。

大学全体ガイダンスを午前10時30分から実施したほか、各学部学科イベント（実習室における体験実習等）、在学生によるキャンパスツアー、在学生・教員との交流コーナー、入試相談コーナー等のプログラムに加えて、次の特別プログラムを実施した。

また、昨年に引き続き岡山方面からの無料送迎バスの運行を実施した。

○8月5日（土）：そっか、医療って1人じゃできないんだ

○8月6日（日）：入試対策講座「数学（I・A）」

○8月19日（土）：先輩、こんなカンジです

○8月20日（日）：入試対策講座「英語」

(各日程参加者数)

8月5日

| 志望学科 | 受験生数 | 同伴者数 |
|--------|------|------|
| 医療薬学科 | 56 | 44 |
| 看護学科 | 181 | 96 |
| 理学療法学科 | 98 | 38 |
| 作業療法学科 | 21 | 18 |
| 未定 | | |
| 合計 | 356 | 196 |

8月6日

| 志望学科 | 受験生数 | 同伴者数 |
|--------|------|------|
| 医療薬学科 | 62 | 43 |
| 看護学科 | 299 | 136 |
| 理学療法学科 | 124 | 58 |
| 作業療法学科 | 32 | 21 |
| 未定 | | |
| 合計 | 517 | 258 |

8月19日

| 志望学科 | 受験生数 | 同伴者数 |
|--------|------|------|
| 医療薬学科 | 57 | 42 |
| 看護学科 | 239 | 146 |
| 理学療法学科 | 80 | 58 |
| 作業療法学科 | 24 | 11 |
| 未定 | 9 | 5 |
| 合計 | 400 | 257 |

8月20日

| 志望学科 | 受験生数 | 同伴者数 |
|--------|------|------|
| 医療薬学科 | 86 | 64 |
| 看護学科 | 368 | 161 |
| 理学療法学科 | 87 | 57 |
| 作業療法学科 | 56 | 45 |
| 未定 | | |
| 合計 | 597 | 327 |

4日間合計

| 志望学科 | 受験生数 | 同伴者数 |
|--------|------|------|
| 医療薬学科 | 261 | 193 |
| 看護学科 | 1087 | 539 |
| 理学療法学科 | 389 | 211 |
| 作業療法学科 | 133 | 95 |
| 未定 | | |
| 合計 | 1870 | 1038 |

※複数学科を志望している生徒は、重複カウントしているため、上記の4日間の合計参加者数とは数が異なる。

兵庫医療大学薬学部・兵庫医科大学病院薬剤部合同イベント

平成29年6月4日(日)、兵庫医科大学病院薬剤部との合同イベント「薬剤師への道」を開催した。このイベントは、薬学部を目指す高校生を対象に、より一層薬学に興味を持ってもらいたいという思いから、合同で企画・実施しているもので、8回目となる今回は、「大学病院での薬剤師としての仕事を知る」、「医療大学での学びを経験する」をテーマに開催し、高校生37名の参加を得た。

午前中は、兵庫医科大学病院において、現役薬剤師(卒業生)による1日の業務についての説明および薬剤部見学を通して薬剤師の仕事を知ってもらい、午後からは、バス2台で兵庫医療大学に移動して、薬学部での学びを体験できるプログラム(本学教員による講義、臨床薬学研修センターでの体験実習)を実施した。

看護職への道イベント

平成29年6月11日（日）、「看護職への道」を開催した。このイベントは、看護師・保健師・助産師を目指す高校生にキャリアの視点から看護職を知ってもらうことを目的としたもので、高校生174名の参加を得た。4回目となる今回は、午後だけのイベントとして実施した。イベント内容としては講義「看護師さんって、何する人？」を実施後、在学生による学部紹介・国際看護への取り組み紹介、卒業生によるパネルトーク、キャンパスツアーを行った。

全学部生対象入試対策講座・薬学部受験生向け特別入試対策講座

平成29年12月10日（日）、午前に入試対策講座、午後から薬学部受験生向け特別入試対策講座を開催した。薬学部受験生向け特別入試対策講座「受験勉強って、薬（やく）に立つの？」は昨年に引き続き開催し、36名の参加があった。「化学」「生物」の特別講義と、キャンパスツアーを実施した。全学部を対象とした入試対策講座は、本学の一般入学試験の受験を考えている高校生を対象に、入試ガイダンスの後、「英語」、「化学基礎・化学（薬学部対象）」、「生物基礎・生物（看護学部対象）」、「数学Ⅰ・A（看護学部・リハビリテーション学部対象）」について本学入試傾向および今後の対策に関する講義を行い、268名の参加があった。

なお、入試対策講座の裏番組として今年度初めて保護者向け講演を実施した。また例年どおりオープンキャンパスに参加できなかった受験生にキャンパスの見学や個別相談等を目的とした、在学生・教員交流コーナーやキャンパスツアー、入試個別相談も併せて実施した。

3 学部合同 1 日体験入学イベント

平成30年3月18日（日）、3学部合同1日体験入学イベントを開催した。このイベントは、一足早く兵庫医療大学生を体験できるイベントとして、医療系を志望する新高校2年生・3年生を対象に開催したもので、3学部合同開催としては6回目となる。参加は事前申込制となっており、抽選の結果172名の参加があった。

オープニングガイダンスの後、各学部学科に分かれ実験実習、体験実習等を行った。その後、在学生および教員と昼食を摂り、「チーム医療」を学ぶ特別講義とグループワーク（チームビルディングゲーム）を実施した。最後にスタンプラリー形式のキャンパスツアーを行い終了した。

○薬学部：実験実習「8の研究室に分かれて体験」

○看護学部：体験実習

「子どもの頑張りを引き出す「プレパレーション」

○理学療法学科：体験実習

「理学療法士への第一歩 ～身体機能のチェックと医学的観点から実施するストレッチ～」

○作業療法学科：体験実習

「作業療法への入門～コミュニケーション&お助けアイテムの活用と作成～」

特記事項

・大学公式WEBサイトリニューアル

大学公式WEBサイトについて、2009年から使用していたWebサイト更新システム（CMS）Joomla!の老朽化に伴うセキュリティリスクの増大およびスマートフォンからのアクセス増加に対応するため、2016年7月よりリニューアルに向けた検討を開始し、2017年7月10日に新サイトに移行した。

新Webサイトでは、Webサイト更新システム（CMS）にWord Pressを採用しセキュリティ面

での対策を行った。

また、スマートフォンへの対応については、デバイスの表示幅にあわせ画像サイズを自動調整することのできるレスポンスWebデザインを採用することにより、さまざまなデバイスへ対応が可能となったことに併せ、スマートフォンサイトを作成する労力も削減することができた。

コンテンツの面においても、これまで開学から10年間建て増し的に増加してきたコンテンツを、システムの更新にあわせ整理することでページ数を削減するとともに、受験生をターゲットとしたコンテンツを追加したことでWebサイトでの広報が強化された。

・広報コンセプトの作成

開学10周年を受けたHUHS Vision20の公表を受け、コンセプトメッセージおよびコミュニケーションマークを作成した。

HUHS Vision20から広報コンセプトとして定めた「医科大学との協働と多職種との連携によって先進的な教育と研究に取り組む大学」を基に、学長・副学長を中心としたワーキンググループにて協議した結果、コンセプトメッセージとして「人と地域の未来を紡ぐ」を選定し、併せてコミュニケーションマークを作成した。

5. 定員数と在籍学生数

学部定員数

| 学部 | 学科 | 修業年限 | 入学定員 | 収容定員 | 学位または称号 |
|-------------|--------|------|------|------|-----------|
| 薬学部 | 医療薬学科 | 6 | 150 | 900 | 学士（薬学） |
| 看護学部 | 看護学科 | 4 | 100 | 400 | 学士（看護学） |
| リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 4 | 40 | 160 | 学士（理学療法学） |
| リハビリテーション学部 | 作業療法学科 | 4 | 40 | 160 | 学士（作業療法学） |

進級認定数

| 学部・学科 | 学年 | 学生数 | 進級 (卒業) | 留年 | 退学 | 除籍 |
|--------------|----|-----|--------------|----|----|----|
| 薬学部 医療薬学科 | 1 | 188 | 178 | 7 | 3 | 0 |
| | 2 | 157 | 139 | 14 | 4 | 0 |
| | 3 | 148 | 134 | 7 | 7 | 0 |
| | 4 | 156 | 143 | 7 | 5 | 1 |
| | 5 | 139 | 138 | 0 | 0 | 1 |
| | 6 | 139 | (139) | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 927 | 732 (139) | 35 | 19 | 2 |
| 看護学部 看護学科 | 1 | 127 | 124 | 1 | 2 | 0 |
| | 2 | 111 | 105 | 4 | 2 | 0 |
| | 3 | 114 | 109 | 2 | 3 | 0 |
| | 4 | 91 | (89) | 2 | 0 | 0 |
| | 小計 | 443 | 338 (89) | 9 | 7 | 0 |

| 学部・学科 | 学年 | 学生数 | 進級 (卒業) | 留年 | 退学 | 除籍 |
|-----------------------|----|-------|-------------|----|----|----|
| リハビリテーション学部 理学療法学科 | 1 | 49 | 48 | 1 | 0 | 0 |
| | 2 | 48 | 47 | 1 | 0 | 0 |
| | 3 | 43 | 42 | 0 | 1 | 0 |
| | 4 | 42 | (42) | 0 | 0 | 0 |
| | 小計 | 182 | 137 (42) | 2 | 1 | 0 |
| リハビリテーション学部 作業療法学科 | 1 | 43 | 41 | 1 | 1 | 0 |
| | 2 | 43 | 40 | 1 | 2 | 0 |
| | 3 | 47 | 46 | 0 | 1 | 0 |
| | 4 | 44 | (43) | 0 | 1 | 0 |
| | 小計 | 177 | 127 (43) | 2 | 5 | 0 |
| 計 | | 1,729 | 1,334(313) | 48 | 32 | 2 |

大学院定員数

| 研究科 | 専攻 | 修業年限 | 入学定員 | 収容定員 | 学位または称号 |
|---------|------|------|------|------|---------|
| 薬学研究科 | 医療薬学 | 4 | 3 | 12 | 博士 |
| 看護学研究科 | 看護学 | 2 | 8 | 16 | 修士 |
| 医療科学研究科 | 医療科学 | 2 | 8 | 16 | 修士 |

大学院生数

| 研究科 | 研究指導科目分野 | 第1学年次 | 第2学年次 | 第3学年次 | 第4学年次 |
|---------------|----------|-------|-------|-------|-------|
| | 薬学研究科 | 医薬品化学 | 0 | 0 | 0 |
| 分子循環器病治療学 | | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 創薬化学 | | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 臨床薬剤学 | | 0 | 2 | 1 | 1 |
| 分子イメージング科学 | | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 臨床ゲノム・分子薬物動態学 | | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合 計 | | 1 | 3 | 3 | 3 |

| 看護学研究科 | 分野 | 特定分野 | 第1学年次 | 第2学年次 |
|--------|------|-------|-------|-------|
| | 基盤 | 基礎看護学 | 0 | 0 |
| | | 看護教育学 | 0 | 1 |
| | 療養支援 | 急性看護学 | 2 | 4 |
| | | がん看護学 | 0 | 0 |
| | | 慢性看護学 | 1 | 1 |
| | | 精神看護学 | 0 | 1 |
| | 家族支援 | 小児看護学 | 0 | 0 |
| | | 母性看護学 | 1 | 1 |
| | | 助産学 | 0 | 1 |
| | 生活支援 | 老年看護学 | 0 | 0 |
| | | 地域看護学 | 0 | 0 |
| | | 在宅看護学 | 0 | 2 |
| 合計 | | 4 | 11 | |

| 医療科学研究科 | 分野 | コース | 第1学年次 | 第2学年次 |
|---------|--------|---------|-------|-------|
| | 病態運動学 | 運動器障害 | 2 | 1 |
| | | 内部障害 | 3 | 4 |
| | | 神経障害 | 3 | 2 |
| | 人間活動科学 | 身体・認知活動 | 1 | 1 |
| | | 精神活動 | 0 | 0 |
| 合計 | | 9 | 8 | |

科目等履修生数

| 研究科 | 専攻 | 前期人数 | 後期人数 |
|---------|------|------|------|
| 看護学研究科 | 看護学 | 4 | 3 |
| 医療科学研究科 | 医療科学 | 0 | 0 |

職業実践力育成プログラム（BP）定員数

| プログラム・コース | 修業年限 | 入学定員 | 修了 |
|----------------------|------|------|------|
| 地域在宅看護実践力育成プログラム | 1 | 20 | 履修証明 |
| PT・OT臨床力ステップアッププログラム | 1 | 10 | 履修証明 |
| リハビリテーション科学課題研究コース | 2 | 8 | 履修証明 |

職業実践力育成プログラム（BP）受講者数

| プログラム・コース | 人数 |
|----------------------|----|
| 地域在宅看護実践力育成プログラム | 15 |
| PT・OT臨床力ステップアッププログラム | 7 |
| 合計 | 22 |

第5章 教員・教員組織

1. 学部

専任教員数

| 学部 | 学科 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 合計 |
|-------------|--------|----|-----|----|----|----|-----|
| 薬学部 | 医療薬学科 | 19 | 4 | 8 | 13 | 3 | 47 |
| 看護学部 | 看護学科 | 7 | 7 | 10 | 11 | 4 | 39 |
| リハビリテーション学部 | 理学療法学科 | 4 | 2 | 4 | | | 10 |
| | 作業療法学科 | 4 | 2 | 4 | 1 | 1 | 12 |
| 共通教育センター | | 5 | 2 | 6 | | | 13 |
| 合計 | | 39 | 17 | 32 | 25 | 8 | 121 |

(平成29年5月1日現在)

1) 薬学部

特記事項

平成28年度の薬学部の教員組織は、48名の専任教員で構成された。この中には、薬学実務教育を担当する7名の実務家教員と臨床経験が豊富な6名の医師資格を有する教員が含まれている。また、この他に3名の実務家みなし教員が実務教育の指導を担当した。専任教員の職位ごとの内訳は、教授18名（薬学部全教員の38%）、准教授2名（同4%）、講師10名（同21%）、助教・助手18名（同38%）であり、バランスのとれた教員配置となっている。講師以上の30名の教員は、科目責任者として授業科目および実習科目を担当している。また助教および助手を加えた全教員が、実習科目を担当している。この他に、非常勤講師として学外からも多くの病院薬剤師および薬局薬剤師を招聘し、主に実務事前学習の指導にあっている。

薬学部では、教員の教育上の指導能力の重要性に鑑み、教員の採用および昇任については募集要項に教育と学生指導に積極的に取り組む熱意と能力が求められることを明示し、関連する規程等に則った選考および審査を実施している。

教員一覧

| 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|----|--------|--------|------------|
| 教授 | 前田 初男 | 生体分析化学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 西山 信好 | 薬理学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 青木 俊二 | 天然薬物学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 田中 明人 | 創薬化学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 田中 稔之 | 免疫学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 前田 拓也 | 微生物学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 宮部 豪人 | 有機化学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 山本 悟史 | 生理学 | 平成19年10月1日 |
| 教授 | 岩崎 剛 | 薬物治療学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 上田 晴康 | 免疫学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 大河原 知水 | 生化学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 清宮 健一 | 毒性学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 九川 文彦 | 薬物動態学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 戴 毅 | 漢方医学 | 平成20年4月1日 |
| 教授 | 安屋敷 和秀 | 薬理学 | 平成21年4月1日 |

| 職 位 | 氏 名 | 専 門 分 野 | 着 任 日 |
|-----|--------|---------|------------|
| 教 授 | 齋藤 あつ子 | 微生物学 | 平成21年4月1日 |
| 教 授 | 辻野 健 | 薬物治療学 | 平成21年10月1日 |
| 教 授 | 森山 雅弘 | 臨床薬剤学 | 平成22年10月1日 |
| 教 授 | 天野 学 | 医療薬学 | 平成25年4月1日 |
| 准教授 | 甲谷 繁 | 物理化学 | 平成19年4月1日 |
| 准教授 | 南畝 晋平 | 薬物動態学 | 平成21年10月1日 |
| 准教授 | 大野 雅子 | 臨床薬理学 | 平成22年4月1日 |
| 准教授 | 桂木 聡子 | 社会薬学 | 平成22年4月1日 |
| 講 師 | 岩岡 恵実子 | 天然薬物学 | 平成19年4月1日 |
| 講 師 | 塚本 効司 | 分析化学 | 平成19年4月1日 |
| 講 師 | 上田 寛樹 | 先端医療薬剤学 | 平成20年4月1日 |
| 講 師 | 清水 忠 | 創薬化学 | 平成20年4月1日 |
| 講 師 | 中野 博明 | 薬剤学 | 平成20年4月1日 |
| 講 師 | 長野 基子 | 微生物学 | 平成20年4月1日 |
| 講 師 | 藤野 秀樹 | 薬物動態学 | 平成20年4月1日 |
| 講 師 | 三浦 大作 | 生化学 | 平成20年4月1日 |
| 助 教 | 是金 敦子 | 生化学 | 平成19年4月1日 |
| 助 教 | 田中 康一 | 薬理学 | 平成19年10月1日 |
| 助 教 | 大野 喜也 | 免疫学 | 平成20年4月1日 |
| 助 教 | 吉岡 英斗 | 有機化学 | 平成20年4月1日 |
| 助 教 | 大森 志保 | 微生物学 | 平成21年4月1日 |
| 助 教 | 小暮 洋子 | 生理学 | 平成21年4月1日 |
| 助 教 | 小淵 修平 | 薬理学 | 平成21年4月1日 |
| 助 教 | 王 勝蘭 | 漢方医学 | 平成25年2月1日 |
| 助 教 | 村上 雅裕 | 臨床薬学 | 平成26年7月1日 |
| 助 教 | 橋本 佳奈 | 臨床薬学 | 平成27年6月1日 |
| 助 教 | 伊藤 都裕 | 薬物治療学 | 平成27年7月1日 |
| 助 教 | 安田 恵 | 臨床薬学 | 平成27年9月1日 |
| 助 教 | 川島 祥 | 物理化学 | 平成28年1月1日 |
| 助 手 | 芝田 宏美 | 薬物治療学 | 平成20年4月1日 |
| 助 手 | 関 まどか | 衛生化学 | 平成27年6月1日 |
| 助 手 | 杉野 佑太 | 医療薬学 | 平成28年4月1日 |

FD

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加者数(人) |
|----------|-----------------------|------------------------|----------|
| 2月16日(木) | 大学に求められる質保証とパフォーマンス評価 | 講師：摂南大学薬学部・安原智久先生 | 薬学部教員：31 |
| 3月23日(木) | ハラスメントに関するFD | 講師：本学学生相談室・原田相談員・西崎相談員 | 薬学部教員：30 |

2) 看護学部

看護学部として求める教員像および教員組織の編成方針は以下のとおりである。

- ①看護学における理論的知と臨床の和が融合した教育を目指し、実務経験を豊富に有し、これをベースとした実践力を養うための教育を行いうる看護専門職者を配置する。
- ②看護学部教員の定員を確保する。

③グローバルな視野を持ち、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指し、教育研究業績の豊富な教員と研究における将来性および教育への情熱を持つ若手教員をバランスよく配置する。

④各看護専門分野に、それぞれの職位の教員をバランスよく配置する。

上記編成方針と「兵庫医療大学教員人事に関する規程」、兵庫医療大学教員定数・教員構成・配置員数をもとに教員人事計画を検討した。看護学部の将来構想に鑑みた教員配置を検討する、本学の専任教員として実績のある者について積極的に昇格人事を計画する等を看護学部として決定した。また、平成28年度の教授会において、教員候補者選考審査要件および教員候補者選考審査手続きについて確認・共有、任期制教員の再任について「兵庫医療大学における任期制教員の再任に関する申し合せ」に則り、業績審査委員会の設置・看護学部再任基準および手続を確認・共有していることから、それらに従って、平成29年度の人事についても進めた。

また、学生の臨地における教育の充実を図ることを目的とし、学生実習の教育指導等に関する兵庫医科大学病院の指導的な医療専門職者5名に兵庫医療大学臨床実習教授・准教授の称号を付与した。この申請および付与手続きは、学部長が学部教授会の議を経て、候補者を学長に付議し、大学協議会の議を経て臨床実習教授等を決定し、協力機関の長の承認を得たうえで称号を付与している。

教員一覧

| 領域 | 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|---------|------|--------|--------------------|------------|
| 基盤看護学 | 教授 | 竹田 千佐子 | 基礎看護学（理論・技術） | 平成19年4月1日 |
| 基盤看護学 | 教授 | 土田 敏恵 | 基礎看護学（技術・感染） | 平成19年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 教授 | 西村 明子 | 母性看護学 | 平成19年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 教授 | 網島 ひづる | 成人看護学（急性） | 平成20年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 教授 | 新井 信之 | 精神看護学 | 平成20年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 教授 | 細見 明代 | 老年看護学 | 平成23年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 教授 | 神崎 初美 | 成人看護学（がん・慢性） | 平成26年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 教授※1 | 堀口 和子 | 在宅看護学 | 平成23年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 准教授 | 石原 あや | 小児看護学 | 平成20年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 准教授 | 松本 麻里 | 成人看護学（がん・慢性） | 平成20年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 准教授 | 土井 有羽子 | 公衆衛生看護学 | 平成23年10月1日 |
| 家族支援看護学 | 准教授 | 岡田 公江 | 助産学・母性看護学 | 平成25年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 准教授 | 笹川 寿美 | 成人看護学（急性） | 平成26年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 准教授 | 田中 登美 | 成人看護学（がん・慢性） | 平成26年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 講師 | 飯尾 祐加 | 助産学・母性看護学 | 平成19年4月1日 |
| 基盤看護学 | 講師 | 鈴木 みゆき | 基礎看護学（理論・技術） | 平成20年1月1日 |
| 基盤看護学 | 講師 | 萩野 待子 | 基礎看護学（技術・看護マネジメント） | 平成20年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 講師 | 山田 千春 | 老年看護学 | 平成20年4月1日 |
| 基盤看護学 | 講師 | 岸 あゆみ | 基礎看護学（技術） | 平成24年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 講師 | 貞永 千佳生 | 成人看護学（急性） | 平成26年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 講師 | 鈴木 千枝 | 在宅看護学 | 平成26年10月1日 |
| 生活支援看護学 | 講師 | 魚崎 須美 | 公衆衛生看護学 | 平成27年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 講師 | 立垣 祐子 | 精神看護学 | 平成27年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 講師 | 藤井 加那子 | 小児看護学 | 平成27年4月1日 |
| 基盤看護学 | 助教 | 増田 富美子 | 基礎看護学（技術） | 平成19年4月1日 |

| 領域 | 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|---------|----|--------|--------------|-----------|
| 生活支援看護学 | 助教 | 足立 安正 | 公衆衛生看護学 | 平成25年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 助教 | 片田 千尋 | 助産学・母性看護学 | 平成25年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 助教 | 高谷 知史 | 小児看護学 | 平成27年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 助教 | 山名 華代 | 助産学・母性看護学 | 平成28年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 助教 | 末安 明美 | 老年看護学 | 平成29年4月1日 |
| 家族支援看護学 | 助教 | 川内 恵美子 | 助産学・母性看護学 | 平成29年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 助教 | 山内 洋子 | 成人看護学（慢性・がん） | 平成29年4月1日 |
| 療養支援看護学 | 助教 | 井上 満代 | 成人看護学（慢性・がん） | 平成29年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 助教 | 久保田 真美 | 在宅看護学 | 平成29年4月1日 |
| 基盤看護学 | 助教 | 山田 絵里 | 基礎看護学（技術） | 平成29年4月1日 |
| 基盤看護学 | 助教 | 宮前 奈央 | 基礎看護学（技術） | 平成29年7月1日 |
| 療養支援看護学 | 助手 | 市川 由希子 | 精神看護学 | 平成26年4月1日 |
| 基盤看護学 | 助手 | 松久 智美 | 基礎看護学（技術） | 平成27年1月1日 |
| 療養支援看護学 | 助手 | 千葉 香苗 | 成人看護学（急性） | 平成28年4月1日 |
| 生活支援看護学 | 助手 | 西山 章弘 | 老年看護学 | 平成28年4月1日 |

※1 平成29年12月1日付 教授に昇任

臨床実習教授等の委嘱

| 称号 | 役職 | 氏名 | 所属 |
|--------|-----------|--------|------------------------|
| 臨床実習教授 | 看護部長（副院長） | 山田 明美 | ささやま医療センター 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護部長（副院長） | 丸山 美津子 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護次長 | 加地 靖子 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護次長 | 笠松 由利 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護次長 | 岡崎 美智子 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護次長 | 高比良 法子 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護次長 | 西田 淳子 | 兵庫医科大学病院 看護部 |
| 臨床実習教授 | 看護師長 | 藤井 利江 | 兵庫医科大学病院 看護部（医療支援センター） |

FD

| 開催日 | 内容 | 担当者 | 参加者数（人） |
|----------|--|---|---------------|
| 4月6日(木) | 新任教員へのオリエンテーション | 学部長 看護学部FD委員 | 新任教員5名 |
| 9月15日(水) | テーマ：授業設計と指導案 内容：講義「授業設計 教員が教えることと学生が学ぶこと」 | 林 智子 講師 (三重大学医学系研究科 看護学専攻基盤看護学領域 教授) | 看護学部教員 40名 |
| 3月7日(水) | テーマ：授業参観での学びを基にした教授法の検討 内容：グループごとに授業参観を実施した教員による授業紹介をしたうえで、教授法についてディスカッションを行い、最後に全体でグループ発表。 | 看護学部FD委員 | 看護学部教員 37名 |

3) リハビリテーション学部

特記事項

- ・教員組織の編成方針は以下のとおりである。
- ✓ 理学療法学科、作業療法学科の2学科で構成されているリハビリテーション学部は、教員組織を理学療法学科教員と作業療法学科教員の2組織とし、学部長に加えて理学療法学科長・作業療法学科長を置く。
- ✓ 質の高い生活の推進、健康増進から障がいの予防と治療、高齢化に伴う地域密着型介入等多様な役割に対応できる理学療法士・作業療法士を育成するため、幅広い専門分野から高度な知識と技術をもつ理学療法士・作業療法士を配置するとともに、より高い専門性をもって学際的に教育・研究を発展させるために、整形外科医、精神科医等関連領域の専門職も配置する（教員一覧参照）。
- ✓ 教育・研究の多様なニーズに対応するため、臨床経験が豊富な教員と教育・研究経験に富む教員のバランスをとるとともに、可能な限り、年齢および職位のバランスを考慮する。
- ・教員の募集・採用・昇任に関しては、平成19年の開学以来、文部科学省への設置申請に準じて教員が採用された。以後、「兵庫医療大学教員人事に関する規程」に沿って適切に実施している。平成29年度には、規程に則り、理学療法学科准教授1名の教授への昇任人事が行われた。
- ・教員による教育の質の向上を図るため、以下のことを実施している。
- ✓ 教育の質保証を確実にすることを目的として、平成30年度シラバス作成時に「平成30年度学部授業シラバスの確認事項－当該年度の振り返りと次年度に向けての改善計画を中心に－」を科目責任者が各科目について記載し、学科長、学部自己点検・評価委員会が内容を評価・確認し、その結果を教授会にて審議する。
- ✓ 広い視野をもって教員の質向上を図るため、全学FDに加えて、外部講師を迎えての学部内FDを年1回、また、学部教員による学部内FDを2か月に1回程度実施している（表、FD参照）。平成29年度の外部講師による学部FDは、多様な学生に対する理解および対応の質向上を目的として、「LGBTを知る 人権尊重と危機管理の観点から」をテーマとした。

教員一覧

| 領域 | 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|-----------|-----|--------|------------------------|------------|
| 運動器理学療法学 | 教授 | 川口 浩太郎 | スポーツ理学療法学 | 平成19年4月1日 |
| 神経障害理学療法学 | 教授 | 日高 正巳 | 理学療法教育学 | 平成19年4月1日 |
| 精神障害作業療法学 | 教授 | 山田 大豪 | 精神科作業療法学 | 平成19年4月1日 |
| 身体障害作業療法学 | 教授 | 山崎 せつ子 | 認知障害作業療法学 | 平成20年4月1日 |
| 運動器理学療法学 | 教授 | 藤岡 宏幸 | 整形外科学 | 平成23年1月1日 |
| 内部障害理学療法学 | 教授 | 玉木 彰 | 呼吸器理学療法学 | 平成23年4月1日 |
| 精神障害作業療法学 | 教授 | 松井 徳造 | 精神医学 | 平成23年10月1日 |
| | 教授 | 勝野 朋幸 | 内科学 | 平成29年4月1日 |
| 発達障害作業療法学 | 准教授 | 伊藤 斉子 | 高機能広汎性発達障害作業療法学 | 平成19年4月1日 |
| 運動器理学療法学 | 准教授 | 坂口 顕 | 物理療法学・スポーツ理学療法学 | 平成19年4月1日 |
| 身体障害作業療法学 | 准教授 | 佐野 恭子 | 認知障害作業療法学 | 平成20年4月1日 |
| 神経障害理学療法学 | 准教授 | 森 明子 | ウィメンズ・ヘルス | 平成21年4月1日 |
| 発達障害作業療法学 | 講師 | 有吉 正則 | 地域・発達障害作業療法学 | 平成19年4月1日 |
| 精神障害作業療法学 | 講師 | 坂本 浩 | Social Skills Training | 平成21年4月1日 |
| 内部障害理学療法学 | 講師 | 森沢 知之 | 心臓理学療法学 | 平成21年4月1日 |

| 領域 | 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|-----------|----|-------|-------------|------------|
| 内部障害理学療法学 | 講師 | 宮本 俊朗 | 代謝系理学療法学 | 平成25年4月1日 |
| 運動器理学療法学 | 講師 | 塚越 累 | バイオメカニクス | 平成25年10月1日 |
| 身体障害作業療法学 | 講師 | 平上 尚吾 | 中枢神経障害作業療法学 | 平成25年10月1日 |
| 神経障害理学療法学 | 講師 | 永井 宏達 | 予防理学療法学 | 平成26年4月1日 |
| | 講師 | 清水 大輔 | 地域作業療法学 | 平成29年4月1日 |
| 精神障害作業療法学 | 助教 | 奥谷 研 | 精神作業活動学 | 平成21年4月1日 |
| | 助手 | 坂口 雄哉 | 身体障害作業療法学 | 平成29年4月1日 |

FD

| 開催日 | 内容 | 担当者 | 参加者数(人) |
|-------|-----------------------------------|-------------------------|---------|
| 6月1日 | 高齢者の転倒事故防止用機能性靴下の開発一産官学連携による取り組み— | 塚越累(学部教員) | 20 |
| 7月6日 | 倫理指針改正のポイント | 玉木彰(学部教員) | 20 |
| 8月3日 | 糖尿病治療におけるCGMの活用 | 勝野朋幸(学部教員) | 19 |
| 9月7日 | リハビリテーション関連職種の教育改革と卒前卒後教育の充実 | 日高正巳(学部教員) | 18 |
| 10月5日 | メンタルプラクティスと運動観察療法 | 坂口雄哉(学部教員) | 17 |
| 11月2日 | デュピュイトラン拘縮について | 藤岡宏幸(学部教員) | 21 |
| 2月1日 | 統合失調症の社会技能訓練 | 坂本浩(学部教員) | 20 |
| 3月1日 | 「LGBTを知る」-人権尊重と危機管理の観点から | 繁内幸治((一社)LGBT理解増進会代表理事) | 22 |

4) 共通教育センター

特記事項

平成29年度は13名の専任教員、多数の非常勤講師および兼任教員が全学部の基礎教育科目とチーム医療教育科目および一部の専門基礎教育科目を担当した。

教員一覧

| 職位 | 氏名 | 専門分野 | 着任日 |
|-----|--------|----------|-----------|
| 教授 | 伊東 久男 | 解剖学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 加藤 精一 | 物理学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 秦 正哲 | 英語教育学 | 平成19年4月1日 |
| 教授 | 紀平 知樹 | 哲学 | 平成21年4月1日 |
| 教授 | 柏村 信一郎 | 生物学 | 平成25年1月1日 |
| 准教授 | 賀屋 光晴 | 健康スポーツ科学 | 平成19年4月1日 |
| 准教授 | 芝崎 誠司 | 化学 | 平成19年4月1日 |
| 講師 | 福田 範子 | 英文学 | 平成19年4月1日 |
| 講師 | 常見 幸 | 内科学 | 平成24年7月1日 |
| 講師 | 西田 喜平次 | 統計学 | 平成25年4月1日 |
| 講師 | 土江 伸誉 | 心理学 | 平成26年4月1日 |
| 講師 | 山本 英幸 | 生理学 | 平成28年4月1日 |
| 講師 | 上山崎 悦代 | 社会福祉学 | 平成29年4月1日 |

FD

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加者数 (人) |
|------|--------------------------|--------------------------|----------|
| 3月1日 | 「LGBTを知る」-人権尊重と危機管理の観点から | 一般社団法人LGBT理解増進会代表 繁内幸治先生 | 50 |

2. 大学院

専任教員数

| 学部 | 教 授 | 准教授 | 講 師 | 助 教 | 助 手 | 合 計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 薬学研究科 | 19 | 5 | 8 | 0 | 0 | 32 |
| 看護学研究科 | 7 | 7 | 6 | 4 | 0 | 24 |
| 医療科学研究科 | 8 | 4 | 6 | 0 | 0 | 18 |
| 合 計 | 34 | 16 | 20 | 4 | 0 | 74 |

(平成29年5月1日現在)

1) 薬学研究科

特記事項

薬学研究科の教員組織は、豊富な教育・研究業績を有し、博士の学位取得者もしくはそれと同等の業績を有する教授20名・准教授5名・講師7名・助教6名から構成される。大学院博士課程の中核となる研究指導科目は、教授・准教授・講師が研究指導教員（22名）として担当し、研究遂行能力を高める演習科目や講義科目にはそれ以外の講師・助教が加わり手厚い教育・指導を行った。

教員一覧

| 専門分野 | 職 位 | 氏 名 |
|-------------------------------------|-----|--------|
| 臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学 | 教 授 | 九川 文彦 |
| 分子病態解析学 | 教 授 | 岩崎 剛 |
| | 准教授 | 芝崎 誠司 |
| 循環薬理学・分子毒性学 | 教 授 | 安屋敷 和秀 |
| | 教 授 | 清宮 健一 |
| 中枢神経薬理学 | 教 授 | 西山 信好 |
| 天然薬物学 | 教 授 | 青木 俊二 |
| 臨床薬剤学 | 教 授 | 森山 雅弘 |
| 応用医療薬学 | 教 授 | 天野 学 |
| | 准教授 | 大野 雅子 |
| | 講 師 | 藤野 秀樹 |
| 免疫制御学 | 教 授 | 田中 稔之 |
| | 教 授 | 上田 晴康 |
| レドックス生物学 | 教 授 | 大河原 知水 |
| 神経病態制御学 | 教 授 | 山本 悟史 |
| | 教 授 | 戴 毅 |
| 医薬品化学 | 教 授 | 宮部 豪人 |
| | 准教授 | 甲谷 繁 |
| 分子イメージング科学（可視化計測学） 医療ユニバーサルデザイン学 | 教 授 | 前田 初男 |
| 分子循環器病治療学 | 教 授 | 辻野 健 |
| 創薬化学 | 教 授 | 田中 明人 |

| 専門分野 | 職 位 | 氏 名 |
|----------|-----|--------|
| 微生物・寄生体学 | 教 授 | 齋藤 あつ子 |
| | 講 師 | 長野 基子 |
| 微生物制御学 | 教 授 | 前田 拓也 |
| 大学院講義担当 | 准教授 | 桂木 聡子 |
| | 准教授 | 南畝 晋平 |
| | 講 師 | 岩岡 恵実子 |
| | 講 師 | 上田 寛樹 |
| | 講 師 | 清水 忠 |
| | 講 師 | 塚本 効司 |
| | 講 師 | 中野 博明 |
| | 講 師 | 三浦 大作 |

2) 看護学研究科

特記事項

平成23年開設の看護学研究科の求める教員像は、設置基準に沿った看護学部における教育研究の蓄積と発展を基盤とし、研究科の理念・目標の達成に向けて看護学の専門性に応じた大学院教育研究活動を推進できる人材である。組織は看護学の専門性と看護学部との継続性を維持した基盤看護学・療養支援看護学・家族支援看護学・生活支援看護学の4分野（10特定分野を含む）で構成し、併せて看護学基礎研究領域と看護学課題研究・高度実践の2領域を担う編成とし、それぞれの専門分野に教育・研究を中心となって推進する教員を配している。

教員一覧

| 分 野 | 専門分野 | 職 位 | 氏 名 |
|------------|------------------------|-------------------|--------|
| 基盤看護学 | 基礎看護学 | 教 授 | 土田 敏恵 |
| | 看護教育学 | 教 授 | 竹田 千佐子 |
| 療養支援看護学 | 急性看護学（基礎・CNS） | 教 授 | 網島 ひづる |
| | | 准教授 | 笹川 寿美 |
| | がん看護学（基礎・CNS） 慢性看護学 | 教 授 | 神崎 初美 |
| | | がん看護学（基礎・CNS） | 准教授 |
| | 慢性看護学 | 准教授 | 松本 麻里 |
| | 精神看護学 | 教 授 | 新井 信之 |
| 家族支援看護学 | 小児看護学 | 准教授 | 石原 あや |
| | 母性看護学 | 教 授 | 西村 明子 |
| | 助産学 | 准教授 | 岡田 公江 |
| 生活支援看護学 | 老年看護学 | 教 授 | 細見 明代 |
| | 地域看護学 | 准教授 | 土井 有羽子 |
| | 在宅看護学 | 准教授 ^{*1} | 堀口 和子 |
| 大学院・BP講義担当 | | 講 師 | 貞永 千佳生 |
| | | 講 師 | 鈴木 千枝 |
| | | 講 師 | 鈴木 みゆき |
| | | 講 師 | 山田 千春 |

| 分野 | 専門分野 | 職位 | 氏名 |
|---------|------|----|--------|
| BP 講義担当 | | 講師 | 立垣 祐子 |
| | | 講師 | 藤井 加那子 |
| | | 助教 | 井上 満代 |
| | | 助教 | 片田 千尋 |
| | | 助教 | 久保田 真美 |
| | | 助教 | 山内 洋子 |
| | | 助教 | 宮前 奈央 |

※1 12月1日付 教授に昇任

3) 医療科学研究科

特記事項

平成23年開設の本研究科は、豊富な臨床経験と研究業績を有し、博士の学位を有する教授7名、准教授3名、講師6名で構成されている。そして専門分野として病態運動学および人間活動科学の2つに、さらに運動器障害、内部障害、神経障害、身体・認知活動、精神活動の5つの専門領域に分かれて、それぞれ専門的な教育と研究指導を行っている。また大学院を担当する教員は、専門科目ならびに専門基礎科目についても、学部専任教員を兼ねており、それぞれ臨床経験を有し、臨床現場での技術指導を継続的に実施している教員をもって充当することとしている。

教員一覧

| 分野 | 専門分野 | 職位 | 氏名 |
|---------|---------|-------|--------|
| 病態運動学 | 運動器障害 | 教授 | 川口 浩太郎 |
| | | 教授 | 藤岡 宏幸 |
| | | 准教授 | 坂口 顕 |
| | | 講師 | 塚越 累 |
| | 内部障害 | 教授 | 玉木 彰 |
| | | 教授 | 勝野 朋幸 |
| | | 講師 | 森沢 知之 |
| | | 講師 | 宮本 俊朗 |
| | 神経障害 | 教授 | 日高 正巳 |
| | | 准教授 | 森 明子 |
| 講師 | | 永井 宏達 | |
| 人間活動科学 | 身体・認知活動 | 教授 | 山崎 せつ子 |
| | | 准教授 | 佐野 恭子 |
| | | 講師 | 平上 尚吾 |
| | 精神活動 | 教授 | 山田 大豪 |
| | | 教授 | 松井 徳造 |
| | | 講師 | 有吉 正則 |
| 大学院講義担当 | | 准教授 | 伊藤 斉子 |

第6章 学生支援

1. 修学支援

1) 教育支援室

概要

各学部および共通教育センターにおける教育体制の支援を目的として設置された教育支援室は、平成29年度から「IR部門」、「学習支援部門」、「チーム医療教育支援部門」、「FD・SD部門」の4部門に改組して、以下の業務を中心に、大学における教育を支援している。

- ・学部等における教育の質の向上に関すること
- ・教学改善に係るIR（Institutional Research）活動に関すること
- ・履修支援対象者対策および成績優秀者へのアドバンスト教育に関すること
- ・兵庫医科大学との教育連携に関すること
- ・教職員のFD・SDに関すること
- ・教育評価（教員評価を含む。）に関すること

本年度の教育支援室の各部門の活動は以下の通りである。

IR部門

修学実態調査等、学生の学修状況や生活状況等のデータ収集、解析、評価等を行った。

学習支援部門

リメディアル教育を含めた初年次教育を中心に、各学部の実情に応じ学習支援員の募集と配置を行い、履修を支援した。本学の重点課題の一つである履修支援対象者対策として、学習支援部門を活動拠点に、当該学生への教育支援を行う教員（学習支援員）を前期および後期それぞれ募集し、延べ26名の教員が活動に従事した。

前期は薬学部においては、第1学年次の低学力者を対象に、カリキュラム外での履修支援を行った。後期は、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部において、前期で学習困難な学生およびドロップアウトに繋がる可能性がある学生を対象に、生活面・学習習慣づけを目的に支援し、活動に対しては、教育助成金を配分した。

<学習支援員内訳>

| 所 属 | 前 期 | 後 期 |
|-------------|-----|-----|
| 薬学部 | 10 | 10 |
| 看護学部 | 0 | 2 |
| リハビリテーション学部 | 0 | 2 |
| 共通教育センター | 1 | 1 |
| 計 | 11 | 15 |

チーム医療教育支援部門

各職種からの助言や指導が行えるよう、各学部学科の専門資格を持つ教員を兼務教員として配置した。

また、共通教育センターが提供するチーム医療教育科目である早期臨床体験実習（第1学年次）およびチーム医療論演習（第4学年次）を支援した。

早期臨床体験実習（Early Clinical Exposure：ECE）（第1学年次）

病院実習は、平成29年6月9日・16日・23日・30日の計4日間、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の第1学年次を対象に、兵庫医科大学病院において実施した。大学入学後早期に医療の実際に直接触れ医療専門職者になるための自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目標としている。3学部4学科の学生の混成による80グループを編成し、各グループは延べ2日間に亘って、各病棟の看護業務見学実習を半日、薬剤部およびリハビリテーション部の概要説明と見学実習を半日行った。

4学部合同チュートリアルは、平成29年9月11日・12日・13日、本学において兵庫医科大学第1学年次と本学の第1学年次を対象に、4学部混成の80グループでTBL（チーム基盤型学習）形式の合同チュートリアルを行った。全員に予習資料をmoodleにて配信し、最初に個人テスト、次いでクイズを用いたグループテストを実施した。その後2日間に亘るグループ討議を経て、最終日にグループ発表を行った。最後に今回のチュートリアルの解説・総評を行い、最も成績の優秀なグループを表彰した。

本年度は医療倫理を題材としたシナリオを提示し、これに沿って自分たちで問題点を抽出し、様々な角度から議論することを通じて、学部の垣根を越えた学生間での活発な意見交換の機会となる教育企画であった。

チーム医療論演習（第3、4学年次）

4学部合同チュートリアルは、平成29年9月4日～8日の5日間に亘り、兵庫医科大学において兵庫医科大学第3学年次と本学第4学年次を対象に4学部混成64グループでTBL形式にて行った。学生達は予習を行った上でこの科目に臨み、与えられた症例に対してグループで協力して問題解決に取り組んだ。患者の価値観をふまえて、それぞれの職種の視点から議論を重ね、最後にグループ発表を行った。プログラムの中では、外部講師によるチーム医療に関する講演や、兵庫医科大学病院の医療スタッフによる模擬カンファレンス等も実施した。短期間ではあるが、他職種と協働しチームで患者中心の問題解決を図ることの重要性をより深く理解する機会となった。

FD・SD部門

大学設置基準改正による教職員へのSDの義務化を踏まえ、従来取り組んできたFDおよびSD活動を統括して教職員の資質向上を図った。

また、各部門による学部等の教育体制への支援に加え、教育委員会と連携し、授業改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」を実施した。その年間の授業評価アンケートの集計結果を基に、教育委員会との合同ワーキンググループにおいて、各学部開講科目の中から、それぞれ1授業科目を「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2017」として選出した。

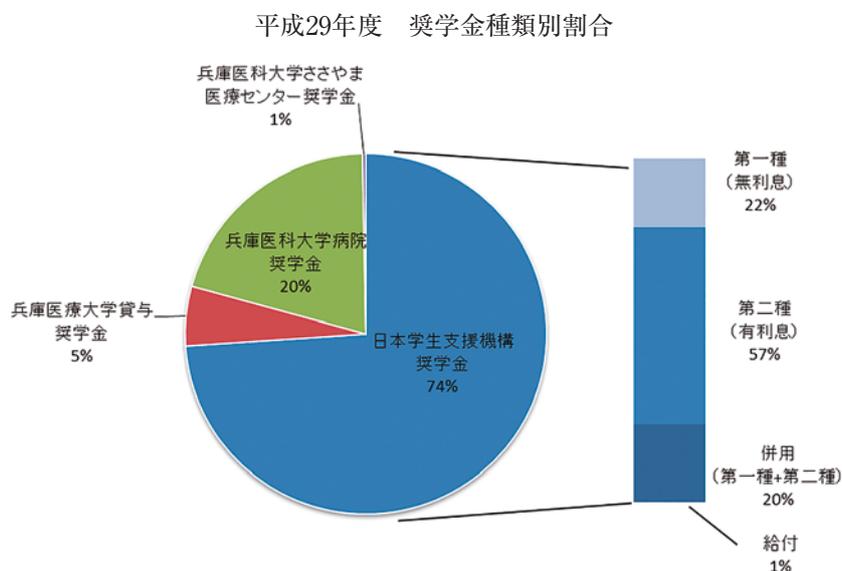
2) 奨学金

概要

本学では、学生全体の学習意欲を高め、優秀な学生を輩出し、次代の医療をリードする人材の育成を目指すことを目的とし、入学試験において優秀な成績を修めた入学生に対し、また、入学後に優秀な成績を修め、他の規範となる資質を有すると認められた在学学生に対し、兵庫医療大学入学生・在学学生特別奨学金制度を設置するとともに、学生が大学生活を送るにあたり、意欲的に学業に専念できるよう、経済的なサポートを行うため、次の奨学金を取り扱っている。

- ・兵庫医療大学貸与奨学金

- ・兵庫医科大学病院奨学金
- ・兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金
- ・日本学生支援機構奨学金



特記事項

・日本学生支援機構奨学金において、従来の奨学金と合わせて、意欲と能力のある若者が経済的理由により進学を断念することのないよう、原則として返還義務のない奨学金を支給することにより進学を後押しする目的で平成30年度より本格実施される「給付奨学金」が一部先行実施された。

3) 学内広報

広報誌「HUHS NOW」

大学執行部の活動状況をはじめ、大学全体がどのように動いているのかをより一層理解いただくことを目的とした大学広報誌「HUHS NOW」を発行している。昨年度までは保護者、在学生および教職員を対象として作成していたが、今年度より規模を縮小し保護者版のみ作成することとした。

<保護者版>

○平成29年10月発行 (Vol.5)

- ・学長メッセージ「“医療大10周年！”－新たな10年へ向けて－」
- ・HUHSvision20
- ・保護者会開催概要
- ・各学部長・共通教育センター長メッセージ
- ・キャリア・就職サポート
- ・教務からのお知らせ
- ・学生生活に関するお願い

2. 実習支援

1) 臨床薬学研修センター

概要

臨床薬学研修センターは、M棟の1階 (M-105) と2階 (M-205) に位置しており、保険薬局や

病院薬局における薬剤師業務を模擬的に演習・実習できるように設置された施設である。施設の構成は、学生が臨場感をもって臨床現場での薬剤師業務の実習ができるように、室内デザイン、設置機器およびシステム等に工夫が施されており、調剤はもちろんのこと服薬指導やバイタルチェック等の実習も可能になっている。

本センターは、実務実習事前学習の実習室として中心的な役割を果たしているほか、第4学年次に受験する全国統一薬学共用試験(OSCE)の試験会場の一部に充てている。さらに、学内のゼミナールの場としても活用している。

病院・薬局実務実習

薬学部の6年制教育において臨床に係る実践的能力を培うためには、実務実習の効果的な実行が不可欠であり、病院および薬局においてそれぞれ11週間の実務実習が義務づけられている。本学では、第5学年次138名が3期（一部は4期）に分かれて、平成29年4月12日から平成30年3月26日の期間で実習施設（病院：63、薬局：130）において、それぞれ11週にわたる実務実習を終了した。

| 区 分 | 第1期 | 第2期 | 第3期 | 第4期 |
|--------|---------------|---------------|----------------|----------------|
| 病院（4期） | 4/12～7/02：14名 | 7/3～09/24：14名 | 9/25～12/10：06名 | 1/09～03/26：05名 |
| 病院（3期） | 5/08～7/23：34名 | 9/4～11/19：26名 | 1/09～13/26：38名 | |
| 薬局（3期） | 5/08～7/23：23名 | 9/4～11/19：90名 | 1/09～13/26：25名 | |

2) 医療人育成研修センター

概要

平成29年度から、従来の医療人育成センターが医療人育成研修センターとして改組されて活動を開始した。医療人育成研修センターは、学校法人兵庫医科大学のチーム医療の基本理念を踏まえて次のような活動を行う。

- ・兵庫医科大学・兵庫医療大学の連携教育・研修を強化充実させる。
- ・医療従事者等を対象に実施している本法人のチーム医療理念に沿ったチーム医療教育および個々のスキルアップに繋がる研修を継続して行う。
- ・兵庫医科大学病院における卒後臨床研修の充実を図る。

3. 生活支援

保健管理センター

概要

保健管理センターは、保健室（医師1名、保健師3名）と学生相談室（医師1名、臨床心理士2名）の2部門より構成され、学生を対象として体調の変化や心の悩みの相談に応じている。定期健康診断および予防接種の実施、感染症の集団発生や事故の予防等、学生の健康管理やメンタルヘルスケアの積極的支援を心がけている。また、病気や事故が発生しないよう、何らかの徴候を自覚した時点で気楽に相談してもらえるように努めている。

1) 保健室

①健康診断の実施

健康診断実施時に学生から提出のあった「健康調査票」に基づき、相談希望または医師が必要と判断した学生に対して、医師・保健師による面談を行い、学生生活での健康管理に役立つように指

導や助言を行った。

健康診断の結果、「要治療」、「要精密検査」となった学生には、医療機関での受診および精密検査を勧め、当該結果について確認を行うとともに、生活習慣を改善する必要のある学生には、保健指導を行った。

定期健康診断実施状況

| 実施日 | 対象学生 | |
|---------|-------------|---------|
| 4月6日(木) | 看護学部 | 第2～4学年次 |
| | リハビリテーション学部 | |
| 4月7日(金) | 薬学部 | 第2～6学年次 |
| 4月4日(火) | 全学部 | 第1学年次 |

※会場：G棟アリーナ1階、2階※健康診断実施機関：近畿健康管理センター

定期健康診断検査項目

| 学年 | 第1学年次 | 第2～6学年次 |
|-----------------|-------|---------|
| 身体計測(身長・体重・BMI) | ○ | ○ |
| 腹囲測定 | ○ | × |
| 血圧測定 | ○ | ○ |
| 視力検査 | ○ | ○ |
| 聴力検査(オーディオメーター) | ○ | × |
| 内科診察 | ○ | ○ |
| 胸部X線デジタル撮影 | ○ | ○ |
| 尿検査(潜血・蛋白・糖) | ○ | × |
| 心電図検査 | ○ | × |
| 血液検査 | ○ | × |

※血液検査項目：RBC・Hb・Ht・WBC、AST・ALT・ γ -GTP、TG・HDL-CHO・LDL-CHO、GLU

定期健康診断実施者数

| 学部 | 在学生数 | 健康診断 | |
|-------------|------|------|-------|
| | | 実施者数 | 受診率 |
| 薬学部 | 925 | 925 | 100.0 |
| 看護学部 | 441 | 441 | 100.0 |
| リハビリテーション学部 | 358 | 358 | 100.0 |

② 抗体検査およびワクチン接種の実施

学外臨床実習等における感染予防対策として、平成28年度から日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版」に沿って実施し、接種回数も原則2回とした。

第1学年次に対して、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ウイルスのEIA法によるIgG抗体検査を実施し、抗体価が基準を満たさない学生にはワクチンを接種した。

また、第1学年次のワクチン接種後の抗体検査で基準を満たさない学生には、第2学年次に2回目のワクチン接種を行った。

抗体検査およびワクチン接種実施状況

| 実施日 | 抗体検査、ワクチン接種 | 対象学生 |
|-----------|----------------|-------------------------------|
| 4月4日(火) | 抗体検査(健康診断時の採血) | 全学部第1学年次 |
| 5月11日(木) | ワクチン接種 | 看護学部・リハビリテーション学部第1学年次 接種対象者 |
| 5月18日(木) | ワクチン接種 | 薬学部第1学年次、看護学部第3学年次 接種対象者 |
| 6月8日(木) | ワクチン接種 | 看護学部・リハビリテーション学部第1～3学年次 接種対象者 |
| 6月15日(木) | ワクチン接種 | 薬学部第1～3学年次 接種対象者 |
| 7月13日(木) | ワクチン接種 | 全学部第1・2学年次 接種対象者 |
| 7月14日(金) | ワクチン接種後の抗体検査 | 看護学部・リハビリテーション学部第3学年次 |
| 10月16日(月) | ワクチン接種後の抗体検査 | 薬学部第3学年次、看護学部第2学年次 |
| 10月17日(火) | ワクチン接種後の抗体検査 | 薬学部第2学年次、作業療法学科第1学年次 |
| 10月26日(木) | ワクチン接種後の抗体検査 | リハビリテーション学部第2学年次、理学療法学科第1学年次 |
| 10月27日(金) | ワクチン接種後の抗体検査 | 薬学部第1学年次 |
| 11月1日(水) | ワクチン接種後の抗体検査 | 看護学部第1学年次 |

※会場：G棟アリーナ1階、2階 ※健康診断実施機関：近畿健康管理センター

ワクチン接種後の抗体獲得率

(平成30年3月末現在)

| | 麻疹 | 風疹 | 流行性耳下腺炎 | 水痘 |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 第1学年次 (平成29年度入学) | 68.9 (39.4) | 85.1 (61.6) | 89.4 (56.1) | 99.2 (91.7) |
| 第2学年次 (平成28年度入学) | 78.8 (41.5) | 94.4 (61.0) | 93.6 (62.4) | 98.6 (92.2) |
| 第3学年次 (平成27年度入学) | 87.6 (47.1) | 98.2 (68.2) | 94.7 (63.3) | 98.5 (92.8) |

※基準は、EIA法(IgG) 麻疹16.0、風疹8.0、流行性耳下腺炎4.0、水痘4.0

※()内は入学時の抗体検査において基準を満たす率

③ 利用状況

症状別保健室利用者数

| 月別 | 内科 | 外科 | 他科 | 再掲(内科・外科・他科のいずれか) | | | 医師相談 保健師相談 | 面談・ 説明 | 測定 | その他 | 合計 |
|-----|-----|-----|----|-------------------|----------------|-------|---------------|-----------|----|-----|-------|
| | | | | ベッド休養 | 医療機関 タクシー搬送 | 救急車搬送 | | | | | |
| 4月 | 21 | 6 | 11 | 11 | 0 | 0 | 18 | 171 | 2 | 6 | 235 |
| 5月 | 31 | 20 | 21 | 23 | 2 | 0 | 44 | 497 | 2 | 22 | 637 |
| 6月 | 37 | 14 | 13 | 22 | 0 | 0 | 4 | 282 | 9 | 8 | 367 |
| 7月 | 22 | 14 | 8 | 11 | 0 | 2 | 0 | 195 | 1 | 13 | 253 |
| 8月 | 10 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 72 | 1 | 2 | 88 |
| 9月 | 9 | 5 | 3 | 5 | 0 | 0 | 1 | 40 | 0 | 8 | 66 |
| 10月 | 17 | 8 | 3 | 7 | 0 | 0 | 1 | 163 | 2 | 9 | 203 |
| 11月 | 24 | 14 | 9 | 10 | 0 | 0 | 4 | 78 | 5 | 15 | 149 |
| 12月 | 18 | 8 | 6 | 9 | 0 | 0 | 2 | 143 | 0 | 8 | 185 |
| 1月 | 16 | 5 | 3 | 4 | 0 | 0 | 1 | 253 | 2 | 11 | 291 |
| 2月 | 9 | 6 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 71 | 10 | 11 | 110 |
| 3月 | 6 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 62 | 0 | 0 | 70 |
| 合計 | 220 | 102 | 83 | 108 | 2 | 2 | 75 | 2,027 | 34 | 113 | 2,654 |

2) 学生相談室

① 利用状況

学生相談室は、臨床心理士2名体制、開室日は月・火・木・金の週4日である。相談室では、新入学オリエンテーション時において、パワーポイントでの施設案内や相談員の紹介および学生相談室春のイベント案内等相談室の広報活動を行っている。相談内容を区分的にみると昨年度に引き続き「授業等の学業」が上位に位置している。また、学生を取り巻く関係者（教職員・保護者）とのコンサルテーションを中心とした支援では、発達障がい学生、聴覚障がい学生の支援において連携を行っている。

利用件数

| 相談内容 | | 学生 | 教職員 | 保護者 | その他 | 合計 |
|-----------|-----|-----|------|-----|-----|------|
| 家族や家庭内のこと | | 3 | | | | 3 |
| 授業等学業 | | 170 | | | | 170 |
| 就職や将来の進路 | | 13 | | | | 13 |
| 性格 | | 107 | | | | 107 |
| 友人等との対人関係 | | 39 | | | | 39 |
| 課外活動 | | 3 | | | | 3 |
| その他 | 電話 | 45 | 101 | 10 | 14 | 170 |
| | メール | 152 | 904 | 24 | 2 | 1082 |
| | その他 | 85 | 476 | 4 | | 565 |
| 合 計 | | 617 | 1481 | 38 | 16 | 2152 |

学生利用件数

| 相談内容 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | |
|-------------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|
| 就職や将来の進路 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 1 | 3 | 13 | |
| 異性問題 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 授業等学業 | 18 | 19 | 19 | 14 | 12 | 13 | 17 | 12 | 15 | 8 | 8 | 15 | 170 | |
| 友人等との対人関係 | 2 | 9 | 10 | 6 | 3 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 39 | |
| 性格 | 5 | 8 | 14 | 14 | 6 | 8 | 7 | 11 | 13 | 12 | 5 | 4 | 107 | |
| 経済問題 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| (家計・学費・ローン) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 価値観 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 健康 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 課外活動 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | |
| 家族や家庭内のこと | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | |
| その他 | 電話 | 4 | 0 | 5 | 5 | 4 | 1 | 3 | 4 | 3 | 5 | 2 | 9 | 45 |
| | メール | 7 | 7 | 11 | 18 | 17 | 21 | 7 | 20 | 21 | 9 | 5 | 9 | 152 |
| | その他 | 20 | 7 | 1 | 2 | 1 | 3 | 6 | 1 | 22 | 21 | 1 | 0 | 85 |
| 合 計 | 59 | 50 | 63 | 59 | 44 | 47 | 45 | 51 | 79 | 55 | 25 | 40 | 617 | |

教職員等コンサルテーション件数

| | 教職員 | 保護者 | その他 | 合計 |
|----|-------|-----|-----|-------|
| 件数 | 1,495 | 38 | 16 | 1,549 |

② イベントの開催

イベント開催は、学生が、学生生活において、悩んだり困ったりしたときに相談室に来談しやすいように、相談員との交流を図り、相談室の敷居を低くする広報活動の一環として行っている。

学生相談室イベント

| 開催日 | 内容 | 参加者数(人) |
|-----------|-------------|----------|
| 4月18日(火) | ウェルカムパーティー | 27(内教員4) |
| 10月10日(火) | 第一印象アップセミナー | 33(内教員5) |
| 12月12日(火) | クリスマスパーティー | 17 |
| 1月16日(火) | デコチョコ作り | 15 |
| 合計 | | 92 |

開催場所：くつろぎスペースひだまり

③ 障がい学生支援

学生委員会の下部組織である障がい学生支援部会のメンバーとして、教職員と共に支援を行った。

④ 研修会

平成29年9月26日(火)、本学で開催されたポーアイ5大学共同実施職員SD研修会「性同一性障害の概要および他大学の支援状況～セクシャルマイノリティ(LGBT)への支援、支援事例について」にて、相談員である臨床心理士が研修会講師を務めた。

4. 進路支援

キャリアデザインセンター

概要

社会で活躍できる卒業生の輩出を目的とする専門職種教育支援の拠点として、平成21年4月からキャリアデザインセンターをM棟1階に設置している。また、その円滑な運用のためキャリアデザイン委員会を設置し、毎月1回の委員会を開催している。主に卒業年次を対象とした合同病院説明会および企業説明会の企画・運営をはじめ、各種講座・ガイダンスの実施、求人情報の提供、応募書類の作成、面接指導等の「就職支援」や、低学年次から学生が自己の能力や適性、志望に応じた卒後の進路を主体的に設計・選択できる能力を培うことができる「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしている。

説明会・ガイダンス・講座等

<学校法人兵庫医科大学連携病院の会「合同病院説明会」の開催>

平成29年4月22日(土)、本学神戸キャンパス体育館アリーナにおいて、薬学部6年生、看護学部およびリハビリテーション学部第4学年次を中心とし、全学部・全学年の学生(希望者)を対象に病院説明会を開催した。兵庫、大阪の49法人53病院が各々のブースを設けて、416名の参加学生は、希望のブースを回り、病院の基本情報、特色・理念や教育システム等についての説明を熱心に聞いて

た。また、この合同病院説明会は、本格的な就職活動が近づく最終学年だけでなく、それ以外の学年においても計177名が参加し、就職活動支援だけではなく、キャリア形成の支援としても貴重な機会となった。

<薬学部就職ガイダンス・企業説明会の開催>

薬学部生の就職活動開始に合わせ、平成30年3月18日（日）（午前）に薬学部第5学年次を対象に神戸サンポーホールで第7回就職ガイダンスを開催した。午後からは外部の合同企業説明会に参加し、126名の学生が、参加40社（企業3社、病院3グループ、調剤ドラッグストア34社）のブースを訪問し、企業情報、理念、特色等について17時30分まで説明を聞いた。

<登録販売者資格取得支援の実施>

薬学部生へのエクステンションとしての取組みとして、「登録販売者資格」の取得を促進、支援するため、平成29年4月18日（火）に薬学部第2、3学年次を対象に受験ガイダンスを開催した。31名の学生が参加し、同資格の概要やメリット、受験手続の代行、テキストの貸出等キャリアデザインセンターで行うサポートの説明を聞いた。参加者のうち、24名の学生が資格試験を受験した。

<内部質保証の点検・評価のための調査を実施>

大学は、理念や目的の実現のために教育の質を保証する制度を整備し、定期的に点検・評価、公表する内部質保証が求められている。本学のディプロマポリシーが、「医療を担う医療専門職者の資質を持った学生に学位を授与する」であることから、就職先および卒業生に医療専門職者として従事しているか、本学の教育が社会および卒業生に役立ったかを問う調査を実施した。過去に3名以上の卒業生が就職した107の病院や企業と、看護学部の卒業生に実施した。

<仕事研究セミナーの開催>

キャリア形成支援として、様々な医療専門職者の方々に、実習ではなかなか聞くことができない現場の話や、医療専門職としての心構えや学生時代にしておくべきこと等講演いただく、仕事研究セミナーを開催した。

| 開催日 | 内容 | 対象 | 参加者数(人) |
|-----------|---------------------------------|-------------|---------|
| 4月22日(土) | 卒業生による業界、職種説明(体験談・自己分析ワーク) | 薬学部第1～5学年次生 | 30 |
| 6月6日(火) | 卒業生からのメッセージ(兵庫県立ひょうごこころの医療センター) | 看護学部 | 22 |
| 10月13日(金) | 卒業生からのメッセージ(アイビスケアセンター) | 理学療法科学科 | 36 |
| 10月30日(月) | 回復期リハビリ病棟にOTとして勤務して | 作業療法学科 | 16 |
| 12月14日(木) | グローバルの視点で将来の進路を考えよう | 薬学部 | 6 |
| 11月14日(月) | 回復期病院での仕事について | 理学療法学科 | 131 |

<兵庫医科大学病院・ささやま医療センター説明会の開催>

就職支援として、各学部の就職活動時期に合わせて兵庫医科大学病院、ささやま医療センターの担当者による病院概要や教育体制についての説明のほか、先輩の就業体験、採用に関する説明、個別相談会を開催した。

| 開催日 | 対 象 | 参加者数(人) |
|----------|-------------------|---------|
| 12月8日(金) | リハビリテーション学部第3学年次生 | 75 |
| 2月23日(金) | 看護学部第3学年次生 | 89 |

<就職支援講座・セミナー>

主に就職試験前の学生を対象として、履歴書の書き方や面接対策に関する講座を開催した。また、保健師や公務員等を希望する学生についても、就職活動の現状等把握のため、各種ガイダンスや対策講座を開催した。

| 開催日 | 内 容 | 対 象 | 参加者数(人) |
|----------|-------------|----------------------|---------|
| 4月22日(土) | 就職ガイダンス | 看護学部第1～3学年次生 | 28 |
| 4月23日(土) | 面接対策講座 | 薬学部第6学年次生、看護学部第4学年次生 | 89 |
| 8月26日(土) | 社会人スキル対策講座 | リハビリテーション学部 | 81 |
| 9月6日(月) | 保健師ガイダンス | 看護学部 | 8 |
| 9月6日(月) | 公務員採用試験対策講座 | 全学部 | 7 |
| 3月18日(日) | 就職ガイダンス | 薬学部第5学年次生 | 119 |

<社会人スキルガイダンスの開催>

主に病院実習等に参加する前の学生に対して、社会人としてのマナーに関する講座を開催した。

| 開催日 | 対 象 | 参加者数(人) |
|----------|------------------|---------|
| 8月26日(土) | リハビリテーション学部第4年次生 | 81 |
| 9月7日(木) | 看護学部第3年次生 | 89 |
| 2月21日(水) | 看護学部第4年次生 | 99 |

<キャリアデザインセンターの利用>

キャリアデザインセンターの利用は、延べ3,194件であった。利用目的は、主に応募書類の履歴書の指導・添削、進路等の相談、模擬面接および証明書等各種発行で、その内訳は下表のとおりであった。

(単位：件)

| 履歴書添削 | 各種相談 | 模擬面接 | その他 | 合 計 |
|-------|------|------|-------|-------|
| 790 | 717 | 308 | 1,379 | 3,194 |

就職状況

| 学 部 | | 薬学部 | 看護学部 | リハビリテーション学部 | |
|------|------|-------|------|-------------|--------|
| 学 科 | | 医療薬学科 | 看護学科 | 理学療法学科 | 作業療法学科 |
| 卒業生数 | | 139 | 89 | 42 | 43 |
| 内 訳 | 就職者数 | 67 | 89 | 42 | 41 |
| | 進学者数 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | その他 | *72 | 0 | 0 | *2 |

※国家試験の結果等で就職に向けて準備中の者
(平成30年5月31日現在)

就職先一覧

| 薬学部 | |
|--------------------|--|
| 病院 | 兵庫医科大学病院 八尾総合病院 はくほう会セントラル病院 宝塚市立病院 豊岡病院 明石医療センター 宝塚第一病院 鳥取大学医学部附属病院 総合大雄会病院 神戸市立医療センター中央市民病院 尼崎総合医療センター 宝塚三田病院 協立温泉病院 |
| 調剤・ ドラッグ ストア | サエラ薬局 クラフト(株) さくら薬局 (株)スギ薬局 (株)ファーマホールディング (なの花薬局) ウエルシア薬局(株) 日本調剤(株) 阪神調剤ホールディング(株) (株)サンドラッグ (株)祥漢堂 フタツカ薬局グループ (株)アルカ アルカ調剤薬局 (株)ココカラファインヘルスケア クオール(株) (株)クリエイトエス・ディー (株)グッドプランニング |

| 薬学部 | |
|--------------------|--|
| 調剤・ ドラッグ ストア | (株)フロンティア (株)ティエスプラン (株)フォーリーフのぞみ薬局 (株)アピスファーマシー (株)アインファーマシーズ (アイングループ) ゆう薬局グループ (宇野薬品株式会社) (株)マツモトキヨシ トリニティー(株) イオンリテール(株) 総合メディカル(株) (株)すまいる(かもめ薬局) (株)メディカルー光フラワー薬局 ニシイチ薬局グループ(株) ニシイチドラッグ (株)沖縄健康企画 (株)ほうしや薬局 (株)メディカルボックス 北摂調剤株式会社(株) |
| 企業 | 日医工(株) |

| 看護学部 |
|-------------------|
| 兵庫医科大学病院 |
| 兵庫医科大学ささやま医療センター |
| 明和病院 |
| 関西ろうさい病院 |
| 千船病院 |
| 神戸徳洲会病院 |
| 神戸百年記念病院 |
| 宝塚市立病院 |
| 神戸アドベンチスト病院 |
| 姫路赤十字病院 |
| 一宮市立市民病院 |
| 神戸市立医療センター中央市民病院 |
| 大阪母子医療センター |
| 大阪府済生会吹田病院 |
| 加古川中央市民病院 |
| 大阪医科大学附属病院 |
| 大阪大学医学部附属病院 |
| 兵庫県立こども病院 |
| 北野病院 |
| 西神戸医療センター |
| 兵庫県立リハビリテーション中央病院 |
| 神戸大学医学部附属病院 |
| 京都府立医科大学附属病院 |
| 京都大原記念病院 |
| 兵庫県（保健師） |
| 大阪府（保健師） |
| 尼崎市（保健師） |

| リハビリテーション学部(理学療法学科) |
|---------------------|
| 兵庫医科大学病院 |
| はくほう会セントラル病院 |
| 西宮回生病院 |
| 神戸救済会病院 |
| 西宮協立脳神経外科病院 |
| 市立芦屋病院 |
| 千船病院 |
| 相原第二病院 |
| 医真会八尾総合病院 |
| 順心リハビリテーション病院 |
| 信原病院 |
| 西神戸医療センター |
| ときわ病院 |
| 神鋼記念病院 |
| 協和会病院 |
| 伊丹恒生脳神経外科病院 |
| 心臓病センター榊原病院 |
| 京都下鴨病院 |
| 姫路聖マリア病院 |
| 明舞中央病院 |
| 尼崎だいもつ病院 |
| 愛仁会リハビリテーション病院 |
| 京都桂病院 |
| 関西電力病院 |
| 神戸マリナーズ厚生会病院 |
| 新須磨リハビリテーション病院 |
| 岸和田徳洲会病院 |
| 友紘会総合病院 |
| 広畑センチュリー病院 |
| 北野病院 |
| ツカザキ病院 |
| 加納総合病院 |
| 神戸協同病院 |
| 辻外科リハビリテーション病院 |

リハビリテーション学部(作業療法学科)

兵庫医科大学ささやま医療センター
美原病院
尼崎中央病院
はくほう会セントラル病院
宝塚三田病院
六甲アイランド甲南病院
ポートアイランド病院
西宮協立脳神経外科病院
西宮協立リハビリテーション病院
西宮回生病院
加古川中央市民病院
医療法人達磨会 東加古川病院
大阪発達総合療育センター
吉田病院附属脳血管研究所
地方独立行政法人神戸市民病院機構
神戸リハビリテーション病院
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
垂水病院
ときわ病院
金岡中央病院
姫路中央病院
西宮渡辺病院
長久病院
subaco
医療法人尚和会
いずみ診療所
摂津医誠会病院
関西電力病院
医療法人明倫会
ツカザキ病院
藍野花園病院
神戸労災病院
大分中村病院
和泉中央病院
順心リハビリテーション病院

5. 学生会・課外活動

①活動状況

平成29年4月の時点で、学生会組織3団体、部活動9団体、登録団体（サークル）18団体が公認を受けて活動している。その後、10月に登録団体1団体が新たに公認を受けた。

大学公認課外活動団体一覧

| 団体区分 | 団体名称 | 所属人数（人） |
|------------|--------------------------|---------|
| 学生会組織 | 兵庫医療大学 学生会 | 29 |
| | 兵庫医療大学 大学行事实行委員会 | 24 |
| | 兵庫医療大学 部会 | 23 |
| 小 計 | | 76 |
| 部活動団体 | 兵庫医療大学 バスケットボール部 | 40 |
| | 兵庫医療大学 バドミントン部 | 46 |
| | 兵庫医療大学 野球部 | 25 |
| | 兵庫医療大学 硬式テニス部 | 49 |
| | 兵庫医療大学 サッカー部 | 40 |
| | 兵庫医療大学 卓球部 | 28 |
| | 兵庫医療大学 軽音楽部 | 105 |
| | 兵庫医療大学 Jazzバンド部 | 82 |
| 兵庫医療大学 剣技部 | 36 | |
| 小 計 | | 451 |
| 登録団体 | 兵庫医療大学 バレーボールサークル | 117 |
| | HUHS バスケットボールサークル | 69 |
| | 兵庫医療大学 フットサルサークル | 81 |
| | 兵庫医療大学 ダンスサークル | 94 |
| | 兵庫医療大学 ヨガサークル | 17 |
| | 兵庫医療大学 柔道サークル | 3 |
| | 兵庫医療大学 ソフトテニスサークル | 50 |
| | 兵庫医療大学 アウトドアサークル | 95 |
| | 兵庫医療大学 コピーダンスサークル | 23 |
| | 兵庫医療大学 漫画研究サークル | 34 |
| | 兵庫医療大学 写真サークル | 41 |
| | 兵庫医療大学 医療研究サークル | 26 |
| | 兵庫医療大学 書道華道茶道サークル | 20 |
| | 兵庫医療大学 室内楽団サークル | 7 |
| | 兵庫医療大学 手話サークル | 79 |
| | 兵庫医療大学 ボランティアサークル | 31 |
| | 兵庫医療大学 ポーアイ多職種連携学生ネットワーク | 55 |
| | 兵庫医療大学 ソフトボールサークル | 23 |
| | 兵庫医療大学 水泳サークル | 14 |
| 小 計 | | 879 |
| 合 計 | | 1,406 |

学生会および課外活動関連行事

| 開催日 | | 行事内容 |
|-----|--------|--------------------|
| 4月 | 5日 | 新入生歓迎会 |
| 5月 | 17日 | スポーツ大会 |
| 6月 | 17～18日 | 課外活動リーダーズキャンプ |
| | 27日 | 学生総会 |
| 7月 | | |
| 8月 | | |
| 9月 | | |
| 10月 | 8～9日 | 第10回兵庫医療大学大学祭（海泉祭） |
| 11月 | 20日 | 臨時学生総会 |
| | | 学生会等役員選挙公示 |
| 12月 | 13日 | クリスマスイルミネーション点灯式 |
| 1月 | | |
| 2月 | | |
| 3月 | 6～7日 | 公認課外活動団体更新・昇格ヒアリング |
| | 15日 | 卒業記念パーティー |

② 活動支援

(1) リーダーズキャンプの実施

各団体の幹部学生に対し、各団体の役割や在り方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的として、リーダーズキャンプを実施した。

(2) 表彰

課外活動等において優れた功績のあった個人または団体に対し、課外活動奨励賞を設け、2団体を大学祭にて表彰した。

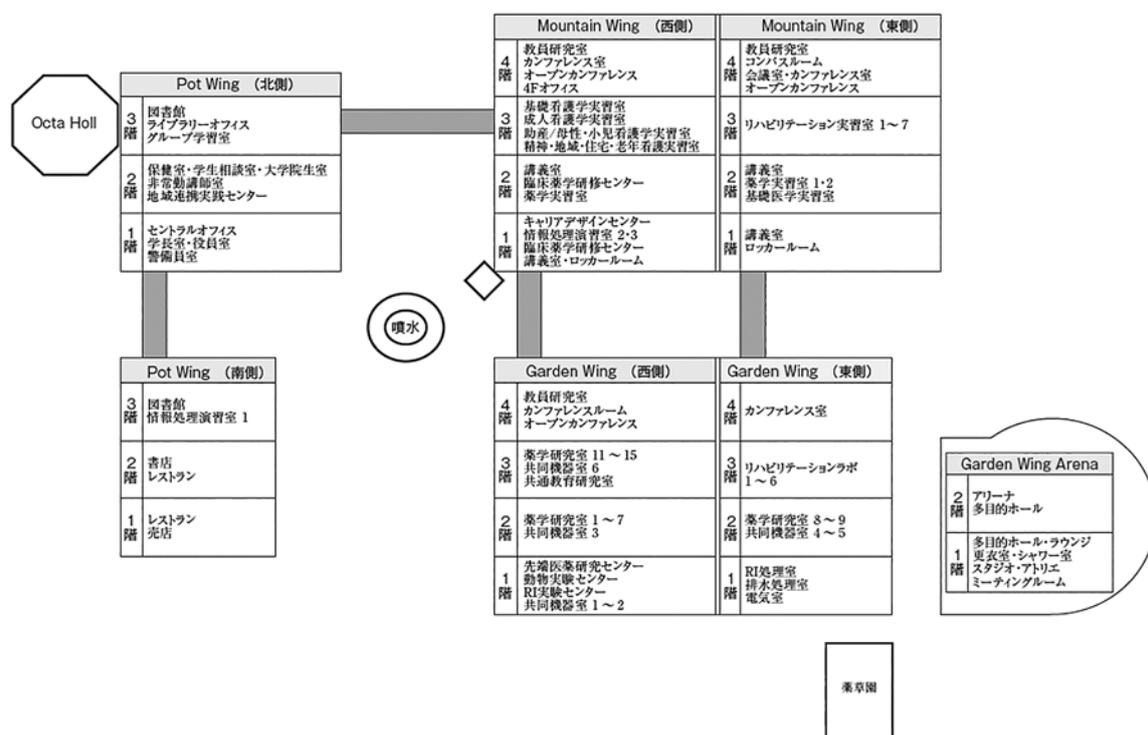
課外活動奨励賞受賞団体一覧

| 対象団体 | 表彰理由 |
|---------------------|--|
| 兵庫医療大学 卓球部 | 西日本薬学生卓球大会女子個人において、優秀な成績を修めた。 |
| 兵庫医療大学 バスケットボール部 | フレンズ杯、春季石神杯、近畿医歯薬バスケットボール大会において、優秀な成績を修めた。 |

第 7 章 教育研究等環境

1. 校地・校舎・施設設備

| 建物区分 | 規模・構造 | 延床面積 (㎡) | 使用区分 | 敷地面積 (㎡) |
|-----------------|---------|-----------|---|----------|
| P 棟 | SRC 造3階 | 8,753.86 | 管理部門、講堂、図書館、食堂、売店、グループ学習室、保健室、地域連携実践センター、大学院生室 | 49,138 |
| M 棟 | SRC 造4階 | 17,025.71 | 講義室、学生実習室、教員研究室、カンファレンス室、臨床薬学研修センター、キャリアデザインセンター | |
| G 棟 | SRC 造4階 | 9,296.26 | 研究室、動物実験室、RI実験室、先端医薬研究センター、共同機器室、Project-Based Learning (PBL) ラボラトリー、リハビリテーションラボ、教員研究室、カンファレンス室 | |
| G棟アリーナ (体育館) | SRC 造2階 | 2,792.26 | アリーナ、部室、多目的室 | |
| 附属棟 | RC 造平屋建 | 125.06 | 倉庫 | |
| 守衛所 | RC 造平屋建 | 4.2 | 警備員詰所 | |
| 合 計 | | 37,997.35 | | 49,138 |



2. 図書館

概要

| | |
|-----------|--------|
| 図書館面積 | 2,305㎡ |
| グループ学習室面積 | 437㎡ |
| 閲覧席 | 408席 |
| グループ学習室 | 20室 |
| 教育用端末 | 22台 |
| 蔵書検索専用端末 | 2台 |
| 視聴覚機器 | 4台 |
| コイン式コピー機 | 2台 |
| 複合機 | 1台 |

統計

・蔵書数

| | |
|-----------------|--------|
| 図書（冊） | 31,927 |
| 雑誌（種） | 469 |
| 視聴覚資料（タイトル） | 1,645 |
| 電子ジャーナル（利用可能種数） | 7,206 |
| 電子書籍（タイトル） | 54 |

（平成29年度末現在）

・年間受入数

| | 和 | | 洋 | | 合計 | |
|-------|-------|-----------|------|-----------|-------|-----------|
| | 冊・点数 | 金額 | 冊・点数 | 金額 | 冊・点数 | 金額 |
| 図書 | 643 | 1,343,923 | 13 | 106,680 | 656 | 1,450,603 |
| 製本雑誌 | 370 | 759,240 | 443 | 909,036 | 813 | 1,668,276 |
| 視聴覚資料 | 14 | 183,132 | 0 | 0 | 14 | 183,132 |
| 合計 | 1,027 | 2,286,295 | 456 | 1,015,716 | 1,483 | 3,302,011 |

雑誌 180種

・開館日数・入館者

| | |
|----------|---------|
| 開館日数 | 301 |
| 入館者数（延数） | 116,822 |

・貸出冊数

| | 学部学生 | 大学院生 | 教職員 | 非常勤講師 | PI4大学連携 | その他 | 合計 |
|-------|--------|------|-----|-------|---------|-----|--------|
| 和書 | 11,175 | 319 | 443 | 0 | 93 | 58 | 12,088 |
| 洋書 | 26 | 4 | 5 | 0 | 0 | 2 | 37 |
| 製本雑誌 | 21 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 31 |
| 視聴覚資料 | 43 | 0 | 66 | 0 | 0 | 0 | 109 |

・グループ学習室（20室）の利用

| | |
|------------|-------|
| 利用総時間数（時間） | 6,758 |
| 講義利用数（コマ） | 84 |

・相互利用

| | 件数 | 複写枚数 | 複写枚数 |
|----|-----------|------|-------|
| 依頼 | 文献複写 | 379 | 2,073 |
| | 貸借（図書の借受） | 1 | — |
| 受付 | 文献複写 | 419 | 1,960 |
| | 貸借（図書の貸出） | 3 | — |

・電子ジャーナル利用状況

| | |
|---------|-------|
| ダウンロード数 | 8,385 |
|---------|-------|

データベースモデル除く（平成29年1月～12月）

・機関リポジトリ利用状況

| | |
|---------|--------|
| アイテム登録数 | 23 |
| 閲覧回数 | 4,162 |
| ダウンロード数 | 12,315 |

特記事項

- ・「兵庫医療大学機関リポジトリ」より、博士論文の公表を開始した。
- ・図書館システム「CARIN-i」のバージョンアップを行った。
- ・兵庫医科大学新教育研究棟図書館へ雑誌架2台の移管を行った。

3. 情報センター

概要

情報センターは、担当副学長と学長により指名された情報センター長、各学部・共通教育センターからそれぞれ2名選出された教員、入試・広報課情報系の事務職員で構成される組織である。兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

4. 薬用植物園

概要

セルフメディケーションや全人的医療が重要視され、その目的に適する漢方薬の需要が高まっている。それに伴い、原料として使用される生薬量は年々増加している。また、薬用植物に含有される化合物は現在でも医薬品としての活用が多数見られ、したがって、薬学教育において医薬品原料となる薬用植物や漢方生薬の基原植物を知ることは大変重要である。

本学でも開学時より「薬学部附属薬用植物園」の整備を進め、医療用生薬等の基原植物を観察できる環境を整え学生の教育に寄与している。以下にこれまでの整備状況を記す。

施設

兵庫県「大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択され、その中で特に丹波地方で生産される生薬トウキを活かした活動が行われた。それに伴い、活動に用いるトウキの葉の採集のため、標本用とは別にトウキ40株を栽培するスペースを整備した。

植物

日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、現在約150種の薬用植物を栽培している。以下にそのリストを示す。(50音順)

薬用植物栽培リスト

アカネ、アカメガシワ、アキノワスレグサ、アジサイ、アシタバ、アセロラ、アフラチャン、アマ、アマチャ、アミガサユリ、アロエ、アンズ、イチヨウ、イブキジャコウソウ、ウイキョウ、ウコン、ウスバサイシン、ウツボグサ、ウド、ウマノスズクサ、ウメ、ウンシュウミカン、エビスグサ、エンジュ、オウレン、オオバコ、オケラ、オタネニンジン、オミナエシ、オリーブ、カカオ、カキ（マメガキ）、ガジュツ、カラスビシャク、カリン、カルダモン、カロライナジャスミン、カワラナデシコ、カワラヨモギ、キキョウ、キク、キササゲ、キツピ、キハダ、ギボウシ、キンミズヒキ、クコ、クサノオウ、クスノキ、クチナシ、クスギ、クララ、クリスマスローズ、クロタネソウ、クロモジ、クワ、ケジギタリス、ケツトウ、ゲンノショウコ、コウホネ、コガネバナ、ゴシュユ、コノテガシワ、コンフリー、サイカチ、サクラ、ザクロ、サボンソウ、サラシナショウマ、サンザシ、サンシュユ、サンショウ、ジギタリス、シデコブシ、シナマオウ、シナレンギョウ、シャクナゲ、シャクヤク、ジャノヒゲ、シラン、ジロボウエンゴサク、スイセン、ストロファンツス、セネガ、センキュウ、センダン、センナ、センリョウ、タイサンボク、ダイダイ、タケニグサ、タチバナ、タマスダレ、タムシバ、タラノキ、チガヤ、チャ、チョウセンゴミシ、ツワブキ、テンダイウヤク、トウキ、トウネズミモチ、トキワイカリソウ、トクサ、ドクダミ、トチバニンジン、トチュウ、トリカブト、ナツメ、ナルコユリ、ナ、テン、ニガキ、日本ハッカ、ニラ、ニワトコ、ヌルデ、ノイバラ、ビル、ハゴロモジャスミン、ハ、リドコロ、ハス、ハトムギ、ハナスゲ、バナナ、ハナミョウガ、パパイア、ハブソウ、ハマゴウ、ハマナス、ハマボウフウ、ビャクブ、ヒヨス、ビワ、フキノトウ、ヘラオオバコ、ハウノキ、ボタン、マルバアイ、マンゴー、マンリョウ、ミシマサイコ、ミラクルフルーツムラサキ、メハジキ、モモ、ヤブツバキ、ヤマコウバシ、ヤマゴボウ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ヤマボウシ、ヤマモモ、レモングラス、ワタ（計154種）

5. 研究活動

概要

本学では、医療を取り巻く環境が大きく変化する状況下、医療、保健、福祉等における様々な課題を解決できる医療人の育成教育の質を担保するためには、薬学、看護学、リハビリテーション学、各々の専門領域の学術的深化を図る研究とともに、専門性に立脚した新たな統合領域研究に取り組む必要があると考え、平成29年6月1日に「兵庫医療大学 研究推進方針」を制定した。本方針に従い、研究推進戦略・方針、研究ブランディング、学内研究助成・顕彰等について全学的な観点から審議しつつ、より一層、本学の研究活動を強化・推進する新しい会議体として「兵庫医療大学 研究委員会」を設置した。本委員会では、手始めに、「平成29年度 私立大学研究ブランディング事業」への申請と、「兵庫医療大学研究助成・顕彰制度」の策定・実施に取り組んだ。残念ながら、前者については不採択となったが、後者の研究助成については実施までこぎつけることができた。その結果、審査会の審

査を経て、10月に11件の研究課題を採択し、20万円の助成を实践した。なお、研究委員会の設置に伴い、平成22年7月から本学の研究活動の推進主体を担っていた研究推進委員会は廃止した。

研究委員会にて取り組む外部資金獲得および公正研究・研究資金適正使用等の教育・研修の実務について企画提案する会議体として「兵庫医療大学 公正研究推進小委員会」を平成29年7月に開設した。本小委員会では、研究支援課と協働しつつ、若手研究助成事業の実施、本学ホームページ（<https://www.huhs.ac.jp/community-affiliations/research-support/assistance>）にて「民間団体からの助成公募情報」の提供、科学研究費助成事業公募説明会、コンプライアンス研修会、公的研究費執行に関する説明会の開催等を通して、本学の教員レベルにおける外部資金獲得ならびに公正研究の推進に務めている。なお、本学では、平成27年度から研究推進委員会が、平成29年度からは公正研究推進小委員会が主体となり、教員だけでなく大学院生や卒業研究に取り組む学部学生に対しても研究者倫理の啓発に取り組んでいる。

一方、本学法人・学校法人兵庫医科大学は、平成26年8月に研究推進戦略本部を設置し、本学と兵庫医科大学における共同研究ならびに両大学の若手研究者の活動を促進するため、平成27年度から新しい二つの制度「二大学連携共同研究支援助成金」「若手研究者のための海外学会発表助成」を実施している。

特記事項

- ・本学における研究活動をより一層推進するため、研究推進方針を策定するとともに、学長を議長とする研究委員会を平成29年6月に設置した。
- ・兵庫医療大学 研究助成・顕彰制度を策定し、平成29年度 研究助成を実施した。

なお、平成29年度の本学における研究活動の成果指標の一つとして、科学研究費助成事業、学内助成事業、法人内助成事業等における採択状況、受託研究や共同研究の取組み状況等を、本学における公正研究推進の取組み事例として、研修会等の実施状況等を以下に記す。

1) 科学研究費助成事業

獲得実績

(単位：千円)

| 研究種目名 | 件数 | 直接経費 | 間接経費 | 交付額 |
|------------|----|--------|--------|--------|
| 基盤研究 (C) | 23 | 23,930 | 7,179 | 31,109 |
| 挑戦的萌芽研究 | 1 | 900 | 270 | 1,170 |
| 研究活動スタート支援 | 3 | 2,000 | 600 | 2,600 |
| 若手研究 (B) | 13 | 11,300 | 3,390 | 14,690 |
| 計 | 40 | 38,130 | 11,439 | 49,569 |

交付一覧

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 研究代表者 | 交付額 (直接経費 円) |
|---------|--|-----|-----|-------|--------------------|
| 基盤研究(C) | 災害時有効な直感で薬効がイメージできる薬剤色彩設計の考察－色彩連想調査から検証－ | 薬学部 | 研究員 | 石崎真紀子 | 500,000 |

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 研究代表者 | 交付額 (直接経費 円) |
|---------|--|-------------|-----|---------|--------------------|
| 基盤研究(C) | 二重活性型ベンザイン発生法の開発と不安定化学種を活用した連続反応の展開 | 薬学部 | 助教 | 吉岡 英斗 | 700,000 |
| 基盤研究(C) | PCA-1阻害薬の臨床応用に向けた創薬研究 | 薬学部 | 研究員 | 所(馬淵)美雪 | 1,500,000 |
| 基盤研究(C) | HGF受容体アゴニスト・アンタゴニストとIL-2を用いた免疫反応の制御 | 薬学部 | 教授 | 岩崎 剛 | 630,000 |
| 基盤研究(C) | 抗がん剤分解のための高活性な可視光応答型光触媒の開発 | 薬学部 | 准教授 | 甲谷 繁 | 700,000 |
| 基盤研究(C) | 慢性心不全における貧血と炎症に交感神経と酸化ストレスは関与するか | 薬学部 | 教授 | 辻野 健 | 900,000 |
| 基盤研究(C) | サーモグラフィを看護業務に応用するための画像転送および判定システムの開発 | 薬学部 | 助手 | 芝田 宏美 | 600,000 |
| 基盤研究(C) | 妊娠高血圧症候群予防のための妊娠期における睡眠教育が血圧に与える効果の検証 | 看護学部 | 准教授 | 岡田 公江 | 700,000 |
| 基盤研究(C) | うつ病発症における遺伝・環境・個別的要因の相互作用が検討可能な動物モデル | 共通教育センター | 講師 | 土江 伸誉 | 1,000,000 |
| 基盤研究(C) | ナフトピジルを基盤とした新規悪性中皮腫治療薬の創製と作用メカニズムの解明 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | 800,000 |
| 基盤研究(C) | 触媒的なラジカル生成を基盤とした合成反応の開発 | 薬学部 | 教授 | 宮部 豪人 | 1,100,000 |
| 基盤研究(C) | 「多職種連携のコンピテンシー」獲得を目的としたIPEへのTBLの導入と評価 | 共通教育センター | 講師 | 常見 幸 | 600,000 |
| 基盤研究(C) | 神経因性疼痛における新規Kチャネルとセロトニンの役割に関する研究 | 薬学部 | 教授 | 山本 悟史 | 600,000 |
| 基盤研究(C) | 就学前年齢に達した低出生体重児の親に対するポジティブ・ペアレンティング | 看護学部 | 准教授 | 石原 あや | 600,000 |
| 基盤研究(C) | 日本酒産業を活性化する日本酒味わい表現と味わい表現変換法を科学的にデザインする | 薬学部 | 教授 | 前田 初男 | 1,600,000 |
| 基盤研究(C) | ハイブリッド方式を利用した早期リハビリテーションプログラムの構築と効果検証 | リハビリテーション学部 | 教授 | 玉木 彰 | 2,200,000 |
| 基盤研究(C) | 急性期心臓リハビリテーション確立に向けた心臓外科術後の中・長期予後関連要因の解明 | リハビリテーション学部 | 講師 | 森沢 知之 | 1,700,000 |
| 基盤研究(C) | 現象学的方法による観光の倫理的問題の明確化—観光倫理学の構築にむけて | 共通教育センター | 教授 | 紀平 知樹 | 500,000 |
| 基盤研究(C) | 滑膜由来エキソソーム結合性人工抗体によるリウマチ治療薬基盤分子の創製 | 共通教育センター | 准教授 | 芝崎 誠司 | 1,500,000 |
| 基盤研究(C) | 新規抗がん剤を目指した経口/点滴投与で有効なPCA-1阻害剤探索研究 | 薬学部 | 教授 | 田中 明人 | 700,000 |
| 基盤研究(C) | TRPとAMPK機能関連に着目した糖尿病性神経障害における疼痛過敏機序の解明 | 薬学部 | 教授 | 戴 毅 | 1,300,000 |

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 研究代表者 | 交付額 (直接経費 (円)) |
|----------------|--|-------------|-----|-------|----------------------|
| 基盤研究(C) | 医療介護混成チームで包括的に挑む施設入所重度要介護高齢者における便秘解消への試み | 看護学部 | 教授 | 土田 敏恵 | 2,300,000 |
| 基盤研究(C) | 独居認知症高齢者のアセスメントツールの作成と信頼性・妥当性の検討 | 看護学部 | 助教 | 久保田真美 | 1,200,000 |
| 挑戦的萌芽研究 | 一般市民を対象とした乳がん検診率向上と受療行動を促すアプローチ方法の開発と促進 | 看護学部 | 准教授 | 田中 登美 | 900,000 |
| 若手研究(B) | 認知機能の維持・改善に対する新たな運動手法の確立 | リハビリテーション学部 | 講師 | 宮本 俊朗 | 1,100,000 |
| 若手研究(B) | 呼吸トレーニングによる妊婦の冷え改善および異常分娩予防効果 | 看護学部 | 講師 | 飯尾 祐加 | 500,000 |
| 若手研究(B) | 動作解析・筋活動分析を用いた変形性膝関節症の進行要因の解明 | リハビリテーション学部 | 講師 | 塚越 累 | 500,000 |
| 若手研究(B) | 規模の経済性を考慮した階層的な医療圏域サイズの考察 | 共通教育センター | 講師 | 西田喜平次 | 600,000 |
| 若手研究(B) | 終末期ケアにおける多職種連携－ソーシャルワーカーのコンピテンシーに関する研究- | 共通教育センター | 講師 | 上山崎悦代 | 500,000 |
| 若手研究(B) | 蛍光性インターカレーターを利用した新規DNAセンサーの開発 | 薬学部 | 講師 | 塚本 効司 | 1,100,000 |
| 若手研究(B) | 視線運動分析に基づく看護教員の看護技術教育過程の可視化 | 看護学部 | 講師 | 荻野 待子 | 900,000 |
| 若手研究(B) | 成人女性を対象としたリプロダクティブヘルスに関する遺伝リテラシー教育 | 看護学部 | 助教 | 片田 千尋 | 800,000 |
| 若手研究(B) | 脳卒中患者の臨床的意義のある身体活動量の研究 | リハビリテーション学部 | 講師 | 平上 尚吾 | 1,500,000 |
| 若手研究(B) | 3次元培養細胞を用いた抗がん剤・放射線誘発口腔粘膜炎症モデルの構築 | 薬学部 | 助教 | 村上 雅裕 | 1,000,000 |
| 若手研究(B) | 女性看護師の冷えとその被接触患者の快適感への影響の解析 | 看護学部 | 講師 | 鈴木みゆき | 800,000 |
| 若手研究(B) | 慢性疾患患者がいる家族と看護師の家族コンコルダンス達成力アセスメントモデルの開発 | 看護学部 | 助教 | 高谷 知史 | 500,000 |
| 若手研究(B) | 0歳児の虐待発生の予防を目的とした父親向け教育プログラムの開発と効果の検証 | 看護学部 | 助教 | 足立 安正 | 1,500,000 |
| 研究活動 スタート支援 | 希土類ナノ結晶を用いた多機能アップコンバージョン光触媒の開発 | 薬学部 | 助教 | 川島 祥 | 1,100,000 |
| 研究活動 スタート支援 | ワーク・エンゲージメントを活用した新卒看護師の離職予防プログラムの開発 | 看護学部 | 助教 | 川内恵美子 | 600,000 |
| 研究活動 スタート支援 | SLE患者の療養生活における夫のサポートを促進するプログラムの開発と有効性の検討 | 看護学部 | 助教 | 井上 満代 | 300,000 |
| | | | | 40件 | 38,130,000 |

2) 学内研究助成事業

交付一覧

| 研究分類 | 所属部署名 | 職名 | 研究代表者 | 研究課題名 |
|-------------------|----------|-----|-------|--|
| 一般課題研究 | 薬学部 | 研究員 | 馬淵 美雪 | 次世代の創薬戦略開拓を目指したユキビチン-プロテアソームシステム利用による選択的ターゲットタンパク分解誘導化合物の創製 |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 講師 | 藤野 秀樹 | 科学リテラシーとしての新規放射線教育プログラムの開発 |
| 一般課題研究 | 共通教育センター | 講師 | 土江 伸誉 | 脳梗塞モデルマウスの表現型解析に適した行動テストバッテリーの構築 |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 助教 | 伊藤 都裕 | 慢性腎不全モデルマウスにおける好中球/リンパ球比上昇の機序の解明 |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | 薬学生に向けた実践的Evidence-based Medicine学習プログラムおよび特別実習プログラムの実践とその評価 |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 助教 | 吉岡 英斗 | 医薬品シーズライブラリ合成に向けた新規二環性反応剤の合成と反応への展開 |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 准教授 | 甲谷 繁 | カラフルな光触媒材料の創製と機能評価 |
| 一般課題研究 | 看護学部 | 助教 | 片田 千尋 | 患者に必要なケアへの認識は臨床経験を経ることで変化するのか-看護学部生と臨床看護師の比較から- |
| 一般課題研究 | 薬学部 | 助教 | 村上 雅裕 | 亜鉛を含有する栄養機能食品の品質評価に関する検討 |
| 重点課題研究 統合的医療研究 | 看護学部 | 教授 | 網島ひづる | 臨床推論力・協働力を育む統合的シミュレーション教育プログラムの開発 |
| 重点課題研究 地域創生研究 | 薬学部 | 講師 | 岩岡恵実子 | トウキの機能性と成分研究 |

3) 法人内研究助成事業

①若手研究助成事業

交付一覧

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 採択者 |
|------------------|---|-------------|----|-------|
| 平成29年度若手海外発表助成事業 | The 1st Asia-Pacific OccupationalTherapy Symposium | リハビリテーション学部 | 助手 | 坂口 雄哉 |
| 平成29年度若手海外発表助成事業 | 23rd annual Congress of the European College of Sport Science | リハビリテーション学部 | 講師 | 宮本 俊朗 |

②二大学連携共同研究支援助成金

交付一覧

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 採択者 | 本学の分担者 |
|-----------------------|----------------------------------|-----|------|------|---|
| 平成29年度二大学連携共同研究支援助成事業 | 丹波篠山圏域在住高齢者における生活習慣とフレイルに関する学術調査 | 医学部 | 主任教授 | 新村 健 | 天野 学 教授 (薬学部) 伊藤 斉子 准教授 (リハビリテーション学部) 佐野 恭子 准教授 (リハビリテーション学部) 永井 宏達 講師 (リハビリテーション学部) |
| 平成29年度二大学連携共同研究支援助成事業 | 兵庫医科大学医療大学における細菌叢解析の確立 | 医学部 | 主任教授 | 石戸 聡 | 勝野 朋幸 教授 (リハビリテーション学部) 永井 宏達 講師 (リハビリテーション学部) |

4) 受託研究

交付一覧

| 研究種目名 | 所属 | 職位 | 学内担当者 | 委託研究機関 | 研究期間 |
|-------|------|-----|-------|--|--------------------------|
| 受託研究 | 薬学部 | 教授 | 田中 明人 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 | 平成30年1月1日～ 平成30年3月31日 |
| 受託研究 | 看護学部 | 准教授 | 田中 登美 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (再委託：国立研究開発法人国立がん研究センター) | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日 |

5) 共同研究 (産学連携含む)

交付一覧

| 研究種目名 | 所属 | 職位 | 学内担当者 | 共同研究機関 | 研究期間 |
|-------|-------------|----|-------|-----------------------|----------------------------|
| 共同研究 | 薬学部 | 教授 | 田中 明人 | 千寿製薬(株) | 平成29年4月1日～ 平成30年3月31日 |
| 共同研究 | リハビリテーション学部 | 教授 | 川口浩太郎 | ユニ・チャーム(株) | 平成28年10月18日～ 平成30年8月31日 |
| 共同研究 | リハビリテーション学部 | 教授 | 坂口 顕 | パナソニック(株) アプライアンス社 | 平成29年7月1日～ 平成29年12月31日 |
| 共同研究 | 薬学部 | 教授 | 田中 明人 | (株) MORESCO | 平成29年9月1日～ 平成30年2月28日 |

6) その他の研究助成

交付一覧

| 研究種目名 | 研究課題名 | 所属 | 職位 | 研究代表者 | 研究助成機関 | 交付額 |
|-------|--|-------------|----|-------|---------------|-----------|
| 研究助成 | 臨床現場の医療職に対する実践的 Evidence-based Medicine 生涯研修の実践とその評価 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | 北野生涯教育振興会 | 800,000 |
| 研究助成 | 震災・災害後の長期的な女性健康支援を想定した尿失禁と身体活動量の関連性に関する研究 | リハビリテーション学部 | 講師 | 森 明子 | JR西日本あんしん社会財団 | 1,900,000 |
| 研究助成 | 地域在住の認知機能障害者への社会生活への介入効果 | リハビリテーション学部 | 講師 | 清水 大輔 | JR西日本あんしん社会財団 | 1,750,000 |
| | | | | | 合計 | 4,450,000 |

7) 学術講演会および研究セミナー

実施一覧表

| 開催日 | 内容 | 担当者 | 参加者数(人) |
|----------|---|--|---------|
| 6月22日(木) | 「がんの免疫療法 ～お笑いやサルノコシカケから遺伝子療法まで～」 | 大阪大学大学院 医学系研究科 臨床腫瘍免疫学 特任教授 和田尚 | 271 |
| 9月13日(水) | 「質的研究から量的研究への発展～アドヒアランスに関する中範囲理論の開発に向けて～」 | フィンランド オウル大学教授 Helvi Kyngäs | 123 |
| 10月4日(水) | 「すべての疲労は脳が原因！一疲労科学が解明した真の疲労回復法とは？～」 | 大阪市立大学医学部疲労医学教室 特任教授/東京疲労・睡眠クリニック院長 梶本修身 | 280 |

8) 薬学部・薬学研究科

特記事項

各大学院生には学内で実施された先端医薬研究センター・中医薬孔子学院研究報告会（平成28年4月19日）、兵庫医療大学国際交流セミナー（平成28年11月24日）、博士論文発表会（平成29年1月19日）に積極的に参加するように働きかけた。

9) 看護学部・看護学研究科

特記事項

学部内における研究を推進するために、①科学研究費助成事業への応募書類作成における若手教員の支援、②国際共同研究への参画推進と支援、③システマティックレビューに関する研修を実施した。①については、助教・講師が教授から直接指導を受け科学研究費獲得につながった。②については6ヶ国が参画するInternational LearningCollaborativeに本学が参画し、国際会議およびSkype会議を重ねながらデータ収集を実施している。

③については、12月25日～12月29日の5日間においてComprehensive Systematic Review Trainingを開催し、19名が受講ならびに修了証を取得した。

10) リハビリテーション学部・医療科学研究科

特記事項

科学研究費の採択数については、学部・研究科としてかなり低いため、今後採択率を上げる努力が必要である。

11) 共通教育センター

共通教育センター教員の専門分野は、自然科学系、人文科学系、語学系、医療系、体育系と極めて多様であり、センターの複数の教員が共同して同じテーマの研究活動を実施することは極めて希である。将来的にはチーム医療教育の実践に向けた取組みを国内外に発信できるような成果の取り纏めを、共通教育センターの共通研究テーマとして一丸となって取り組む計画にある。

現状、個々の教員はそれぞれの専門性を発展させるべく論文投稿や学会発表等に取り組んでいる。一部の教員は他の研究機関との共同研究に積極的に取り組んでおり、また数名の教員は学内においてもリハビリテーション学部や薬学部の教員とともに共同研究に取り組んでいる。

6. 教育研究等の支援

概要

本学では、研究活動を支援するため、毎年度「科学研究費補助金公募要領等説明会」「科学研究費補助金執行に関する説明会」を開催し、公募促進と研究費の適正執行を推進している。平成29年度に実施した説明会等を次表に記す。また、その他の競争的資金についても、研究支援体制を確立しながら教員への本学ホームページにて公募情報を提供している。更に、上述したように、平成29年度には「兵庫医療大学 研究助成・顕彰制度」を策定し、学内研究助成に着した。

研究倫理啓蒙・研究支援説明会

| 開催日 | 内 容 | 対 象 | 参加者数(人) |
|-------|--------------------------------|----------|---------|
| 8月21日 | 平成29年度 公的研究費執行に関する説明会 | 研究者・事務職員 | 86 |
| 10月6日 | 平成29年度 科学研究費助成事業 公募要領等説明会 | 研究者・事務職員 | 41 |
| 2月19日 | 平成29年度 研究に関するコンプライアンス研修会 (DVD) | 研究者・事務職員 | 6 |
| 2月23日 | 平成29年度 研究に関するコンプライアンス研修会 (DVD) | 研究者・事務職員 | 4 |

第8章 社会連携・社会貢献

1. 社会学連携推進機構

概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病等の観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業等、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社会学連携に関するノウハウの蓄積、新しい社会学連携形態の企画立案にも取り組むために平成27年4月1日に発足した。本機構の目的は、以下に記した地域社会と本学の連携活動に関わる方針「社会学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。

特記事項

- ・自治体/企業および地域医療コミュニティとの連携を基盤とした本学の教学活動に対して助言を行う組織として、平成28年7月に「社会学連携アドバイザリーボード」を設置した。
- ・平成29年6月2日に「社会学連携アドバイザリーボード」第1回会議を開催し、本学の平成27年度社会学連携活動、本学が策定した三つのポリシー「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」等について、外部委員から助言をいただいた。

社会学連携ポリシーに基づく活動

・地域創生を目指して

平成28年度に、薬学部・教員チーム「薬活オウルズ」(代表・前田初男、青木俊二、戴毅、岩岡恵実子、石崎真紀子)の「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」が、兵庫県「大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択されました。同プロジェクトでは、拠点を丹波市立薬草薬樹公園内に開設し、平成29年度から本格的に活動を開始している。

昨年度に引き続き、30名の学生とともに「さんなん和田漢方の里まつり」の運営を支援し、「薬草を食べよう！」等のイベントを薬草薬樹公園や、しあわせの村において開催したほか、同プロジェクトの連携団体であるふるさと和田振興会、株式会社ウエルネス・サプライ、しあわせの村の協力の下、新商品「とうき葉うどん」「とうき葉ぱん」「とうき葉塩」を共同開発した。

また、丹波市山南町和田小学校の5・6年生(63名)を対象として、本学にて薬草特別講義・実習を開講した。これらの活動を通して、薬草産地・丹波市山南町における地域活性化に貢献した。

・地域医療を担う人材の育成

昨年と同様に、ポーアイ・コモنزでは「兵庫医療大生による健康チェック体験」を、本学主催の公開講座に併設開催し、参加者を対象として実施した。また、KOBUEイズフェスタ2017、ハートフルフェスタ2017においてもサービス・ラーニングとして学生が参加し、健康測定を支援した。

一方、篠山コモنزでは、篠山市主催の健康教室「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」 「健康相談」等を支援する等、毎回多くの地域住民が参加し、学生と一緒に楽しみながら健康づくりに取り組んだ。

平成29年度サービス・ラーニングは、昨年度の実績(8回開催;学生参加数29名)に比べて、開催数・学生参加数が大幅に伸びた。

平成29年度兵庫医療大学ポーアイ・コモンズ／篠山コモンズにおける
サービス・ラーニングの実施実績

| 日 時 | コモンズ | 参加学生数 |
|-----------|------|-------|
| 7月8日(土) | ポーアイ | 11 |
| 9月15日(金) | 篠山 | 4 |
| 11月25日(土) | ポーアイ | 6 |
| 12月3日(日) | ポーアイ | 7 |
| 2月28日(金) | 篠山 | 2 |
| 3月2日(金) | 篠山 | 3 |
| 3月9日(金) | 篠山 | 2 |
| 3月16日(金) | 篠山 | 4 |
| 3月18日(日) | 篠山 | 4 |
| 3月21日(祝) | 篠山 | 2 |
| 3月30日(金) | 篠山 | 3 |
| 合 計 | 11回 | 48名 |

・共同研究/受託研究の推進

平成28年度からの継続研究が11件、平成29年度から開始した新規の共同研究が2件あり、最近の傾向として、医療機器や介護用品に関する共同研究・受託研究が増え、医療総合大学である本学の研究活動に注目が集まっている。

平成29年度共同・受託研究一覧

| | 共同・受託研究機関 | 学内担当者* |
|------------|----------------------------------|-----------------|
| 平成28年度から継続 | 国立研究開発法人 理化学研究所(共同研究) | 薬・教授 戴 毅 |
| | パナソニック株式会社 アプライアンス社 (共同研究) | リハ・准教授 坂口 顯 |
| | 国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題1) | 薬・講師 中野 博明 |
| | 国立大学法人 浜松医科大学 (共同研究・課題2) | 薬・講師 中野 博明 |
| | 株式会社西山酒造場 (共同研究) | 薬・教授 前田 初男 |
| | 摂南大学 (共同研究) | 薬・講師 清水 忠 |
| | クオール株式会社 (共同研究) | 薬・教授 天野 学 |
| | 株式会社阪神調剤薬局 (共同研究) | 薬・教授 天野 学 |
| | ユニ・チャーム株式会社 (共同研究) | リハ・教授 川口 浩太郎 |
| | 株式会社ビーテンド (受託研究) | リハ・教授 川口 浩太郎 |
| | 千寿製薬株式会社 (共同研究) | 薬・教授 田中 明人 |

| | 共同・受託研究機関 | 学内担当者* |
|----|-----------------------|---------------|
| 新規 | 株式会社MORESCO (共同研究) | 薬・教授 田中 明人 |
| | 株式会社シスメックス (共同研究) | 薬・教授 田中 明人 |

*薬：薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター

・「ひとつづくり」支援

生涯学習やリカレント教育等の学びの場を地域住民ならびに医療専門職者に提供した。

薬学研究科「臨床薬剤師生涯教育ステーション」は、薬剤師生涯学習セミナーとして「薬剤師が知っておくといいい漢方・生薬の話」（薬学部・講師・岩岡恵実子）を平成29年8月26日に、グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル・アクティブスタジオにて開催した。本学の卒業生や地域の薬剤師の先生方が参加した。

その他、本機構が主催した主な講演会、セミナー等は以下の表に示す。平成28年度の実績（38回）を上回る42回の講演会、セミナー等を開催した。

平成29年度に実施した講演会、セミナー等

| 開催日 | 講演会、セミナー等の演題（担当者*） |
|---|--|
| 6月3日（土） | 身近な薬草のお話（薬・岩岡美恵子） |
| 7月15日（土） 11月8日（土） | ～クリニカル・カフェ～ 「当たり前は当たり前か」 「自立していることと依存すること」 「自己決定」 |
| 12月9日（土） 3月10日（土） | 「お世話とお節介」 （共セ・紀平 知樹、常見 幸） |
| 6月22日（木） | がんの免疫療法 （阪大院医・臨床主要免疫学特任教授・和田尚） |
| 8月21日（月） 9月4日（月） 9月11日（月） 9月24日（日） | ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む （看・魚崎 須美） |
| 7月14日（金） | 宇宙ジェット （共セ・加藤 精一） |
| 7月18日（火） 7月19日（水） | 体力測定会 （看・土井 有羽子） |
| 8月26日（土） | 薬剤師が知っておくといいい漢方・生薬の話 （薬・岩岡 恵実子） |
| 8月27日（日） | ワクワク体験！ひかりの世界へようこそ （兵医大・福島 和明、江崎 啓祥） |
| 9月13日（水） | 質的研究から量的研究への発展 （フィンランドオウル大・Helvi Kyngäs） |
| 9月16日（土） | 遺伝リテラシーって何？ （看・片田 千尋） |
| 10月4日（水） | 全ての疲労は脳が原因 （大阪市大院・医学研究科・疲労医学特任教授・梶本 修身） |
| 10月21日（土） 10月28日（土） 11月3日（金） | がん患者・家族のグループサポートプログラム「おしゃべりカフェ」 （看・田中 登美） |
| 10月14日（土） | 過程で役立つ看護技術 （基盤看護学教員） |

| 開催日 | 講演会、セミナー等の演題（担当者＊） |
|--|--|
| 10月28日（土） | あなたも平和のねこと一緒に健康と平和について感じたり、考えたりしませんか？ （薬・桂木 聡子） |
| 10月28日（土） | みんなで支え合う地域づくり （看・土井有羽子） |
| 10月28日（土） 11月23日（祝） 12月16日（土） | リラクゼーションを取り入れた健やかな生活を目指して （看・鈴木 みゆき、荻野 待子、増田 富美子、竹田 千佐子） |
| 11月25日（土） | 運動ができる子に育つ親子トレーニング講座 （リハ・坂口 顕） |
| 11月26日（日） | エビデンスに基づいた処方提案に挑戦しよう！ （薬・清水 忠） |
| 12月12日（火） 12月16日（土） | 嚥下機能低下予防講座 （薬・桂木 聡子） |
| 12月12日（火） | エイズと共に生きるちから！ （ジョゼ・アラウージョ・フィーリョ） |
| 12月13日（水） 12月21日（木） | 入浴について正しい知識を学ぶプログラム （共セ・常見 幸） |
| 12月16日（土） | 薬膳に使う身近な食材の効能 （本草薬膳学院・学院長・辰巳 洋） 健康体操 （兵庫医科大学中医薬孔子学院・学院長・梁 永宣） |
| 12月16日（土） | 視覚障害のある人への支援法を学ぼう （薬・石崎 真紀子） |
| 2月15日（木） 2月22日（木） 3月1日（木） 3月8日（木） 3月16日（金） | 介護予防推進サポーター養成プロジェクト （リハ・永井 宏達） |
| 3月11日（日） | 人生の終盤を豊かにするために （島田病院・理事長・島田 永和） |

*薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター

・「ものづくり」支援

「薬活オウルズ」が平成29年1月から取り組んでいる「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」では、江戸時代から薬草産地として知られる丹波市山南町における薬草・当帰の葉を活用した商品開発を支援しており、学生たちを交え新商品の試食会等を繰返し、これまでに「とうき葉うどん」「とうき葉パン」「とうき葉塩」が開発された。また、同プロジェクトでは、神戸シルバーカレッジの卒業生をメンバーとするNPO法人「社会還元グループ わ」の協力の下、既に市販されている当帰茶の身体機能改善効果を平成30年1月から3ヶ月に亘り検証している。

さらに、同プロジェクトでは、丹波市山南町のシンボルで生薬にも活用されている橘の果実からエッセンシャルオイルを作り、その成分分析を「私立大学等改革総合支援事業」により導入したGC/MSを用いて行っている。この研究では、「ものづくり」支援を目的とするプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を薬学部生が実践している。

・「まちづくり」支援

本学公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク（ポーアイネット）」の学生が今年度も、ボランティアとして دونالد・マクドナルド・ハウス神戸の運営を支援した。

「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」が取り組む“地域住民の、地域住民による、地域

住民のための健康づくり”は、新しい形の「まちづくり」へと展開している。本学は、この取り組みを全学的に支援するため、平成30年4月から「兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業」を開始し、同養成プロジェクトを修了した地域住民が「健康づくりサポーター」として地域における健康づくり支援活動に取り組みやすい環境を整備していく予定をしている。

1) 地域連携実践ステーション

概要

地域連携実践ステーションは、本学の開学と同時にP棟の2階に設置され、地域連携推進委員会を中心に、本学教員がそれぞれの専門分野に則して、地域住民の方々が参加しやすい公開講座や健康相談事業等を実施している。平成20年度からは「ポーアイ4大学連携事業」の一つとして本学に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動する実践活動と地域連携実践センター独自の活動を行っている。

本学の特色として、教育研究分野すべてが生活と密接にかかわる分野であることから、地域連携を重視し、地域連携を推進するため「地域連携実践ステーション運営委員会」を組織、「地域連携実践ステーション」をその活動主体としている。本委員会は地域連携実践ステーションの運営および本学の地域連携に関する企画を立案し、本学教員による市民健康公開講座の開催および個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

地域連携実践ステーションでは、「公開講座・健康相談」、「地域交流プロジェクト」、「講演会・ワークショップ」の3つのカテゴリーの企画を実施している。また、イベント開催時以外にも地域住民に同ステーションを開放し、本学教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本も展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している。また、医療関係から子供の絵本に至るまで200冊以上の書籍を購入し、地域住民の方々が閲覧できるように図書を開架している。ホームページ上に蔵書リストを公開し、蔵書の貸出しやコピーサービスも行っている。この他、健康や医療等に関する情報検索ができるようにインターネットに接続した2台のパソコンを設置したり、子供が自由に遊べるように玩具を備えた部屋を設置したりしている。

特記事項

・ナレッジキャピタル事業

神戸市による「大学都市神戸」のイメージ戦略としてスタートした「大学都市！KOBE発信プロジェクト」は、平成29年度で4年目を迎えた。兵庫医療大学は、市内の7大学と共に当該事業に参画し、平成29年5月22日（月）～6月20日（火）、および平成30年3月20日（火）～4月21日（土）、「ナレッジキャピタル」内の「アクティブラボ」において展示を行い、土・日・祝日には、イベントを開催した。また、「アクティブスタジオ」において公開セミナー等を開催した。

参画大学：兵庫医療大学、甲南大学、神戸学院大学、神戸常盤大学、神戸親和女子大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学

ナレッジキャピタル事業・公開講座等 一覧表

アクティブラボ イベント（期間：平成29年5月22日（月）～6月20日（火））

| 開催日 | 内容 | 参加者数（人） |
|-------------------------|----------|---------|
| 6月3日（土） 6月10日（土） | 血管年齢測定 | 136 |
| 4月23日～5月21日 土日祝（計8日） | ボードトレーナー | 553 |

| 開催日 | 内容 | 参加者数（人） |
|---|--------------------|---------|
| 6月3日（土） 6月10日（土） 6月11日（日） 6月18日（日） | からだ成分分析 （インボディ） | 164 |
| 5月27日（土） 6月17日（土） | 漢方茶 | 192 |
| 5月28日（日） | 人体模型展示 | 68 |

期間：平成29年3月20日（火）～平成30年4月21日（土）

| 開催日 | 内容 | 参加者数（人） |
|---|------------------------|---------|
| 3月24日（土） 4月1日（土） 4月14日（土） 4月21日（土） | 血管年齢測定 ※ヘモグロビン測定も含む | 470 |
| 3月20日～4月21日 土日祝（計10日） | ボードトレーナー | 578 |
| 3月25日（日） 4月17日（土） | からだ成分分析（インボディ） | 79 |
| 3月31日（土） 4月8日（日） 4月15日（日） | 漢方茶 | 244 |
| 3月21日（水・祝） | 人体模型展示 | 45 |

アクティブスタジオ イベント

| 開催日 | 内容 | 担当者 | 参加者数（人） |
|-----------|--|--------------------|---------|
| 8月26日（土） | 知って得する漢方・生薬講座—薬剤師が知っておくといい漢方・生薬の話— | 薬学部 講師 岩岡 恵実子 | 約180 |
| 8月27日（日） | わくわく体験！ひかりの世界へようこそ | 兵庫医科大学 教授 福島 和明 | |
| 11月26日（日） | AHEADMAP × EBM倶楽部ジョイントワークショップ エビデンスに基づいた処方提案に挑戦しよう！ | 薬学部 講師 清水 忠 | |

①ポーアイ4大学による連携事業

平成20年に締結した「神戸ポートアイランド4大学連携協定」から10年を迎えるのを機に、教職員研修の共同実施や、大学間単位互換等といった連携事業を継続的に実施するとともに、現状に合わせて、大学間の教育研究の交流、地域活性化等をさらに深めていくため、5大学の連携として平成29年3月10日に神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、夙川学院短期大学との連携協定を締結した。

・ポーアイ健康・生活支援ステーション

概要

平成20年10月に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の第1期事業として実施してきた神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学および神戸女子短期大学の4大学の取組む総合的連携事業「ポーアイ4大学連携事業」は、平成22年度末にて文部科学省の支援事業としての活動は終了した。その連携事業の一つとして、地域住民の健康維持・増進活動や生活支援活動そして病気の予防推進を目的として、「ポーアイ健康・生活支援ステーション」が健康に強みのある本学内に設置された。

平成23年度以降は新たな局面として、本ステーションがこの3年間の経験を礎に、啓蒙活動、リカレント教育、情報公開等に取り組んできた。

地域交流プロジェクト一覧表

ポーポキ・ピース・ネットワーク

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|--------|---------------------------------------|------------------|---------|
| 10月28日 | あなたも平和のねこと一緒に健康と平和について感じたり、考えたりしませんか？ | 薬学部 准教授 桂木 聡子 | 15 |

がんグループサポートプログラム「おしゃべりカフェ」

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|--------|---------------|-------------------|---------|
| 10月21日 | がんの体験と私の気持ち | 看護学部 准教授 田中 登美 | 23 |
| 10月28日 | 日々の生活と健康への対応 | | |
| 11月3日 | さまざまな資源と役立つ情報 | | |

いつまでも自分の口から食べ続けるために

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|--------|---------------------------|------------------|---------|
| 12月12日 | 嚥下機能低下予防講座と検診 | 薬学部 准教授 桂木 聡子 | 83 |
| 12月17日 | やわらか食クリスマス～ホテルのやわらかコース料理～ | | |

クリニカル・カフェ：対話の中で考える生老病死

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|-------|-----------------|----------------------|---------|
| 7月15日 | 当たり前は当たり前か | 共通教育センター 教授 紀平 知樹 | 60 |
| 11月8日 | 自立していることと依存すること | | |
| 12月9日 | 自己決定 | | |
| 3月10日 | お世話とお節介 | | |

入浴について正しい知識を学ぶプログラム

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|--------|---------------|---------------------|---------|
| 12月13日 | 健康的に入浴を楽しむために | 共通教育センター 講師 常見 幸 | 15 |
| 10月28日 | | | 15 |

歩き方を見直しましょう

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|---------------------|----------------------|------------------------|---------|
| 4月21日～3月28日 全43回 | 地域在住中高齢者の歩行分析と運動機能測定 | リハビリテーション学部 講師 塚越 果 | 129 |

介護予防推進サポーター養成プロジェクト

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|-------|--------------------------------------|------------------------|---------|
| 2月15日 | 介護予防概論 講師：永井宏達 | リハビリテーション学部 講師 永井宏達 | 約185 |
| 2月22日 | 介護予防のための知っておきたい心肺機能の知識 講師：玉木 彰 | | |
| 3月1日 | 介護予防のための知っておきたい関節痛の知識 講師：藤岡 宏幸 | | |
| 3月8日 | 介護予防のための知っておきたい認知症とうつの知識 講師：松井 徳造 | | |
| 3月16日 | 運動指導発表会 今後の活動のためのグループワーク 講師：永井 宏達 | | |

ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|-------|---|------------------|---------|
| 8月21日 | ナイチンゲールの7つの素顔と「看護覚え書」 | 看護学部 講師 魚崎 須美 | 54 |
| 9月4日 | ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む ～病人の看護と健康人の看護～ | | |
| 9月3日 | ナイチンゲールの「看護覚え書」を読む ～変化：からだがかころにおよぼす影響～ | | |
| 9月24日 | 体験！手で触れる癒しの効果 ～アロマを使ったタクティールタッチ～ | | |

リラクゼーションを取り入れた健やかな生活を目指して

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|------------------|---------------------------------------|-------------------|---------|
| 10月28日 11月23日 | ・手浴とハンドマッサージ | 看護学部 講師 鈴木 みゆき | 68 |
| 12月16日 | ・リラクゼーションを取り入れた健やかな生活のポイントについてミニレクチャー | | |

全国同時七夕講演会2017

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|-------|--------|----------------------|---------|
| 7月14日 | 宇宙ジェット | 共通教育センター 教授 加藤 精一 | 72 |

健康みなおし教室

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|----------------------|--|-------------------------|---------|
| 7月12日～10月25日 計12回 | 尿失禁について学ぶ 骨盤低筋体操について学ぶ 骨盤低筋体操を習得する | リハビリテーション学部 准教授 森 明子 | 100 |

遺伝リテラシーって何？

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加人数(人) |
|-------|------------------|------------------|---------|
| 9月16日 | ゲームを通して遺伝を学びましょう | 看護学部 助教 片田 千尋 | 11 |

・実務者会議

概要

ポートアイランド4大学連携事業では、神戸市ポートアイランドにキャンパスを置く神戸学院・神戸女子大学・神戸女子短期大学・兵庫医療大学の4大学は、隣接しているという利点と各大学の特色を活かしつつ、高度な教育・研究活動で連携し、さらには地域・企業・自治体等とも交流を図ることで、地域社会に貢献することを目的としている。

この4大学連携事業は、具体的には「縦軸のプロジェクト連携」と「横軸のベース連携」のコンセプトから構成されている。

大学の使命である「研究」、「教育」、「学生支援」、「社会貢献」、「生涯学習」も各フェイズにおいても有効に機能して行くことを目指しており、縦軸に4大学共通の課題、地域社会からの要請に沿ったプロジェクト「ポアイ健康推進プロジェクト」と「ポアイ防災推進プロジェクト」の2つの事業を立ち上げている。横軸には各大学連携ベースとなる「入試広報」、「図書館」、「学生支援」、「教務」、「キャリア支援」、「社会貢献」といった専門部会を立ち上げている。

特記事項

平成30年3月2日（金）には、実務者会議の上位にある「神戸ポートアイランド4大学学長会議」

が本学M棟487会議室において開催された。会議では、平成29年度の連携推進センターおよび各連携部会からの活動報告ならびに平成30年度の連携事業予算等の報告があり、FD・SD合同開催等今後の連携について種々意見交換された。

・部会活動

A. 入試広報部会

概要

ポートアイランド内にある4大学が連携して、学生募集広報、オープンキャンパスおよび大学説明会等を合同で実施することについて協議を行う目的で、入試広報部会が設置された。

現状、本部会では入試情報やオープンキャンパス等の広報活動についての情報交換を中心に活動を行っている。

毎年オープンキャンパスの同時開催の実現にむけて、各大学の開催日程を基に検討を行っているが、日程が合わず同時開催には至っていない。

オープンキャンパス合同告知については、例年どおり4大学合同により開催案内チラシを制作し、近畿、中国、四国地方の高等学校に配布を行っている。

特記事項

- ・入学試験結果
- ・オープンキャンパス実施結果
- ・オープンキャンパス合同告知について

B. 教務部会

概要

平成21年4月より、神戸ポートアイランド4大学連携協定に基づく連携活動の一環として、教育の交流と充実を図る目的で単位互換制度を実施している。本学、神戸学院大学、夙川学院短期大学、神戸女子大学・神戸女子短期大学が同制度に参加しており、他大学学生にも公開可能な講義が対象となっている。今年度は、4大学合計41科目が同制度の対象となり、本学からは13科目を対象とした。

単位互換本学提供科目一覧

| 提供科目 | 授業担当者 | 単位数 | 開講期 |
|--------------------|------------------|-----|-----|
| 医療概論 | 伊東 久男他 | 1 | 前期 |
| 心理学 | 土江 伸誉 | 2 | 前期 |
| 生物学 | 伊東 久男、柏村信一郎 | 2 | 後期 |
| 化学入門 | 芝崎 誠司 | 2 | 前期 |
| 生命・医療倫理学 | 紀平 知樹 | 2 | 後期 |
| 哲学 | 紀平 知樹 | 2 | 前期 |
| 人間発達学 | 土江 伸誉 | 2 | 前期 |
| 臨床心理学(カウンセリング論を含む) | 土江 伸誉 | 2 | 後期 |
| リハビリテーション概論 | 山崎せつ子、道免 和久、玉木 彰 | 1 | 前期 |
| 運動発達論 | 有吉 正則 | 1 | 前期 |
| 東洋医学入門 | 戴 毅、山中 博樹 | 1 | 後期 |
| 災害看護 | 神崎初美、千島 佳也子 | 1 | 後期 |
| 認知障害治療学 | 山崎 せつ子 | 1 | 前期 |

C. 学生部会

概要

ポートアイランド内の4大学学生部会の連携により、4大学に関連した学生生活環境の改善、学生会活動および課外活動を含む学生生活に関することを協議し、問題の解決に当たっている。

特記事項

- ・ポーアイ4大学連携事業として、留学生異文化体験プログラム（国際交流ツアー2回）および合同スポーツ大会（4大学マラソン大会）を実施した。
- ・各大学が輪番にて交差点信号無視学生への啓発・指導を実施した。

D. 図書館部会

概要

4大学間で、来館利用および資料の貸出等相互利用を行っており、6月～12月には合同巡回展示を開催している。また、平成25年度からは、4大学の学生がお互いに他の連携大学図書館を知るための取り組みとして、スタンプラリー（スタンプを4つ集めれば大学グッズと交換）を開始した。

統計

| | |
|----------|-----|
| 登録者数 | 60 |
| 入館者数（延数） | 168 |

| | |
|----------|----|
| 貸出人数（延数） | 57 |
| 貸出冊数（延数） | 93 |

| | |
|------------|----|
| スタンプカード発行数 | 1 |
| スタンプ押印数 | 27 |
| グッズ交換数 | 3 |

特記事項

- ・巡回展示を行った。

| | 出展テーマ |
|-----------------|--------------|
| 兵庫医療大学 | 看護国際交流 |
| 神戸学院大学 | 神戸開港150年 |
| 神戸女子大学・神戸女子短期大学 | 「女子教育」と神戸の魅力 |
| 夙川学院短期大学 | 五味太郎の世界 |

| | 兵庫医療大学 | 神戸学院大学 | 神戸女子大学・神戸女子短期大学 | 夙川学院短期大学 |
|------|--------------|--------------|-----------------|--------------|
| 6～9月 | 看護国際交流 | 神戸開港150年 | 「女子教育」と神戸の魅力 | 五味太郎の世界 |
| 10月 | 神戸開港150年 | 看護国際交流 | 五味太郎の世界 | 「女子教育」と神戸の魅力 |
| 11月 | 「女子教育」と神戸の魅力 | 五味太郎の世界 | 看護国際交流 | 神戸開港150年 |
| 12月 | 五味太郎の世界 | 「女子教育」と神戸の魅力 | 神戸開港150年 | 看護国際交流 |

E. キャリア支援部会

概要

神戸ポートアイランド4大学連携協定に基づく連携活動として、年間5回開催している。部会では、各大学の取り組み事案に対して意見・情報交換を行い、各大学で実施しているセミナーや講座等、合同で開催できるイベントの検討や連携して立案した企画に、各大学の学生に参加してもらう機会を設ける等、キャリアアップに繋がるような講座やセミナーの提供に努めている。

F. 社会貢献部会

概要

ポーアイ4大学連携事業の一環として、ポートアイランド地域住民を中心とした社会貢献を軸とし、神戸マラソンのボランティア、環境整備、地域に対する安全や安心、健康生活に関するボランティア活動や講演会等を実施している。

特記事項

- ・神戸マラソンボランティア参加学生数：約100名
- ・ポーアイ4大学クリーン作戦※JAF兵庫支部との共催
日 時：平成29年11月16日（木）
参加者数：兵庫医療大学学生・教職員63名を含め、その他大学等計337名

2) 臨床薬剤師生涯教育ステーション

概要

薬学部内に卒後教育・生涯教育を企画・運営するための組織として平成26年5月よりキャリアエクステンション委員会を設置し、同年10月、および平成27年4月と10月に生涯研修セミナーを開催した。後、平成27年11月からは臨床薬剤師生涯教育ステーション運営委員会と名称を変更した。本ステーションは、本学卒業生等現場薬剤師に対する生涯教育を提供する組織である。現在は、概ね年2回講演会を開催しており、平成29年度は、2回の講演会を開催した。

特記事項

| 開催日 | 内容 | 講師 | 参加人数(人) |
|-------|---|--------------------------|---------|
| 5月20日 | 第6回兵庫医療大学薬学部生涯研修セミナー ポリファーマシーをめぐる問題と薬剤師の関わり | 医療法人 社団徳仁会 中野病院 青島 周一 | 52 |
| 8月26日 | 第7回・兵庫医療大学薬学部生涯研修セミナー 知って得する漢方・生薬講座 —薬剤師が知っておくといい漢方・生薬の話— | 兵庫医療大学 講師 岩岡 恵実子 | 56 |

- ・講演会の参加人数：約60名/回

3) シームレス看護教育研究ステーション

概要

臨床や地域で働く看護職の教育・研究活動等を本学看護学教員が支援するという目的のもと、その窓口としての機能を啓発する活動を現在は実施している。

特記事項

- ・平成29年度看護学BP生12名への啓発 平成29年4月30日（日）、平成30年3月10日（土）
- ・兵庫県看護協会セカンドレベル受講生約50名への啓発 平成29年8月5日（土）

4) リハスタッフ臨床教育ステーション

特記事項

- ・なし

2. 高大連携

進学相談会

| | 開催日 | ガイダンス名称 | 会場 |
|----|-------|-------------------------------|-----------------|
| 1 | 4月8日 | 看護進学相談会（梅田） | グランフロント |
| 2 | 4月15日 | 看護学部進学フェア | ヒルトンプラザ・オフィスタワー |
| 3 | 4月17日 | 会場進学相談会（加古川） | 加古川プラザホテル |
| 4 | 4月19日 | 篠山地区合同ガイダンス | 篠山市民センター |
| 5 | 4月22日 | 看護系学校合同説明会in中・西播磨 | イーグレひめじ |
| 6 | 4月23日 | 医歯薬・看護・医療系進学相談会（京都） | イオンモールKYOTO |
| 7 | 4月23日 | 医歯薬・看護・医療系進学相談会（神戸）※講演有 | 三宮研修センター |
| 8 | 4月23日 | ココロとカラダを考える進学相談会（梅田） | ABC-MART 梅田ビル |
| 9 | 4月25日 | 医歯薬・看護・医療系進学相談会（天王寺） | 天王寺ミオ |
| 10 | 4月26日 | 明石地区合同ガイダンス | 明石市立産業交流センター |
| 11 | 4月28日 | 会場進学相談会（高槻） | 高槻現代劇場文化ホール |
| 12 | 4月29日 | ココロとカラダを考える進学相談会（神戸） | 三宮研修センター |
| 13 | 4月30日 | ココロとカラダを考える進学相談会（京都） | メルパルク京都 |
| 14 | 5月14日 | ココロとカラダを考える進学相談会（天王寺） | 天王寺 |
| 15 | 5月24日 | 大学・短期大学進学相談会（姫路） | ホテル日航姫路 |
| 16 | 5月30日 | マイナビフェスタ（岡山） | 岡山 |
| 17 | 6月5日 | 会場形式進学相談会（堺） | 堺市産業振興センター |
| 18 | 6月6日 | 会場形式進学相談会（津山） | 津山国際ホテル |
| 19 | 6月7日 | マイナビフェスタ（高松） | 高松 |
| 20 | 6月8日 | 大学・短期大学進学相談会（徳島） | ホテルクレメント徳島 |
| 21 | 6月11日 | 医歯薬・看護・医療系進学相談会（梅田） | 梅田スカイビルタワーウエスト |
| 22 | 6月14日 | 大学・短期大学進学相談会（高知） | ザクラウンプラザ新阪急ホテル |
| 23 | 6月15日 | 看護・医療系進学相談会（住吉） | 住吉区民センター |
| 24 | 6月15日 | 医療・教育・福祉・健康系オール学校ガイダンス(天王寺会場) | 天王寺ミオ |
| 25 | 6月17日 | 医歯薬・看護・医療系進学相談会（姫路） | じばさんびる |
| 26 | 6月17日 | 夢ナビライブ2017（説明ブース） | インテックス大阪 |
| 27 | 6月17日 | 薬学部進学相談会 | 梅田アウラホール |
| 28 | 6月20日 | 医療・教育・福祉・健康系進学ガイダンス（岡山） | 岡山コンベンションセンター |
| 29 | 6月21日 | マイナビフェスタ（広島） | 広島 |
| 30 | 6月23日 | 会場進学相談会（洲本） | 洲本市文化体育館 |
| 31 | 6月26日 | 看護・医療系進学相談会（神戸） | 三宮センタープラザ西館 |
| 32 | 7月3日 | 進路総合研究ゼミナール（看護・医療系） | 大阪商工会議所 |

| | 開催日 | ガイダンス名称 | 会場 |
|----|--------|-----------------------------|------------------|
| 33 | 7月8日 | 医療系学部・大学セミナー&進学ガイダンス(梅田) | 梅田スカイビルタワーウエスト |
| 34 | 7月9日 | 大学フェア2017(大阪) | グランフロント大阪 |
| 35 | 7月9日 | 看護医療系学校合同説明会 | 東京アカデミー |
| 36 | 7月13日 | マイナビフェスタ(大阪) | 大阪 |
| 37 | 7月22日 | 進学説明会 | 兵庫県看護協会会館 |
| 38 | 7月23日 | 全国国公立・有名私大相談会 | 大阪国際会議場 |
| 39 | 7月26日 | 高松高等予備校内進学相談会 | 高松高等予備校 |
| 40 | 9月2日 | 看護・医療・薬学系7大学合同入試相談会 | 阪急グランドビル26階会議室 |
| 41 | 9月3日 | 大学・短期大学進学相談会(神戸会場) | スペースアルファ三宮 |
| 42 | 9月12日 | 関西地区看護系学部・学科入試説明会(あべのハルカス) | あべのハルカス貸会議室25階 |
| 43 | 9月13日 | 関西地区看護系学部・学科入試説明会(梅田センタービル) | 梅田センタービル貸し会議室16階 |
| 44 | 9月18日 | 大学・短期大学進学相談会(天王寺会場) | 天王寺ミオ |
| 45 | 9月19日 | 大学・短期大学進学相談会(徳島会場) | あわぎんホール |
| 46 | 9月23日 | 大学フェア2017(岡山会場) | 岡山コンベンションセンター |
| 47 | 9月24日 | 大学フェア2017(高松会場) | サンポート高松 |
| 48 | 9月29日 | 大学・短期大学進学相談会(福山会場) | 福山ニューキャッスルホテル |
| 49 | 10月6日 | 看護医療系会場説明会(姫路会場) | じばさんびる |
| 50 | 11月10日 | 鈴蘭台地区合同ガイダンス | すずらんホール |
| 51 | 11月14日 | 大学・短期大学進学相談会(岡山会場) | イオンモール岡山 |
| 52 | 11月24日 | 看護・医療系進学相談会(高槻) | 高槻現代劇場文化ホール |
| 53 | 11月30日 | 地区別進学相談会(洲本) | 洲本市文化体育館 |
| 54 | 12月21日 | 高砂地区合同ガイダンス | 高砂市文化保健センター |
| 55 | 3月6日 | 宝塚地区合同ガイダンス | アピアさかせがわ アピアホール |
| 56 | 3月8日 | 看護・医療福祉系進学相談会(難波) | 難波御堂筋ホール |
| 57 | 3月9日 | 福崎地区別進学相談会 | 福崎町エルデホール |

高校内ガイダンス

| | 開催日 | 高校名 | 対象 |
|----|-------|--------------|-------------|
| 1 | 4月13日 | 松蔭高等学校 | 学校別/2年生 |
| 2 | 4月17日 | 姫路市立琴丘高等学校 | 学校別/3年生 |
| 3 | 4月20日 | 兵庫県立西宮甲山高等学校 | 学校別/3年生 |
| 4 | 4月21日 | 百合学院高等学校 | 学校別/3年生 |
| 5 | 4月24日 | 兵庫県立伊川谷高等学校 | 学校別/3年生 |
| 6 | 4月27日 | 姫路市立飾磨高等学校 | 学校別/3年生 |
| 7 | 5月1日 | 神戸龍谷高等学校 | 学校別/3年生 |
| 8 | 5月9日 | 愛徳学園高等学校 | 学校別/3年生/2年生 |
| 9 | 5月11日 | 兵庫県立加古川南高等学校 | 学校別/3年生 |
| 10 | 5月25日 | 兵庫県立赤穂高等学校 | 学校別/3年生/2年生 |
| 11 | 5月30日 | 兵庫県立高砂南高等学校 | 学校別/3年生 |
| 12 | 6月20日 | 伊丹市立伊丹高等学校 | 学校別/3年生 |
| 13 | 6月21日 | 兵庫県立尼崎小田高等学校 | 学校別/3年生 |
| 14 | 6月22日 | 兵庫県立三田西陵高等学校 | 学校別/3年生 |

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|----|--------|--------------------|--|
| 15 | 6月24日 | 甲南女子高等学校 | 学校別/3年生/2年生/1年生/保護者 |
| 16 | 6月27日 | 兵庫県立伊川谷北高等学校 | 学校別/3年生 |
| 17 | 7月6日 | 滝川高等学校 | 学校別/3年生 |
| 18 | 7月7日 | 兵庫県立西宮今津高等学校 | 学校別/2年生 |
| 19 | 7月10日 | 兵庫県立川西北陵高等学校 | 学校別/3年生 |
| 20 | 7月11日 | 大阪府立桜塚高等学校 | 学校別/2年生 |
| 21 | 7月13日 | 兵庫県立伊丹高等学校 | 学校別/3年生 |
| 22 | 7月13日 | 兵庫県立加古川北高等学校 | 学校別/3年生/2年生 |
| 23 | 7月14日 | 兵庫県立神戸高塚高等学校 | 学校別/3年生 |
| 24 | 7月18日 | 兵庫県立宝塚北高等学校 | 学校別/3年生 |
| 25 | 7月21日 | 報徳学園高等学校 | 学校別/3年生 |
| 26 | 7月24日 | 大阪信愛女学院高等学校 | 3年生/2年生/1年生 |
| 27 | 9月25日 | 兵庫県立三田西陵高等学校 | リハビリテーション学部（理学療法学科）担当/3年生/2年生/1年生 /リハビリテーション分野別 |
| 28 | 9月28日 | 兵庫県立明石西高等学校 | 学校別/2年生 |
| 29 | 10月6日 | 大阪女学院高等学校 | 学校別/2年生 |
| 30 | 11月2日 | 大阪府立吹田東高等学校 | 学校別/2年生 |
| 31 | 12月12日 | 伊丹市立伊丹高等学校 | 学校別/2年生 |
| 32 | 12月14日 | 兵庫県立高砂南高等学校【保護者対象】 | 事務担当 |
| 33 | 12月14日 | 兵庫県立明石高等学校 | 学校別/2年生 |
| 34 | 12月14日 | 報徳学園高等学校 | 学校別/2年生 |
| 35 | 12月18日 | 芦屋学園高等学校【薬学系統】 | 薬学分野別 |
| 36 | 12月18日 | 県立宝塚高等学校 | 学校別/2年生 |
| 37 | 12月19日 | 仁川学院高等学校 | 2年生 |
| 38 | 12月19日 | 兵庫県立高砂高等学校 | 学校別/2年生 |
| 39 | 12月20日 | 兵庫県立神戸高塚高等学校 | 学校別/2年生/1年生 |
| 40 | 1月30日 | 夙川学院高等学校 | 学校別/2年生 |
| 41 | 3月2日 | 神戸市立須磨翔風高等学校 | 学校別/2年生 |
| 42 | 3月5日 | 兵庫県立西宮南高等学校（薬学分野） | 2年生/薬学分野別 |
| 43 | 3月5日 | 兵庫県立東播磨高等学校 | 学校別/2年生/1年生 |
| 44 | 3月6日 | 兵庫県立有馬高等学校 | 学校別/2年生 |
| 45 | 3月7日 | 兵庫県立西宮今津高等学校 | 学校別/2年生 |
| 46 | 3月7日 | 兵庫県立西宮北高等学校 | 学校別/2年生 |
| 47 | 3月7日 | 兵庫県立尼崎北高等学校 | 学校別/2年生 |
| 48 | 3月8日 | 早稲田摂陵高等学校 | 学校別/2年生 |
| 49 | 3月8日 | 報徳学園高等学校 | 学校別/2年生 |
| 50 | 3月9日 | 滝川第二高等学校 | 学校別/2年生 |
| 51 | 3月16日 | 兵庫県立相生高等学校 | 学校別/2年生/1年生 |
| 52 | 3月20日 | 尼崎市立尼崎双星高等学校 | 学校別/1年生 |
| 53 | 3月20日 | 兵庫県立須磨友が丘高等学校 | 学校別/2年生 |
| 54 | 3月22日 | 兵庫県立宝塚高等学校（薬学分野） | 2年生/薬学分野別 |

見学会

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|----|--------|--------------|---|
| 1 | 5月19日 | 綾部市立八田中学校 | 1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 2 | 6月2日 | 兵庫県立有馬高等学校 | 1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 3 | 6月19日 | 兵庫県立北条高等学校 | 模擬授業/2年生/施設見学(学校説明含む) |
| 4 | 6月23日 | 兵庫県立高砂南高等学校 | 2年生/施設見学(学校説明含む) |
| 5 | 7月10日 | 兵庫県立西宮高等学校 | 看護学部担当/模擬授業/2年生/施設見学(学校説明含む) |
| 6 | 7月12日 | 兵庫県立尼崎北高等学校 | 2年生/施設見学(学校説明含む) |
| 7 | 9月27日 | 大阪府立高槻北高等学校 | 1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 8 | 10月19日 | 兵庫県立西宮今津高等学校 | リハビリテーション学部(作業療法学科)担当/1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 9 | 10月20日 | 兵庫県立伊丹北高等学校 | リハビリテーション学部(作業療法学科)担当/模擬授業/1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 10 | 10月31日 | 兵庫県立高砂高等学校 | 看護学部担当/模擬授業/1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 11 | 11月7日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/1年生/施設見学(学校説明含む) |
| 12 | 12月22日 | 兵庫県立社高等学校 | 看護学部担当/1年生/施設見学(学校説明含む) |

高大連携

・帝塚山学院高等学校

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|----|--------|-----------|-------------------------------|
| 1 | 4月22日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 2 | 5月20日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 3 | 6月3日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/看護分野別/高大連携 |
| 4 | 6月24日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 5 | 7月1日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/リハビリテーション(作業療法学科)分野別/高大連携 |
| 6 | 9月2日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 7 | 10月21日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 8 | 10月28日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 9 | 11月11日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/看護分野別/高大連携 |
| 10 | 11月25日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |
| 11 | 1月20日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/リハビリテーション(作業療法学科)分野別/高大連携 |
| 12 | 2月3日 | 帝塚山学院高等学校 | 1年生/薬学分野別/高大連携 |

・大阪国際滝井高等学校

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|----|--------|-----------------|----------------|
| 1 | 5月20日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 2 | 7月1日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 3 | 7月15日 | 大阪国際滝井高等学校(2コマ) | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 4 | 7月29日 | 大阪国際滝井高等学校(2コマ) | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 5 | 8月7日 | 大阪国際滝井高等学校見学会 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 6 | 8月9日 | 大阪国際滝井高等学校見学会 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 7 | 9月2日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 8 | 10月21日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 9 | 12月2日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 10 | 2月3日 | 大阪国際滝井高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |

・兵庫県立明石南高等学校

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|----|--------|-------------|---|
| 1 | 4月19日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 2 | 5月10日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 3 | 5月24日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 4 | 5月31日 | 兵庫県立明石南高等学校 | リハビリテーション学部(理学療法学科)担当/2年生/ リハビリテーション分野別/高大連携 |
| 5 | 6月14日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/リハビリテーション分野別(理学療法学科) /高大連携 |
| 6 | 6月21日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/リハビリテーション分野別(理学療法学科) /高大連携 |
| 7 | 9月6日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/リハビリテーション分野別(作業療法学科) /高大連携 |
| 8 | 9月13日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/リハビリテーション分野別(作業療法学科) /高大連携 |
| 9 | 9月27日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/リハビリテーション分野別(作業療法学科) /高大連携 |
| 10 | 11月8日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 11 | 11月29日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |
| 12 | 1月17日 | 兵庫県立明石南高等学校 | 2年生/薬学分野別/高大連携 |

・兵庫県立伊丹西高等学校

| | 開催日 | 高校名 | 対 象 |
|---|--------|----------------|--|
| 1 | 4月25日 | 兵庫県立伊丹西高等学校 | 2年生/看護分野別/高大連携 |
| 2 | 6月1日 | 兵庫県立伊丹西高等学校 | 1年生/高大連携/看護・医療系 |
| 3 | 7月25日 | 兵庫県立伊丹西高等学校見学会 | 1年生/リハビリテーション学部(理学療法学科) 高大連携/施設見学(学校説明含む) |
| 4 | 10月24日 | 兵庫県立伊丹西高等学校 | 1年生/高大連携/施設見学(学校説明含む) |
| 5 | 11月7日 | 兵庫県立伊丹西高等学校 | 2年生/リハビリテーション(作業療法学科)分野別/高 大連携 |

3. 国際交流

1) 北京中医薬大学との学術交流・短期留学プログラム

概要

学校法人兵庫医科大学と北京中医薬大学との中医薬の教育研究における交流協定に基づき、本学は薬学部を中心に北京中医薬大学と教職員の学術交流や学生短期留学等を行っている。

平成27年12月6日、兵庫医療大学と北京中医薬大学の学術交流に関する協定書が調印された。平成29年12月20日～23日、リハビリテーション学部執行部教員3名が北京中医薬大学に訪問し、今後の学術交流について協議した。現在、北京中医薬大学とのダブルディグリー教育やポスト・ドクターの受入、共同研究の実施を目指し具体的な調整を進めている。

短期留学プログラム学生参加状況

| 日 程 | 参加者数(人) |
|-----------------------|---------------------|
| 平成30年3月21日～3月29日 8泊9日 | 薬学部 第2～4学年次：7 |
| | 看護学部 第1学年次：0 |
| | リハビリテーション学部 第2学年次：2 |

特記事項

平成29年度は、科学技術振興機構（JST）が主催する「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に応募、採択され、北京中医薬大学より大学生・大学院生10名を短期留学で迎え入れた。

| 日 程 | 参加者数（人） |
|-------------------------|---------------------|
| 平成29年 8月20日（日）～8月26日（土） | 大学生：4、大学院生：6、引率教員：1 |

2) アデレード大学看護学部学術交換留学プログラム

概要

兵庫医療大学看護学部の学生9名は、平成29年8月12日（土）～同年9月3日（日）の3週間、アデレード大学看護学部において学術交流を図るための短期留学を行った。3週間にわたる語学研修では、日常会話以外に医療英語も学び、看護学部では、現地の看護学生と一緒に看護学の講義を受け、看護技術演習（点滴準備や滴下数の計算や安全対策）を行った。アデレード大学病院では、オーストラリアの特徴的な疾病と看護に関する講義を受け、異文化での医療と看護への理解を深め、最後に修了証が授与された。

アデレード大学看護学部の学生12名は、平成30年2月19日（月）～同年3月2日（金）の3週間、本学に来学した。学術交流プログラムの内容は、3週間にわたる日本語研修、看護学部による日本における看護教育、各看護学領域による講義、災害看護の講義、看護技術演習（シミュレーション教育：急変対応、和式寝衣交換）であった。薬学部・リハビリテーション学部による講義・演習も行われた。また、日本文化・伝統技術を学ぶための見学研修、兵庫医科大学病院における実習等を体験した。日本文化の理解や日本の医療・看護の理解を深め、最後に修了証を授与した。

参加状況

| 日 程 | 参加者数（人） |
|------------------------|---------|
| 平成29年 8月12日（土）～9月3日（日） | 看護学部：9 |

受入状況

| 日 程 | 参加者数（人） |
|------------------------|---------|
| 平成30年 2月19日（月）～3月2日（金） | 看護学部：12 |

（ホームステイ入退去含めると平成30年2月18日（日）～3月3日（土）まで）

3) 欧州研修

概要

デンマーク王国における医療・福祉・教育の実際を知り、日本の医療・福祉の現状を見つめ直すとともに、グローバルな視野を養うことを目的として実施している。

研修先は、日欧文化交流学院を拠点に、重度身体障がい者入居施設や高齢者センター、州立病院、トレーニングセンター、認知症対策班、保育園、看護大学等の施設が主である。

参加状況

欧州情勢不安定により現在中断している。

4) JBI-Kobe Center

概要

アデレード大学と兵庫医療大学看護学部との学術交流協定締結（平成26年3月31日）を機に、JBI Kobe Linguistic Translation Center（JBI神戸日本語翻訳センター：助産学領域）を開設し、地域の医療従事者にも還元できる情報を発信する役割を担い、日本における国際学術交流活動の推進にも寄与することを方針としている。JBI本部の改組に伴い、平成28年からはJBI-Kobe Centerとして、システマティックレビュー（SR）研究を発信する研究活動を行っている。12月25日～12月29日の5日間においてComprehensive Systematic Review Trainingを開催した。

5) トウルク応用科学大学学術交流協定

概要

平成23年6月1日に本学との学術交流協定が締結された。平成26年5月には、同大とJSPSストックホルムセンター共催のFuture Diagnosesセミナーに共通教育センターの芝崎准教授が参加し、講演を行った。平成28年2月には同大にて、研究関連の交流として、感染症学領域における共同研究の可能性について打ち合わせた。平成30年3月、Biomaterials & Diagnostics研究室に滞在し、ワクチン、生体材料に関するディスカッションを継続すると共に、同研究室が担当する3年次学生対象のBiotechnological Production and Downstream ProcessingならびにBiomaterials and Tissue Engineeringの講義を分担した。さらに、同大の国際交流部門のスタッフとも再び意見交換を行い情報収集を行った。

4. 生涯教育

1) 中医薬実践講座

概要

漢方は、古来より中国で体系的にまとめられた知識を日本で独自に発展させた医療・薬物治療体系であり、漢方の考え方を理解するためにそのもとになった「中医薬」の理論を学ぶことは大変有益である。本講座は、薬剤師を中心とした医療職者を対象としており、漢方薬への理解をより深めるとともに、中医薬の基礎的概念から生薬を用いた薬物治療への応用を学ぶことを目的としている。

特記事項

漢方薬への理解をより深めることを目的として、近隣地域の薬剤師を中心とする医療職者対象の「中医薬実践講座」を開講した。

講座は北京中医薬大学出身の本学特任講師が担当し、5月中旬から11月までの隔週土曜日（8月は講義なし）の12回で、中医薬の基礎的概念から生薬を用いた薬物治療への簡単な応用を教授した。受講者数は40名だった。

講義最終日で修了認定試験を行い、31名の合格者に修了証書を授与した。

実施状況

中医薬実践講座 [初級]

| 受講者数 (人) | 修了者数 (人) | 修了要件 |
|----------|----------|-----------------------------------|
| 40 | 31 | 1コマ2時間×12回の講義を受講し、講義最終日の修了認定試験に合格 |

2) 看護学部

概要

学部卒業生および大学院修了生がキャリアアップのための相談がある場合は、随時、各教員がその相談を受けている。また、ホームカミングデイ等の機会を利用して、卒業生のキャリアアップの相談を受けている。看護学部あるいは看護学研究科主催の講演会、研修会が開催されるときは、卒業生・修了生に案内を送り、学習の機会を提供している。

今後は、兵庫医科大学病院看護部と連携して、卒業生の卒後の継続教育・連携教育を検討するグループを立ち上げ、継続的に、教育・研修評価、メンタルサポート、教育方法等について検討する予定である。

特記事項

兵庫医療大学クリティカルケア研究会の設置：兵庫医療大学クリティカルケア研究会は、平成29年に、研究者および実践者が集い、研究者の自由な発想でクリティカルケアの追求および発展に寄与する研究活動を行う。研究会は情報交換、研究発表会、事例検討会、講演会の開催、共同研究の企画・実施、論文作成等を行う場および機会の提供を行うこと等を目的に設立した。研究会メンバーは兵庫医療大学大学院修了生（急性看護学）および教員、クリティカルケア②関心のある医療職で構成されている。現在のメンバーは15名である。年2回（5月、11月）に開催している。大学院修了生の継続した研究活動や情報交換、交流等に繋がると取り組んでいる。

3) リハビリテーション学部

概要

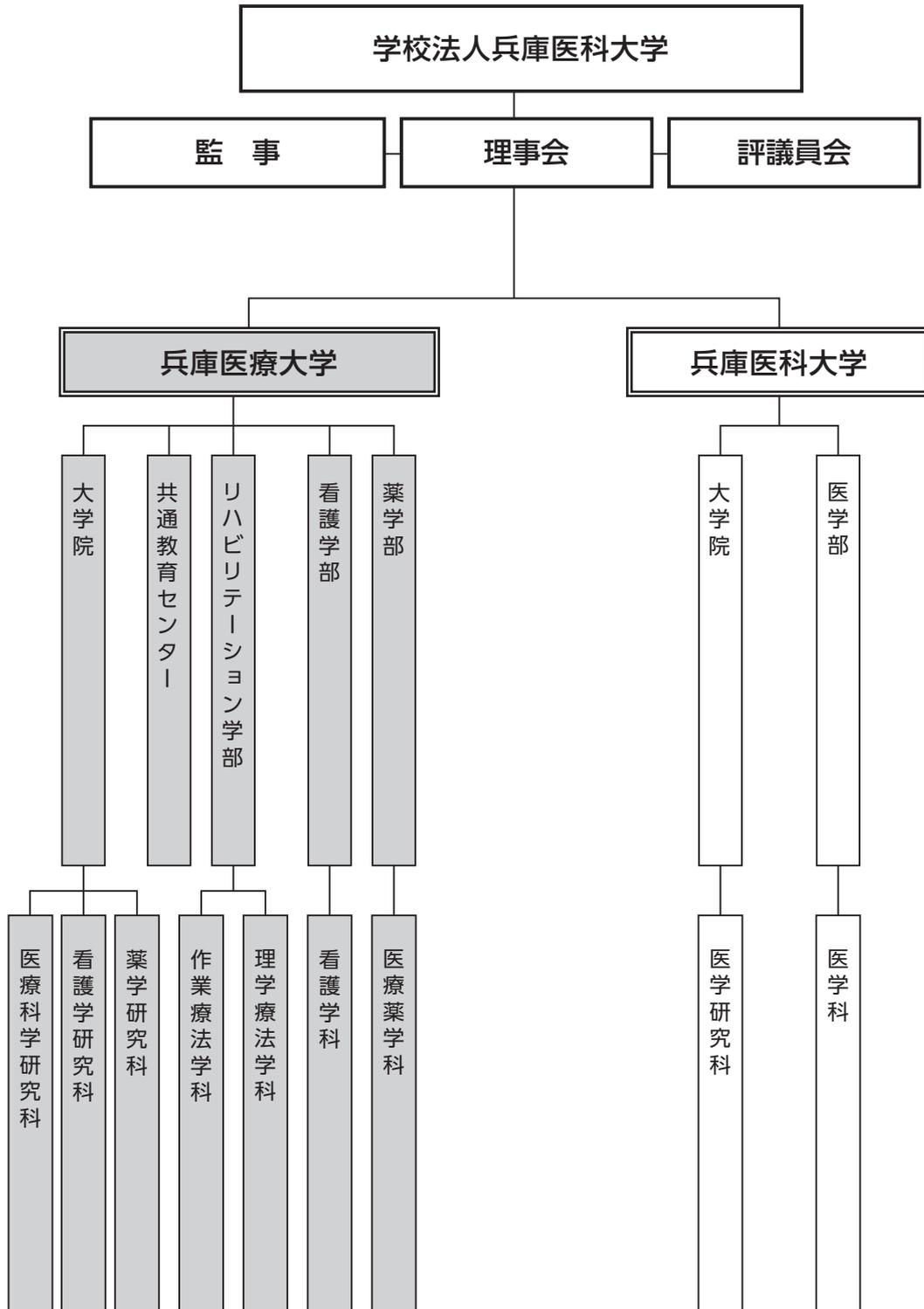
学部教育においては、作業療法学科では、学生の生涯教育に対するモチベーションを高め、キャリアデザインの参考情報を提供することを目的として、各教員の専門領域の臨床・研究について教授する「作業療法特別演習」という授業科目を設けている。また、学部教員による専門科目の中でそれぞれ生涯教育の重要性を伝えている。

理学療法学科では、卒業生による臨床に関する勉強会を教員がサポートしている。今後、学部としての生涯教育に発展させていく予定である。

第9章 大学運営

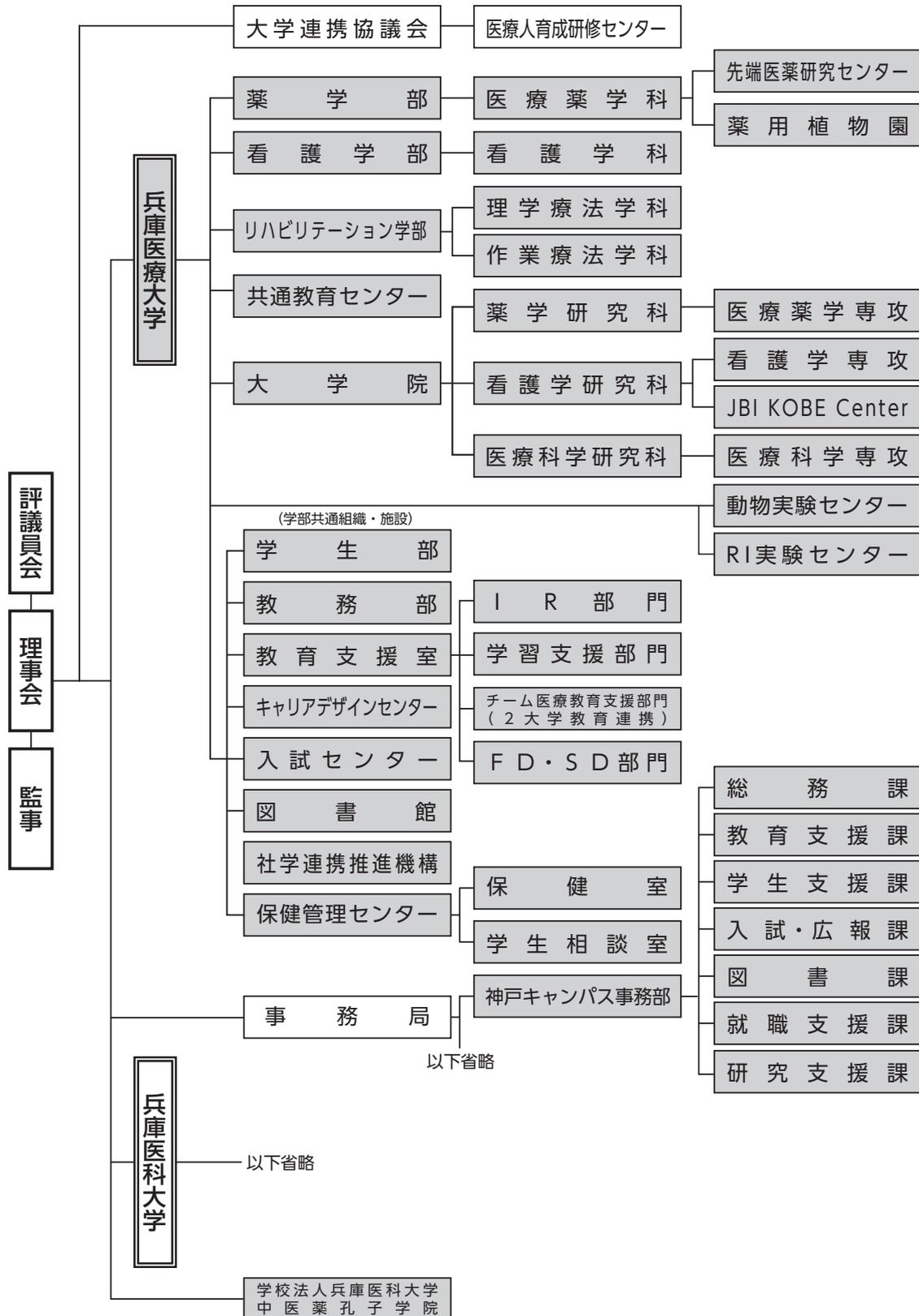
1. 大学全体

1) 学校法人兵庫医科大学組織機構図



(: 神戸キャンパス : 西宮キャンパス)

2) 兵庫医療大学組織図



() : 神戸キャンパス

3) 大学協議会

概要

大学協議会は、本学の最高意思決定機関であり、毎月1回、定期的に開催している。構成メンバーは学長、副学長、学部長、共通教育センター長、研究科長、教務部長、学生部長、事務部長である。また、事務次長の陪席を認めている。

大学の教学、管理運営、社会活動、将来構想等、大学の全ての活動に係る重要事項を協議している。教授会、研究科委員会、各種委員会等で十分に検討を加えた事項について、全学的立場から協議し、その意見を聴いた上で、学長が最終意思決定を行っている。さらに、特定事項については、学校法人兵庫医科大学常務会、同理事会に付議し、承認を得る。

平成27年4月1日より施行された「学校教育法と国立大学法人法の一部改正」にしたがって、本学でも平成27年4月1日付で、学長のリーダーシップの下、戦略的に大学を運営できる体制を構築するために、学則を改正した。本学を代表し校務をつかさどる学長の裁量や権限と、学生の入学・卒業および課程の修了や学位の授与、教育課程編成等教学事項を協議し学長に意見を述べる教授会の立場を明確にした。

兵庫医療大学開学10周年に向けてのセカンドステージの戦略的取り組み事項の策定、大学ガバナンスの強化のための、管理運営体制の改善（3副学長による業務の分掌体制と学長補佐（事務担当）の設置）を行ってきた。平成27年度は、改正された学則の下で4副学長体制にして管理運営体制を強化した。学長・副学長会議および学長・学部長懇談会を定例の大学協議会の間に行い、管理運営が円滑に行うことができる体制を構築した。

学長・副学長会議

大学に係る諸案件の中で、特に、リスクマネジメントや大きな方向性の決定等の重要な案件について、論点と課題を抽出し、その基本方針を決定する。学長・学部長懇談会（後述）、大学協議会での協議・決定を効率的に、かつ、適切に行うための会議で毎月1回定期的に開催している。なお、緊急の案件がある場合には、定例会以外に適宜開催している。

学長・学部長懇談会

主に、大学協議会の協議案件について、学部間での共通認識を図り、事前の検証、意見交換を十分行うことにより、大学協議会での決定を効率的、かつ、適切に行うための懇談会である。毎月1回定例で開催している。

特記事項

- ・ HUHS VISION20の策定
- ・ 開学10周年記念事業の実施
- ・ 兵庫医療大学研究推進方針の策定と研究助成・顕彰制度の制定
- ・ 教務事務システムのリプレイス
- ・ 神戸ポートアイランド4大学と兵庫県との地域安全まちづくり活動の推進に関する協定の締結

4) 役職者名簿

| 役 職 | 氏 名 | 所 属 |
|---------------|-------|--------------|
| 学 長 | 馬場 明道 | 兵庫医療大学 |
| 副学長 | 藤岡 宏幸 | リハビリテーション学部 |
| 副学長 | 前田 初男 | 薬学部 |
| 副学長 | 西山 信好 | 薬学部 |
| 副学長 | 竹田千佐子 | 看護学部 |
| 薬学部長 | 田中 稔之 | 薬学部 |
| 看護学部長 | 網島ひづる | 看護学部 |
| リハビリテーション学部長 | 山崎せつ子 | リハビリテーション学部 |
| 理学療法学科長 | 川口浩太郎 | リハビリテーション学部 |
| 作業療法学科長 | 山田 大豪 | リハビリテーション学部 |
| 共通教育センター長 | 伊東 久男 | 共通教育センター |
| 薬学研究科長 | 辻野 健 | 大学院薬学研究科 |
| 看護学研究科長 | 土田 敏恵 | 大学院看護学研究科 |
| 医療科学研究科長 | 玉木 彰 | 大学院医療科学研究科 |
| 図書館長 | 伊東 久男 | 図書館 |
| 学生部長 | 大河原知水 | 学生部 |
| 教務部長 | 川口浩太郎 | 教務部 |
| 入試センター長 | 日高 正巳 | 入試センター |
| 保健管理センター長 | 岩崎 剛 | 保健管理センター |
| 社会学連携推進機構長 | 前田 初男 | 社会学連携推進機構 |
| キャリアデザインセンター長 | 青木 俊二 | キャリアデザインセンター |

5) 全学教職員集会

概要

全学教職員集会は、大学の教育や運営における全学的な取り組みを推進する目的で毎年2回実施している。

| 開催日 | 内 容 | 担当者 |
|---------|---------------------------|---|
| 4月4日(金) | 1. 新任執行部メンバー、新任教員の紹介とあいさつ | 副学長 西山 信好 副学長 竹田 千佐子 薬学部長 田中 稔之 薬学研究科長 辻野 健 看護学研究科長 土田 敏恵 リハビリテーション学部理学療法学科長 川口 浩太郎 リハビリテーション学部作業療法学科長 山田 大豪 学生部長 大河原 知水 図書館長 伊東 久男 看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センター新任教員(10名) |
| | 2. 今年度の重点課題について | 学長 馬場 明道 副学長 藤岡 宏幸 副学長 前田 初男 副学長 西山 信好 副学長 竹田 千佐子 |

| 開催日 | 内 容 | 担当者 |
|-----------|---|---|
| 4月4日(金) | 3. 平成28年度兵庫医療大学 「レクチャー・オブ・ザ・イヤー」について | 副学長 藤岡 宏幸 |
| | 4. フリーディスカッション | |
| 12月26日(火) | 1. ごあいさつ | 学長 馬場 明道 |
| | 2. HUHS vision20 (学部・センター・研究科版) 行動計画 | 薬学部長 田中 稔之 看護学部長 網島 ひづる リハビリテーション学部長 山崎 せつ子 共通教育センター長 伊東 久男 |

6) 教職員の資質向上方策

FD/SD

| 開催日 | 内 容 | 担当者 | 参加者数 (人) |
|--------|--|---|------------------|
| 7月6日 | 2017年度入試結果分析および入試・模試データ からみた兵庫医療大学の状況について | 株式会社KEIアドバンス | 32 |
| 9月26日 | 性同一性障害の概要および他大学の支援状況 | 原田相談員、西崎相談員 | 29 |
| 10月31日 | 平成30年度私学助成関係予算と改革総合支援事 業タイプ5への申請について | 事務部 上田次長 | 23 |
| 12月6日 | 協力の中に道は開ける… 災害対応シミュレーションゲーム 「ダイレクトロード」 | 神戸市消防局 水上消防署 査察係 予防担当 消防司令補 樋口 貴洋 (ひぐち たかひろ) 氏 | 24 |
| 3月13日 | チーム医療教育 | 朝比奈 真由美 講師 | 午前：140 午後：124 |

2. 事務組織

概要

本学の事務組織は、開学時より縦割り組織（部課係制）ではなく、類似性のある業務を横断的かつ機動的に遂行していくグループ制を取り入れ、当初は4グループ（教育・学生支援、入試・広報、図書館・情報、管理・運営）でスタートした。その後、学年進行、教学組織の拡大、教育研究活動の展開等に合わせて組織再編を行い、平成26・27年度では8グループ（教育・学生支援、入試、広報・情報、図書館、総務、経理・調達、研究支援、就職支援）編成により、本学の教育研究活動および管理運営を支援してきた。

その後、平成28年4月1日付で、法人全体での人件費抑制、経費削減等の取組みとしての事務局組織のスリム化（スモール組織の統廃合）および神戸キャンパスでのグループ制を部課制へ移行（他のキャンパスとの統一）する目的で改組された。また、同年度に本学の社会学連携のプラットフォームとしての社会学連携推進機構の実務担当として、神戸キャンパス事務部総務課内に「社会学連携係」を設置した。

特記事項

平成29年度では、平成26年8月に法人部門の学術研究支援部に神戸研究支援課として包含されていた本学の研究支援課が再度、独立した形で本学に設置された。また、教育支援室の部門増設に対応するため、教育支援課に「教育支援係」を設置し、事務的支援体制を強化した。

3. 学内委員会

学内委員会 委員一覧

(太字：委員長)

| 自己点検・評価委員会 | |
|------------|--------------|
| 馬場 明道 | 学長 |
| 西山 信好 | 副学長 |
| 前田 初男 | 副学長 |
| 竹田 千佐子 | 副学長 |
| 藤岡 宏幸 | 副学長 |
| 田中 稔之 | 薬学部長 |
| 網島 ひづる | 看護学部長 |
| 山崎 せつ子 | リハビリテーション学部長 |
| 伊東 久男 | 共通教育センター長 |
| 辻野 健 | 大学院薬学研究科長 |
| 土田 敏恵 | 大学院看護研究科長 |
| 玉木 彰 | 大学院医療科学研究科長 |
| 大河原 知水 | 学生部長 |
| 川口 浩太郎 | 教務部長 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |

| 学生委員会 | |
|--------|----------------|
| 大河原 知水 | 学生部長 |
| 中野 博明 | 薬学部講師 |
| 岩岡 恵美子 | 薬学部講師 |
| 荻野 待子 | 看護学部講師 |
| 岡田 公江 | 看護学部准教授 |
| 坂口 顕 | リハビリテーション学部准教授 |
| 有吉 正則 | リハビリテーション学部講師 |
| 賀屋 光晴 | 共通教育センター准教授 |
| 岩崎 剛 | 学校医 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |
| 赤井 一之 | 学生支援課長 |
| 九川 文彦 | 薬学部教授 |

| 教育委員会 | |
|--------|----------------|
| 川口 浩太郎 | 教務部長 |
| 芝崎 誠司 | 共通教育センター准教授 |
| 加藤 精一 | 共通教育センター教授 |
| 前田 拓也 | 薬学部教授 |
| 上田 晴康 | 薬学部教授 |
| 石原 あや | 看護学部准教授 |
| 松本 麻里 | 看護学部准教授 |
| 森 明子 | リハビリテーション学部准教授 |
| 佐野 恭子 | リハビリテーション学部准教授 |
| 清宮 健一 | 薬学部教授 |
| 岡田 成弘 | 教育支援課長 |

| 入試センター運営会議 | |
|------------|-----------------------|
| 日高 正巳 | 入試センター長 |
| 南畝 晋平 | 薬学部准教授 |
| 宮部 豪人 | 薬学部教授 |
| 西村 明子 | 看護学部教授 |
| 土井 有羽子 | 看護学部准教授 |
| 塚越 累 | リハビリテーション学部講師 |
| 伊藤 斉子 | リハビリテーション学部准教授 |
| 福田 範子 | 共通教育センター講師 |
| 加藤 慎司 | 入試・広報課長(アドミッションオフィサー) |

| 図書館委員会 | |
|--------|---------------|
| 伊東 久男 | 図書館長 |
| 安屋敷 和秀 | 薬学部教授 |
| 魚崎 須美 | 看護学部講師 |
| 坂本 浩 | リハビリテーション学部講師 |
| 秦 正哲 | 共通教育センター教授 |
| 後藤 伸光 | 図書課長 |

| 広報委員会 | |
|-------|---------------|
| 西山 信好 | 薬学部教授 |
| 塚本 効司 | 薬学部講師 |
| 桂木 聡子 | 薬学部准教授 |
| 鈴木 千枝 | 看護学部講師 |
| 山田 千春 | 看護学部講師 |
| 森沢 知之 | リハビリテーション学部講師 |
| 清水 大輔 | リハビリテーション学部講師 |
| 常見 幸 | 共通教育センター講師 |
| 加藤 慎司 | 入試・広報課長 |

| 情報倫理委員会 | |
|---------|---------------|
| 田中 明人 | 薬学部教授 |
| 飯尾 祐加 | 看護学部講師 |
| 山田 大豪 | リハビリテーション学部教授 |
| 加藤 精一 | 共通教育センター教授 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |
| 上田 晴之 | 総務課長 |
| 加藤 慎司 | 入試・広報課長 |

| 国際交流委員会 | |
|---------|---------------|
| 辻野 健 | 薬学部教授 |
| 秦 正哲 | 共通教育センター教授 |
| 山崎 せつ子 | リハビリテーション学部教授 |
| 笹川 寿美 | 看護学部准教授 |
| 戴 毅 | 薬学部教授 |

| キャリアデザイン委員会 | |
|-------------|---------------|
| 青木 俊二 | キャリアデザインセンター長 |
| 西田 喜平次 | 共通教育センター講師 |
| 森山 雅弘 | 薬学部教授 |
| 上田 寛樹 | 薬学部講師 |
| 岸 あゆみ | 看護学部講師 |
| 新井 信之 | 看護学部教授 |
| 永井 宏達 | リハビリテーション学部講師 |
| 奥谷 研 | リハビリテーション学部助教 |
| 後藤 伸光 | 就職支援課長 |

| 研究推進委員会 | |
|---------|-----------------|
| 前田 初男 | 研究担当副学長 |
| 藤野 秀樹 | RI実験センター長 |
| 田中 明人 | 共同機器室長 |
| 山本 悟史 | 動物実験センター長 |
| 森 明子 | リハビリテーション学部准教授※ |
| 西村 明子 | 看護学部教授 |
| 加藤 精一 | 共通教育センター教授 |
| 田中 明人 | 薬学部教授 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |

| 先端医薬研究センター運営委員会 | |
|-----------------|-------------|
| 田中 稔之 | 先端医薬研究センター長 |
| 前田 初男 | 副学長 |
| 青木 俊二 | 薬学部教授 |
| 辻野 健 | 薬学部教授 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会 | |
|-------------------------|-------------|
| 田中 稔之 | 先端医薬研究センター長 |
| 前田 初男 | 副学長 |
| 青木 俊二 | 薬学部教授 |
| 山本 悟史 | 薬学部教授 |
| 柏村 信一郎 | 共通教育センター教授 |

| RI実験センター運営委員会 | |
|---------------|------------------|
| 勝野 朋幸 | リハビリテーション学部教授 |
| 魚崎 須美 | 看護学部講師 |
| 常見 幸 | 共通教育センター講師 |
| 戴 毅 | 薬学部教授 |
| 藤野 秀樹 | RI実験センター放射線取扱主任者 |
| 前田 拓也 | RI実験センター管理区域責任者 |
| 上田 寛樹 | RI実験センター安全管理責任者 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 放射線障害予防委員会 | |
|------------|------------------|
| 伊東 久男 | 共通教育センター教授 |
| 松井 徳造 | リハビリテーション学部教授 |
| 萩野 待子 | 看護学部講師 |
| 上田 寛樹 | 薬学部講師 |
| 前田 拓也 | 薬学部教授 |
| 藤野 秀樹 | RI実験センター放射線取扱主任者 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 動物実験センター運営委員会 | |
|---------------|-----------------|
| 山本 悟史 | 動物実験センター長 |
| 坂口 顕 | リハビリテーション学部准教授 |
| 藤井 加那子 | 看護学部講師 |
| 土江 伸誉 | 共通教育センター講師 |
| 清水 忠 | 薬学部講師 |
| 三浦 大作 | 動物実験センター実験動物管理者 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |
| 伊東 久男 | 共通教育センター教授 |

| 動物実験委員会 | |
|---------|-----------------|
| 大河原 知水 | 薬学部教授 |
| 長野 基子 | 薬学部講師 |
| 大野 喜也 | 薬学部助教 |
| 坂口 顕 | リハビリテーション学部准教授 |
| 山本 英幸 | 共通教育センター講師 |
| 藤井 加那子 | 看護学部講師 |
| 三浦 大作 | 動物実験センター実験動物管理者 |
| 山本 悟史 | 動物実験センター長 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |
| 廣田 誠一 | 学識経験者 |

| 遺伝子組換え実験安全委員会 | |
|---------------|---------------|
| 三浦 大作 | 遺伝子組換え実験安全主任者 |
| 清宮 健一 | 薬学部教授 |
| 大河原 知水 | 薬学部教授 |
| 鈴木 みゆき | 看護学部講師 |
| 柏村 信一郎 | 共通教育センター教授 |
| 岩崎 剛 | 保健管理センター長 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 環境安全委員会 | |
|---------|---------------|
| 田中 稔之 | 薬学部長 |
| 宮部 豪人 | 薬学部教授 |
| 坂本 浩 | リハビリテーション学部講師 |
| 鈴木 千枝 | 看護学部講師 |
| 芝崎 誠司 | 共通教育センター准教授 |
| 齋藤 あつ子 | 薬学部教授 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 共同研究の受入れに関する審査専門委員会 | |
|---------------------|------------|
| 馬場 明道 | 学長 |
| 前田 初男 | 研究担当副学長 |
| 田中 明人 | 薬学部教授 |
| 青木 俊二 | 薬学部教授 |
| 土江 伸誉 | 共通教育センター講師 |
| 土田 敏恵 | 看護学部教授 |
| 上田 晴之 | 事務次長 |

| ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会 | |
|----------------------------|---------------|
| 大河原 知水 | 薬学部教授 |
| 大野 雅子 | 薬学部准教授 |
| 南畝 晋平 | 薬学部准教授 |
| 田中 登美 | 看護学部准教授 |
| 松井 徳造 | リハビリテーション学部教授 |
| 紀平 知樹 | 共通教育センター教授 |
| 大橋 範子 | 人文・社会科学の有識者 |
| 竹内 勝一 | 一般の立場を代表する者 |

| 病原体等安全管理委員会 | |
|-------------|------------|
| 前田 拓也 | 薬学部教授 |
| 齋藤 あつ子 | 薬学部教授 |
| 山本 英幸 | 共通教育センター講師 |
| 岩崎 剛 | 保健管理センター長 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 利益相反マネジメント委員会 | |
|---------------|---------------|
| 西山 信好 | 薬学部教授 |
| 細見 明代 | 看護学部教授 |
| 柏村 信一郎 | 共通教育センター教授 |
| 松井 徳造 | リハビリテーション学部教授 |
| 森田 康夫 | 財務担当理事 |
| 多田 宏幸 | 事務局長 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |
| 佐々木 周一 | 学術研究支援部長 |
| 塩野 悟 | 学外有識者 |

| 倫理審査委員会 | |
|---------|----------------|
| 玉木 彰 | 大学院医療科学研究科長 |
| 岩崎 剛 | 薬学部教授 |
| 土田 敏恵 | 看護学部教授 |
| 佐野 恭子 | リハビリテーション学部准教授 |
| 土江 伸誉 | 共通教育センター講師 |
| 加藤 雅之 | 学外学識経験者 |
| 中畷 ちせ子 | 一般の立場を代表する者 |
| 中村 高志 | 学術研究支援部次長 |

| 共同機器室運営委員会 | |
|------------|---------------|
| 田中 明人 | 共同機器室長 |
| 三浦 大作 | 薬学部講師 |
| 甲谷 繁 | 薬学部准教授 |
| 宮本 俊朗 | リハビリテーション学部講師 |
| 小林 雄一郎 | 研究支援課長 |

| 情報センター運営委員会 | |
|-------------|---------------|
| 藤岡 宏幸 | 情報担当副学長 |
| 加藤 精一 | 情報センター長 |
| 坂本 浩 | リハビリテーション学部講師 |
| 飯尾 祐加 | 看護学部講師 |
| 賀屋 光晴 | 共通教育センター准教授 |
| 藤野 秀樹 | 薬学部講師 |
| 中野 博明 | 薬学部講師 |
| 宮本 俊朗 | リハビリテーション学部講師 |
| 西田 喜平次 | 共通教育センター講師 |
| 加藤 慎司 | 入試・広報課長 |

| 紀要委員会 | |
|--------|---------------|
| 伊東 久男 | 図書館長 |
| 平上 尚吾 | リハビリテーション学部講師 |
| 川口 浩太郎 | リハビリテーション学部教授 |
| 田中 登美 | 看護学部准教授 |
| 貞永 千佳生 | 看護学部講師 |
| 森山 雅弘 | 薬学部教授 |
| 大野 雅子 | 薬学部准教授 |
| 紀平 知樹 | 共通教育センター教授 |
| 後藤 伸光 | 図書課長 |

| キャンパス有効利用委員会 | |
|--------------|---------------|
| 西山 信好 | 副学長 |
| 福田 範子 | 共通教育センター講師 |
| 松井 徳造 | リハビリテーション学部教授 |
| 新井 信之 | 看護学部教授 |
| 前田 初男 | 薬学部教授 |
| 上田 晴之 | 総務課長 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |

| 将来構想委員会 | |
|---------|---------------|
| 山本 悟史 | 薬学部教授 |
| 森山 雅弘 | 薬学部教授 |
| 青木 俊二 | 薬学部教授 |
| 細見 明代 | 看護学部教授 |
| 網島 ひづる | 看護学部教授 |
| 玉木 彰 | リハビリテーション学部教授 |
| 山田 大豪 | リハビリテーション学部教授 |
| 紀平 知樹 | 共通教育センター教授 |
| 西村 明子 | 看護学部教授 |

| 防火防災対策委員会 | |
|-----------|--------------|
| 馬場 明道 | 学長 |
| 藤岡 宏幸 | 副学長 |
| 前田 初男 | 副学長 |
| 西山 信好 | 副学長 |
| 竹田 千佐子 | 副学長 |
| 網島 ひづる | 看護学部長 |
| 山崎 せつ子 | リハビリテーション学部長 |
| 田中 稔之 | 薬学部長 |
| 伊東 久男 | 共通教育センター長 |
| 大河原 知水 | 学生部長 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |

| 衛生委員会 | |
|--------|---------------|
| 藤岡 宏幸 | 副学長 |
| 岩崎 剛 | 衛生管理者・産業医 |
| 上田 寛樹 | 薬学部講師 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |
| 増田 富美子 | 看護学部助教 |
| 奥谷 研 | リハビリテーション学部助教 |
| 安部 恵美 | 入試・広報課長補佐 |

| 医療人育成研修センター運営委員会 | |
|------------------|---------------|
| 藤岡 宏幸 | 副センター長・教育支援室長 |
| 川口 浩太郎 | 教務部長 |
| 天野 学 | 薬学部教授 |
| 石原 あや | 看護学部准教授 |
| 平上 尚吾 | リハビリテーション学部講師 |
| 伊東 久男 | 共通教育センター教授 |

| 社会学連携推進機構運営委員会 | |
|----------------|-------------|
| 前田 初男 | 社会学連携推進機構長 |
| 神崎 初美 | 社会学連携推進副機構長 |
| 天野 学 | ステーション長 |
| 土井 有羽子 | ステーション長 |
| 山崎 せつ子 | ステーション長 |
| 上山崎 悦代 | 共通教育センター講師 |
| 上田 晴之 | 総務課長 |

| 大学院運営委員会 | |
|----------|-------------|
| 藤岡 宏幸 | 副学長 |
| 辻野 健 | 大学院薬学研究科長 |
| 土田 敏恵 | 大学院看護学研究科長 |
| 玉木 彰 | 大学院医療科学研究科長 |
| 伊東 久男 | 共通教育センター長 |
| 岩佐 義久 | 事務部長 |

1) 自己点検・評価委員会

概要

本学は、平成23年度の自己点検・評価報告書について、財団法人大学基準協会の平成24年度大学評価を受審し、平成25年4月1日より7年間の適合認定を受けた。以降、各評価・点検項目を主に、PDCAサイクルを回しながら、改善すべき課題等に取り組んでいる。

平成26・27年度では、各年度の本学事業計画について、自己点検・評価委員会の所管部会長が当該事業の各取組みの実施、進捗状況を確認する等で、当該事業の推進を図った。

平成28年度には、自己点検・評価委員会規程を一部改正し、自己点検・評価体制について、学内各組織（各学部、大学院各研究科、共通教育センター、神戸キャンパス事務部他）が教学・研究を主とした自己点検・評価を実施し、その統括等を大学協議会構成員からなる全体の自己点検・評価委員会が行う方向とした。

特記事項

- ・平成29年度の自己点検・評価体制として、各学部・センターに自己点検・評価委員会を設置した。

2) 学生委員会

概要

学生委員会は、人間形成を目的として行われる課程外の教育活動および大学教育に対する適応を図り学習効果を高めることを目的とし活動を行っており、学生委員会規程に基づいて学生の修学に係る指導・助言や学生の生活相談、学生の健康管理、奨学金、学生会活動や課外活動に関すること、その他学生生活における諸問題について協議し、問題の解決に当たっている。

なお、兵庫医療大学貸与奨学金の選考、学生会および課外活動団体への対応等、継続的な調整や詳細な検討が必要な事項については、担当委員を当て対応を行うとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し対応している。

委員会は、学生部長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名、学校医、事務部長、学生支援課長および学生部長が必要と認め、所属教授会が承認した教員若干名で構成しており、委員長は学生部長が務めている。

主な審議事項

- ・事業計画・予算について
- ・新入生・在学生オリエンテーションの実施について
- ・障がい学生支援について
- ・学生相談室イベントの実施について
- ・ワクチン接種および抗体検査の実施について

- ・定期健康診断の実施について
- ・兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学金の選考等について
- ・兵庫医療大学貸与奨学金の選考等について
- ・兵庫医科大学病院奨学金およびささやま医療センター奨学金の選考等について
- ・日本学生支援機構奨学金に関することについて
- ・課外活動奨励賞候補者の選出について
- ・課外活動功労賞の推薦について
- ・理事長特別賞の推薦について
- ・公認課外活動団体の認定・更新、課外活動支援の実施等について
- ・リーダーズキャンプの実施について
- ・卒業生に対するアンケート

特記事項

- ・障がい学生支援の一環として、「兵庫医療大学における障がい学生支援に関するガイドライン」および「兵庫医療大学障がい学生支援委員会規程」を制定し、当該学生支援の円滑実施に向けて「障がい学生支援委員会」を発足した。
- ・聴覚に障がいのある学生への支援として、デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー」を導入した。
- ・学生および教職員のメンタルヘルス支援を更に充実させるため、「兵庫医療大学保健管理センター規程」を一部改正した。
- ・学生のメンタルヘルス不調の一時予防および多種多様な問題で悩んでいる学生への早期サポートを目的として、新入生オリエンテーションにおいて新入生を対象としたメンタルヘルスチェックシートを導入した。

3) 教育委員会

概要

教育委員会では、学則、教務に関する規程および教育委員会規程に基づき、教務に関する基本方針や全学部共通課題について協議している。平成29年度においては、大学全体の教務運営に関する重要事項である授業日、定期試験および成績判定のスケジュール、履修登録に関すること、試験・成績判定に関することをはじめ、平成30年度に向けた教務事務システムの更新、在学年限および休学の取り扱いについて協議した。これら協議した事項については、各教授会や大学協議会で審議、報告される。

また、教育委員会では、PDCAサイクルが確立するように年度初めに教務運営、教務システムに関する課題を明確にし、年度中にそれぞれの課題の解決を図り、翌年度初めに進捗状況を確認することとしている。

委員会は、教務部長、共通教育センター教員2名、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、教育支援課長で構成しており、委員長は教務部長が務めている。

主な審議事項

- ・年間行事予定、授業日カレンダー、成績判定、定期試験等のスケジュールに関すること
- ・履修登録に関すること
- ・試験に関すること

- ・成績判定に関すること
- ・教務便覧に関すること
- ・神戸ポートアイランド4大学連携単位互換提供科目およびボーアイ教養科目に関すること
- ・教務事務システムの更新に関すること
- ・在学年限および休学の取り扱いについて
- ・シラバス作成要領の作成、学生教育ハンドブックの改訂

特記事項

- ・平成30年度からの教務事務システム更新に伴う構築を行った
- ・物理掲示板からWeb掲示板システムへの移行に伴う運用を検討した

4) 入試センター運営会議

概要

入試センター運営会議は、入学者選抜要領の作成および入学試験実施に関する業務等について協議するとともに、志願者数および入学者数の確保を図るための最善な入試制度について協議している。平成27年10月に、今後の高大接続改革への対応ならびに入学試験関連業務の充実を図り、入試運営のみならず入試センターとしての機能の充実を図るため、入試センター規程を制定し、平成27年10月の第6回の会議より、従来の入試運営委員会を入試センター運営会議として開催している。

当センターは、入試センター規程に基づき、入試センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名およびアドミッション・オフィサー（入試・広報課長兼務）の9名の教職員をもって構成されている。

なお、入試センター長は、引き続き、リハビリテーション学部日高正巳教授が務めている。

主な審議事項

- ・平成30年度入試における面接併用型試験の実施について
- ・平成31年度入試からの複数判定方式の導入について

5) 図書館委員会

概要

図書館委員会は、学習支援・研究支援のためにより良い図書館運営を図ることについて協議するとともに、図書館資料や学術情報の選定・収集・管理に関することについて協議している。

当委員会は、図書館長、薬学部教員1名、看護学部教員1名、リハビリテーション学部教員1名、共通教育センター教員1名および図書課長の5名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

主な審議事項

- ・図書館経費および図書購入費予算について
- ・年間開館予定
- ・教員選書依頼と選書図書購入について
- ・シラバス掲載の教科書・参考書の購入について
- ・学生からの希望図書購入について
- ・購読雑誌（電子ジャーナル含む）契約・データベース契約について

- ・寄贈図書・寄贈雑誌の受入について
- ・除籍について
- ・ポーアイ4大学連携図書館巡回展示の展示内容について

特記事項

- ・平成30年（2018）年に係る外国雑誌購読契約は電子ジャーナルオンリーとした。

6) 広報委員会

概要

広報委員会は、下記事項に関して協議し、課題解決に当ることを目的として、活動するものである。

1. 本学の大学広報の企画・立案に関すること
2. 入試広報施策の企画・立案および実施に関すること
3. 大学のホームページの運用方針および内容の企画・立案に関すること
4. 法人の広報関連部署および広報戦略との連携、強調、情報の共有等に関すること
5. その他本学の広報全般に関すること

当委員会は、委員長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および入試・広報課長の9名の委員をもって構成されている。

平成29年度からは、西山信好副学長が委員長を務めている。

当委員会は、オープンキャンパス等イベントの企画・運営、大学案内やWebサイト等各種広報媒体の企画・編集・制作、高等学校への出張講義・ガイダンスやキャンパス見学会・体験実習の企画調整・実施等を行っており、各委員は日常的にこれらの業務に携わっている。

主な審議事項

- ・2017年度 学生募集広報計画について
- ・2017年度 オープンキャンパスおよびイベント（薬剤師・看護師への道、入試対策講座、一日体験入学）の実施について
- ・大学案内等広報用ツールの作成について
- ・大学公式キャラクターの作成について
- ・広報戦略の方向性について
- ・薬学部広報対策の実施について
- ・広報コンセプトおよびコミュニケーションマークについて

7) 情報倫理委員会

概要

本学システムが倫理的配慮のもとに利用されることを目的として、情報倫理委員会が置かれている。禁止事項第3条に該当する事態が起こった場合の対応と行為者およびその関係者に対する措置、その他、本学における情報倫理確立に必要な事項が審議される。

委員会は、薬学部教授会で選出された教員1名、看護学部教授会で選出された教員1名、リハビリテーション学部教授会で選出された教員1名、共通教育センター教授会で選出された教員1名、兵庫医療大学情報ネットワーク委員会委員長、事務部長、総務課長、入試・広報課長、その他委員長が必要と認められた者をもって組織される。

8) 国際交流委員会

概要

国際交流委員会は、平成22年2月8日の大学協議会で制定された「兵庫医療大学国際交流委員会規程」に則り、外国の大学および教育研究機関との連携の下に、国際学術研究・国際教育および国際協力を推進することを目的とする。

特記事項

活動内容は第8章国際交流に掲載する。

9) キャリアデザイン委員会

概要

本学は、学生のキャリアデザインを支援し、社会に有為な人材を送り出すことを目的に、キャリアデザインセンター（以下「センター」という。）を設置し、センターの活動推進と行事遂行のため、キャリアデザイン委員会（以下「委員会」という。）を毎月開催している。委員会は、キャリアデザイン支援に関する企画・調整・運営方針、センターが推進する就職活動支援、社会人教育支援、生涯学習支援等のキャリアデザイン業務に関すること、その他センターの活動に関することを協議している。

委員会は、センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名、就職支援課長、その他委員長が必要と認めた者をもって構成している。

主な審議事項

- ・学校法人兵庫医療大学連携病院の会 合同病院説明会実施について
- ・兵庫医科大学病院・ささやま医療センター就職説明会について
- ・セミナー、ガイダンス、対策講座の実施について
(仕事研究セミナー・保健師ガイダンス・公務員試験対策講座・社会人スキル対策講座・グループディスカッション対策講座・社会人スキルガイダンス(接遇マナー)・就職・実務実習説明会等)
- ・登録販売者資格取得支援について(具体的施策、受験ガイダンス)
- ・合同企業説明会の実施について
- ・内部質保証の点検・評価のための調査について
- ・卒業生に対するアンケート調査の見直しについて
- ・キャリア・就職支援行事日程について

10) 研究推進委員会

「兵庫医療大学研究委員会運営規程」(平成29年6月1日)施行に伴い、廃止となった。

11) 研究委員会

概要

当委員会は、本学における研究活動の推進主体として、研究の多様性を尊重し、全学的な研究支援体制の整備、公正な研究活動等を推進することを目的とする。

当委員会は、研究委員会運営規程に基づき、学長、副学長(研究担当)、各学部長、共同機器室長、大学院各研究科長、神戸キャンパス事務部長、神戸キャンパス事務部研究支援課長の11名と、その他、委員会が必要と認めた者により構成され、委員長は学長が務めている。

1. 研究推進戦略・方針に関することについて
2. 研究ブランディングに関することについて
3. 学内研究費の運用及び研究助成・顕彰に関することについて
4. 外部資金獲得に関することについて
5. 公正研究・研究資金適正使用等の教育・研修に関することについて
6. 研究活動等のPDCAサイクルによる自己点検・評価に関することについて
7. 研究施設・設備の整備に関することについて
8. その他、委員会が必要と認めた事項について

主な審議事項

1. 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業への申請について
2. 兵庫医療大学研究助成・顕彰制度（公募・採択）について

12) 公正研究推進小委員会

概要

当小委員会は、兵庫医療大学研究委員会運営規程第8条に基づき、外部資金獲得および公正研究・研究資金適正使用等の研修に関すること等の実務を効果的に担うことを目的として設置されている。

当委員会は、公正研究推進小委員会内規に基づき、副学長（研究担当）、共同機器室長、動物センター長、RI実験センター長と、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部および共通教育センターから各1名、研究支援課長の9名の委員により構成され、委員長は副学長（研究担当）が務めている。

1. 外部資金獲得に関することについて
2. 公正研究・研究資金適正使用等の教育・研修に関することについて
3. 研究セミナーなどの企画・立案について
4. その他、公正研究推進にかかる事項について

主な審議事項

1. 研究活動の評価制度（案）について
2. 兵庫医療大学研究助成制度の運用について
3. 学術講演会の企画立案について

13) 先端医薬研究センター運営委員会・先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会

概要

先端医薬研究センター運営委員会は、兵庫医療大学先端医薬研究センター規程第7条第2項の規程に基づき、先端医薬研究センターの運営に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会は兵庫医療大学先端医薬研究センター規程第10条第2項の規定に基づき、研究プロジェクトの募集、選考等に関する事項について審議するために設置されている。

14) RI実験センター運営委員会

概要

RI実験センター運営委員会は、兵庫医療大学RI実験センター運営委員会規程第7条第2項に基づき、RI実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める目的で設置されている。

RI実験センター運営委員会は、RI実験センターの管理運営について協議し、かつ具体的問題を処理するものとする。

主な審議事項

1. 放射線モニタシステムについて
2. 精製水装置について

15) 放射線障害予防委員会

概要

放射線障害予防委員会は、兵庫医療大学放射線障害予防委員会規程第9条に基づき、兵庫医療大学放射線障害予防委員会の構成および運営について定める。委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

1. 放射線障害予防規程の運用及び改廃
2. 放射線業務従事者の教育及び訓練
3. 学長から諮問を受けた事項
4. 学長に対する放射線障害予防に関する意見具申
5. その他放射線障害防止についての必要事項

特記事項

- ・平成28年度放射線管理状況報告書について
- ・平成29年度放射線業務従事者の登録状況について

16) 動物実験センター運営委員会

概要

動物実験センター運営委員会は、兵庫医療大学動物実験センター運営委員会規程第5条第2項の規定に基づき、兵庫医療大学動物実験センター運営委員会に関する必要な事項を定める。

動物実験センター委員会は、兵庫医療大学動物実験センターの運営に関する事項について協議し、かつ具体的問題を処理する。

主な審議事項

- ・動物実験センター緊急時対応マニュアルについて
- ・SPFエリア内でのチャタテムシ発生について
- ・持出中ケージの飼育経費および扱いについて
- ・平成30年度予算案について

特記事項

| | |
|---------|---|
| 2017年4月 | 第1回動物実験センター運営委員会 |
| 2017年5月 | オートクレーブ性能検査（日本ボイラー協会） 空調機劣化による過陽圧が発生（センター） |
| 2017年6月 | 微生物モニタリング |
| 2017年7月 | 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換 |

| | |
|----------|---|
| 2017年 8月 | 全学的設備点検に伴う計画断水 SPFエリア内でチャタテムシが発生、クリーンアップを実施 蒸気ボイラー部品焼失により一時使用不可発生 |
| 2017年 9月 | 第2回動物実験センター運営委員会 微生物モニタリング 動物実験センターおよび分室消防設備点検 |
| 2017年10月 | 第3回動物実験センター運営委員会 (劣化)空調機交換 動物実験センター緊急時対応マニュアル作成 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換 外部技術講習会出席 |
| 2017年12月 | 微生物モニタリング 第10回実験動物慰霊祭 |
| 2018年 1月 | 天井空調機部品からの漏水 (分室) |
| 2018年 2月 | 動物実験に関する教育訓練および動物実験センター利用者講習会 空調自動制御機器点検 動物実験センターおよび分室の空調フィルター交換 |
| 2018年 3月 | 微生物モニタリング 動物実験センターおよび分室の消防設備点検 『特定外来生物の飼養等について(許可)』提出 『〃数量の増加、減少等の届出(報告)について』提出 組換動物対応飼育室を拡充 (SPFマウス1室、CNVマウス室) |

17) 動物実験委員会

概要

動物実験委員会は、兵庫医療大学における動物実験に関する事項を審議し、科学的にはもとより、動物福祉、環境保全、ならびに動物実験に携わる者の安全確保等の観点から、適正な動物実験の実施を図ることを目的とする。

委員は、動物実験等に関して優れた識見を有する者として、各学部および共通教育センターの教員よりそれぞれ3名以内、学識経験を有する教員1名、実験動物管理者、兵庫医療大学動物実験センター長および研究支援課長で構成する。

動物実験の在り方を倫理面から審議する機関として、平成20年7月に「動物実験委員会」を設置し現在に至っている。平成18年6月に告示された「研究機関等における動物実験に関する基本指針」(文部科学省)に基づきRefinement(苦痛の軽減)、Replacement(代替法の利用)、Reduction(必要最少利用)、「3R」に配慮しながら、適切に審査を行っている。

主な審議事項

委員会は、学長の委任を受け、次の事項を審議または調査し、学長に報告または助言する。

- ・動物実験計画が法令等および本規程に適合していること
- ・飼養保管責任者、動物実験責任者および動物実験実施者の承認に関すること
- ・動物実験計画の実施状況および結果に関すること
- ・施設等および実験動物の飼養保管状況に関すること
- ・動物実験および実験動物の適正な取扱いならびに法令等に関する教育訓練の内容または体制に関すること
- ・自己点検・評価に関すること
- ・その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること。

実施審査一覧

| 審査内容 | 審査件数 | 承認件数 |
|----------------|------|------|
| a. 動物実験責任者 | 0 | 0 |
| b. 動物実験実施者 | 68 | 68 |
| c. 実験室設置許可 | 1 | 1 |
| d. 動物実験計画書 | 29 | 26 |
| e. 動物実験計画変更 | 26 | 26 |
| f. 実習室動物実験一時許可 | 3 | 3 |

実験動物慰霊祭

全教職員・学生を対象に下記の実験動物慰霊祭を挙行し、本学における研究および教育のために犠牲となり、生命科学の研究に貢献された諸霊に対し心から慰霊の言葉を捧げた。

- ・平成29年12月14日（木） 第10回実験動物慰霊祭 参列者235名

18) 遺伝子組換え実験安全委員会

概要

遺伝子組換え実験安全委員会は、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年6月18日法律第97号）および関係する政令・省令・告示等に定められる遺伝子組換え実験の安全な実施を確保することを目的とし、兵庫医療大学遺伝子組換え実験安全管理規程に基づいて設置されている。本委員会は、本学における遺伝子組換え実験の安全確保を総括する学長の諮問に応じ、実験計画の法令等に対する適合性、実験従事者の教育訓練と健康管理等につき調査審議し、学長に対して答申または勧告を行っている。

本委員会には遺伝子組換え実験安全主任者を置き、委員として遺伝子組換え実験研究者である教員および遺伝子組換え実験研究者ではない自然科学系の教員とともに保健管理センター長と研究支援課長を構成員としている。

主な審議事項

委員会は、学長の諮問に応じて次に掲げる事項について調査審議、および学長に対し答申または勧告する。

- ・実験計画の法令に対する適合性の審査に関する事
- ・実験従事者に係る教育訓練および健康管理に関する事
- ・危険時および事故時の必要な処置および改善策に関する事
- ・その他実験の安全確保に関する必要な事項

実施審査件数

| 審査内容 | 審査件数 | 承認件数 |
|------|------|------|
| 新規 | 2 | 2 |
| 変更 | 10 | 10 |

19) 環境安全委員会

概要

環境安全委員会は、兵庫医療大学の教育・実験や研究活動における安全確保ならびに環境保全を図ることを目的としている。

主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・廃液処理に関する必要事項および運用
- ・毒物および劇物管理に関する必要事項および運用
- ・廃棄物（感染性含）処理に関する必要事項および運用
- ・その他環境安全に関する必要な事項

20) 共同研究の受入れに関する審査専門委員会

概要

共同研究の受入れに関する審査委員会は、平成24年5月15日に施行された「学校法人兵庫医科大学共同研究規程」に基づき、平成24年7月に発足した。本委員会は、企業、国、地方公共団体またはその他の機関との共同研究を対象に共同研究の受入れ事項について審議することを目的とする。

委員会は、学長、研究担当副学長、大学協議会において選出された者5名で構成される。委員長は、学長がこれに当る。

特記事項

申請のあった2件の共同研究計画について持回りにて審査を行った結果、受入れが承認された。

実施審査一覧

| 共同研究機関名 | 研究期間 | 本学研究者 |
|----------------|--------------------|------------|
| 愛媛大学、シスメックス（株） | 2017/7/1～2018/3/31 | 田中 明人（薬学部） |
| （株）MORESCO | 2017/9/1～2018/2/28 | 田中 明人（薬学部） |

21) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会

概要

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会では、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、本学において行われるヒトゲノム・遺伝子解析研究が、兵庫医療大学におけるヒトゲノム/遺伝子解析研究に関する規程に合致し、文部科学省、厚生労働省の定める倫理指針、およびヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮の下に行われるよう、実験計画書を審査し、計画の適否について学長に報告すること、および、承認された実験計画について適切に実施されているかどうかを調査し、報告を受けることにより本学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究が円滑かつ適切に実施されることに資することを目的として設置されている。

当委員会は、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、下記委員をもって構成されている。

- ①薬学部教員（3名）
- ②科学面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）
- ③倫理面、法律面および社会面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）

④一般の立場の者（1名）

②として看護学部、リハビリテーション学部の教員各1名、③として共通教育センター教員2名が指名され、任に就いている。

当委員会は平成23年に発足した。まず、申請書式および審査手続きを整え、その後、年4回を原則に申請課題の締め切りを設定し、申請があれば委員会を招集し課題審査を実施している。今までに、5つの新規課題の審査申請があり、審査の結果、当該研究の実施が適当である旨を学長に報告し、課題は承認された。課題審査に加えて、年度ごとに実験課題の査察を行った上、実施課題の報告書を受け取り、研究が適切に実施されていることを担保している。

特記事項

- ・平成29年度は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画の変更・延長4件が承認された。
- ・平成28年度で1件の課題が終了したため、5件の研究課題が進行中である。
- ・各々の課題に対し査察を実施し、研究責任者より研究報告書が提出され、学長に報告している。

承認済課題一覧

| 課題番号 | 課題名 | 申請者 | 研究期間 |
|-----------|--|-------|---------------|
| 15-002 | 遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験 | 南畝 晋平 | 承認日～2017/9/30 |
| 15-003-01 | 統合失調症患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究 | 南畝 晋平 | 承認日～2018/3/31 |
| 15-004-01 | うつ病患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究 | 南畝 晋平 | 承認日～2020/3/31 |
| 15-005-03 | プリン代謝拮抗薬の臨床効果の個人差に関する研究 | 大野 雅子 | 承認日～2019/3/31 |
| 16-001-01 | 薬効ゲノム情報に基づく結核治療の個別適正化プロジェクト～結核治療薬の反応性の個人差に関わる薬剤反応性遺伝子の探索 | 大野 雅子 | 承認日～2019/3/31 |

22) 病原体等安全管理委員会

概要

病原体等安全管理委員会は、兵庫医療大学における研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡の安全管理を目的とし、設置されている。

平成21年8月21日に「病原体等安全管理委員会」を設置し、「兵庫医療大学における病原体等の安全管理に関する内規」を作成し、平成22年9月16日より運用を開始し、現在に至っている。研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡が安全に行われるよう、病原体等実験申請／届出、病原体等実験終了／届出、病原体等受入・保管申請、病原体等保管終了届出、病原体等分与／譲渡申請／届出、未知病原体等分離実験届出（平成27年度より追加）、感染動物実験申請について、安全面の審査を行っている。

主な審議事項

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

- ・病原体等の管理体制に関する事項
- ・病原体等の管理基準に関する事項
- ・病原体等の取扱い等の教育に関する事項
- ・病原体等による感染症の発生の予防に関する事項

- ・病原体等を使用する実験計画の審議に関する事項
- ・その他病原体等の取扱いに関し必要な事項

実施審査一覧

| 審査内容 | 審査件数 | 承認件数 |
|----------------------|------|------|
| 病原体等実験申請/届出書(変更:従事者) | 5 | 5 |
| 感染動物実験申請 | 1 | 1 |

23) 利益相反マネジメント委員会

概要

利益相反マネジメント委員会は、本学の教職員等の産学連携活動に関わる利益相反を適切に管理することを目的とし、学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシーの下、学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程に基づいて設置されている。本委員会は教職員等の利益相反を未然に防止するために、利益相反に関する個々の案件の審査と必要な勧告や利益相反マネジメントのための調査や関連する情報公開に関する事項について審議する。

本委員会は各学部および共通教育センター教授会において選出された教授各1名、財務担当理事、事務局長、事務部長、法務・知的財産室長、学外有識者からなる委員で構成されている。

特記事項

| 回 | 申告数 | 助言数 | 審査結果 |
|----|-----|-----|------|
| 1 | 35 | 14 | 問題なし |
| 2 | 145 | 97 | 問題なし |
| 3 | 45 | 24 | 問題なし |
| 4 | 24 | 17 | 問題なし |
| 5 | 22 | 18 | 問題なし |
| 6 | 14 | 4 | 問題なし |
| 合計 | 285 | 174 | |

24) 倫理審査委員会

概要

倫理審査委員会は、本学および本学と連携した施設において行われる臨床研究、疫学研究、観察研究等が、ヘルシンキ宣言の趣旨にそって倫理的配慮の下に行われるように、研究実施計画の内容を学長の諮問に基づいて倫理的および社会的審査を行ってきた。

平成27年4月1日に施行された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省公示第3号)による指針を遵守して、研究が遂行されるように平成27年度からは新しい規程および申請書を作成して倫理審査を行っている。

平成27年度以降、委員会構成は、副学長、学部長、研究科長から1名、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センター教員または倫理を専門とする教員から1名、人文社会科学の学外学識経験者1名、一般の立場を代表する学外者1名、事務局の者1名の8名で、委員長は学長指名で選出される。委員会の構成も「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して行っている。

特記事項

- ・倫理審査申請書の審議
- ・倫理審査（迅速審査）の判定報告
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」一部改正について

承認済課題一覧

| 受付番号 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 | 実施期間 |
|---------|-------------|-----|--------|--|-------------------|
| 17001 | リハビリテーション学部 | 講師 | 永井 宏達 | 自宅退院した脳卒中患者の身体活動量と影響因子の実態調査 | H29.6.2～H31.3.31 |
| 15009-3 | 薬学部 | 教授 | 辻野 健 | 循環器内科外来受診患者におけるポリファーマシーの要因探索 | H29.5.16～H30.3.31 |
| 17002 | リハビリテーション学部 | 准教授 | 森 明子 | 骨盤底筋トレーニングプログラムにおける指導的介入の実施頻度に関する研究 | H29.6.2～H32.3.31 |
| 17003 | 看護学部 | 教授 | 神崎 初美 | 慢性疾患患者の在宅移行期に訪問看護師が抱えるケア上の困難と実践 | H29.6.2～H30.3.31 |
| 17004 | リハビリテーション学部 | 講師 | 宮本 俊朗 | オフィスワーカーの疾病予防・健康増進に対する情報の認識と行動反応性 | H29.6.2～H30.3.31 |
| 17005 | 看護学部 | 教授 | 網島ひづる | 集中治療領域における終末期医療への移行判断時の医師・看護師の葛藤 | H29.6.2～H30.3.31 |
| 17006 | 看護学部 | 教授 | 網島ひづる | 集中治療後症候群の発症を見据えたICUケアに対する看護師の認識と実践 | H29.6.2～H30.3.31 |
| 16004-3 | 薬学部 | 教授 | 前田 初男 | 日本酒産産を活性化する日本酒味わい表現と味わい表現変換法を科学的にデザインする | H29.6.2～H32.3.31 |
| 17007 | 看護学部 | 教授 | 竹田千佐子 | 教育担当者の「一皮むけた経験」から語られるキャリア形成過程 | H29.6.2～H30.3.31 |
| 12029-3 | リハビリテーション学部 | 講師 | 森沢 知之 | 心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関連する因子の検討 | H29.6.2～H31.3.31 |
| 16016-4 | 薬学部 | 教授 | 天野 学 | インスリン注入器用補助器具の形状およびサイズの個別化と使用性の関連性に関する検討 | H29.6.26～H30.3.31 |
| 16045-2 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | EBMを実践できる薬剤師養成のための学習プログラム構築に向けたTBL & PBLハイブリッド学習プログラムの実施による学習効果の評価 | H29.7.7～H30.3.31 |
| 17008 | リハビリテーション学部 | 助教 | 奥谷 研 | 精神機能と自律神経機能の定量的評価を用いた作業療法プログラムの有用性に関する研究 | H29.8.4～H30.3.31 |
| 17001-2 | リハビリテーション学部 | 講師 | 永井 宏達 | 自宅退院した脳卒中患者の身体活動量と影響因子の実態調査 | H29.7.14～H32.3.31 |
| 17011 | 看護学部 | 講師 | 貞永 千佳生 | 心臓血管手術を受けてICU・HCUに入室した患者の睡眠の質と睡眠を阻害する要因の関連 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17012 | 看護学部 | 助教 | 井上 満代 | 連続モニタリングによるSLE患者の疾患インパクトの推定と疲労感トリガー要因の探索 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17013 | 看護学部 | 助教 | 足立 安正 | 妊婦に対する保健指導において、保健師が重視する情報と支援内容 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17014 | 看護学部 | 助教 | 片田 千尋 | 医療における難しい選択に女性が自己決定するための教育プログラム—遺伝リテラシー向上への有効性の検証— | H29.8.4～H31.3.31 |

| 受付番号 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 研究課題名 | 実施期間 |
|---------|-------------|-----|-------|---|-------------------|
| 17015 | 看護学部 | 助 教 | 片田 千尋 | 患者に必要なケアへの認識は臨床経験を経ることで変化するの—one看護学部生と臨床看護師の比較から— | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17016 | リハビリテーション学部 | 教 授 | 玉木 彰 | 急性心不全患者における退院時歩行速度に影響を及ぼす因子の検討 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17017 | リハビリテーション学部 | 教 授 | 玉木 彰 | 消化器がん術後のリハビリテーション進行に関わる要因の検討 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17018 | リハビリテーション学部 | 講 師 | 森沢 知之 | 運動様式の違いが血液中の脳由来性神経栄養因子に及ぼす影響～インターバル運動と持続運動の比較～ | H29.8.4～H30.3.31 |
| 17019 | リハビリテーション学部 | 講 師 | 平上 尚吾 | 脳卒中患者の臨床的意義のある身体活動量の研究 | H29.8.4～H33.3.31 |
| 17020 | 薬学部 | 助 教 | 村上 雅裕 | 錠剤・カプセル剤のPTPシートからの押し出しやすさに関する検討 | H29.8.4～H32.12.31 |
| 17021 | 看護学部 | 准教授 | 田中 登美 | 抗がん治療を受けているがん患者とその家族のせん妄に関する体験およびDELTAプログラムの質的評価 | H29.8.4～H31.3.31 |
| 17022 | 薬学部 | 講 師 | 清水 忠 | 有機化学教員と実務家教員の連携による実務実習事前学習の実践とその評価 | H29.9.1～H31.3.31 |
| 17023 | 薬学部 | 講 師 | 清水 忠 | システマティックレビューを活用できる薬剤師養成のための学習プログラム構築に向けた学習会の実践と評価 | H29.9.1～H31.3.31 |
| 17024 | 薬学部 | 講 師 | 清水 忠 | 効果的な初年次数学学習補完プログラム策定に向けた『計算演習補習』の学習効果の評価 | H29.9.25～H30.3.31 |
| 17025 | 薬学部 | 講 師 | 清水 忠 | 5年次病院実務実習におけるEvidence-based Medicine (EBM) の実践を踏まえた病棟業務実習の実践例 | H29.9.1～H31.3.31 |
| 17026 | 看護学部 | 教 授 | 土田 敏恵 | 重度要介護高齢者における便秘の実態調査に関する研究 | H29.10.6～H30.6.30 |
| 16028-3 | リハビリテーション学部 | 教 授 | 川口浩太郎 | 紙おむつ装着が体の動きへ及ぼす影響に関する研究 | H29.9.12～H31.3.31 |
| 17027 | 看護学部 | 助 教 | 足立 安正 | 0歳児をもつ両親の子育ての実態 | H29.10.6～H32.3.31 |
| 17008-2 | リハビリテーション学部 | 助 教 | 奥谷 研 | 精神機能と自律神経機能の定量的評価を用いた作業療法プログラムの有用性に関する研究 | H29.10.6～H30.3.31 |
| 17028 | リハビリテーション学部 | 准教授 | 坂口 顕 | 小学校高学年サッカー選手を対象とした足部形態とプレー状況の調査 | H29.10.6～H31.3.31 |
| 17029 | 薬学部 | 教 授 | 前田 初男 | 兵庫県多自然地域との連携による現代社会を生き抜く心と体のヘルスサイエンスイノベーション | H29.10.6～H32.3.31 |
| 17030 | リハビリテーション学部 | 教 授 | 日高 正巳 | 低栄養状態にある褥瘡患者における超音波療法による創縮小効果の検討 | H29.10.6～H31.3.31 |
| 17031 | 薬学部 | 助 教 | 橋本 佳奈 | 保険薬局における便秘薬の頓服使用患者に関する実態調査 | H29.10.6～H30.3.31 |
| 17032 | 薬学部 | 教 授 | 森山 雅弘 | 地域中核病院の病院薬剤師が行う在宅患者訪問薬剤管理指導の効果について | H29.10.6～H30.3.31 |
| 17033 | 薬学部 | 教 授 | 斎藤あつ子 | 兵庫医療大学薬学部における学生の流行性ウイルス感染症(麻疹 風疹 流行性耳下腺炎 水痘)の罹患歴、ワクチン接種歴および抗体価についての調査 | H29.10.6～H34.3.31 |
| 17019-2 | リハビリテーション学部 | 講 師 | 平上 尚吾 | 脳卒中患者の臨床的意義のある身体活動量の研究 | H29.9.26～H33.3.31 |

| 受付番号 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 | 実施期間 |
|---------|-------------|-----|-------|--|--------------------|
| 17034 | 看護学部 | 講師 | 山田 千春 | 高齢者の価値観形成過程に着目した対象理解の検討—看護系大学生の高齢者ライフヒストリー・インタビューより— | H29.12.1～H31.3.31 |
| 17035 | 看護学部 | 講師 | 荻野 待子 | 視線運動分析による看護教員の膀胱留置カテーテル技術指導過程の可視化—熟達者と未熟達者の観察点とフィードバックの特徴— | H29.12.1～H30.12.31 |
| 17036 | 共通教育センター | 准教授 | 賀屋 光晴 | 輻射熱が暑熱環境下の運動時における選択的運動強度と体温調節に及ぼす影響 | H29.12.1～H32.3.31 |
| 17030-2 | リハビリテーション学部 | 教授 | 日高 正巳 | 低栄養状態にある褥瘡患者における超音波療法による創縮小効果の検討 | H29.11.15～H31.3.31 |
| 17037 | リハビリテーション学部 | 教授 | 川口浩太郎 | 発育期腰椎分離症患者の身体機能の調査と体幹トレーニングによる体幹筋断面積の比較 | H29.12.1～H31.3.31 |
| 17038 | 共通教育センター | 講師 | 土江 伸誉 | 高齢者施設入居者に対する松樹皮抽出物入り緑茶飲料の忘れ予防効果の検討 | H29.12.1～H33.3.31 |
| 17039 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | 初年次教育において化学の臨床応用を意識づけるチーム基盤型学習の取り組みとその評価 | H29.12.1～H30.3.31 |
| 17040 | 薬学部 | 講師 | 清水 忠 | アカデミックディテールを実践できる薬剤師養成プログラム策定に向けた「処方提案ワークショップ」の開催と参加者の意識調査 | H29.12.1～H31.3.31 |
| 17041 | リハビリテーション学部 | 講師 | 塚越 累 | 階段昇降動作時の足角の変化が膝関節の力学的負荷に与える影響 | H29.12.1～H31.3.31 |
| 17042 | 看護学部 | 講師 | 鈴木みゆき | 病院に勤務する女性看護師における冷えの解明—健康度・生活習慣・就労環境との関連に着目した全国調査 | H30.2.1～H32.3.31 |
| 17043 | 看護学部 | 講師 | 鈴木みゆき | 病院に勤務する女性看護師における冷えの解明—女性看護師の手の表面皮膚温と病院の温度・湿度・気流の測定 | H30.2.1～H32.3.31 |
| 17044 | リハビリテーション学部 | 教授 | 山崎せつ子 | 学生による臨床実習の省察の質的研究—行動変容をもたらすと教員が感じる省察の特性— | H30.2.5～H32.3.31 |
| 17029-2 | 薬学部 | 教授 | 前田 初男 | 兵庫県多自然地域との連携による現代社会を生き抜く心と体のヘルスサイエンスイノベーション | H30.1.9～H32.3.31 |
| 17045 | 看護学部 | 助教 | 川内恵美子 | 新卒看護職者と所属する看護師チームのワーク・エンゲージメント、バーンアウトおよび離職意思との関係 | H30.2.5～H31.3.31 |
| 17046 | リハビリテーション学部 | 講師 | 清水 大輔 | 地域在住の高次脳機能障害者に対する社会生活への介入効果—シングルケースデザインを用いた検討— | H30.2.5～H32.3.31 |
| 17047 | 看護学部 | 教授 | 堀口 和子 | 中重度要介護者の在宅医療継続に向けた家族支援プログラムパッケージの実用化 | H30.2.5～H31.9.30 |
| 16007-2 | リハビリテーション学部 | 准教授 | 佐野 恭子 | 脳損傷者の表情認知と表出の特徴に関する研究—他者との良好な関係づくりに向けて | H30.1.17～H30.5.30 |

| 受付番号 | 所 属 | 職 名 | 氏 名 | 研究課題名 | 実施期間 |
|---------|-------------|-----|-------|---|-------------------|
| 17033-2 | 薬学部 | 教 授 | 斎藤あつ子 | 兵庫医療大学薬学部における学生の流行性ウイルス感染症(麻疹 風疹 流行性耳下腺炎 水痘)の罹患歴、ワクチン接種歴および抗体価についての調査 | H30.2.1~H34.3.31 |
| 17017-2 | リハビリテーション学部 | 教 授 | 玉木 彰 | 高齢消化器外科患者の術後リハビリテーション進行に係わる要因の検討 | H30.2.19~H31.3.31 |
| 17014-2 | 看護学部 | 助 教 | 片田 千尋 | 医療における難しい選択に女性が自己決定するための教育プログラム—遺伝リテラシー向上への有効性の検証— | H30.2.26~H31.3.31 |
| 17031-2 | 薬学部 | 助 教 | 橋本 佳奈 | 保険薬局における便秘薬の頓服使用患者に対する実態調査 | H30.3.13~H31.3.31 |
| 15015-4 | リハビリテーション学部 | 講 師 | 宮本 俊朗 | 運動様式の違いが血液中の脳由来性神経栄養因子に及ぼす影響 | H30.3.22~H32.3.31 |
| 17048 | 看護学部 | 助 教 | 井上 満代 | 女性SLE患者の療養生活におけるパートナーのサポートの実態と患者の認知 | H30.3.27~H31.3.31 |
| 17049 | リハビリテーション学部 | 講 師 | 塚越 累 | 脚長差が体幹・下肢の筋活動および関節運動に与える影響 | H30.3.27~H31.3.31 |
| 16008-3 | 薬学部 | 教 授 | 九川 文彦 | 処方箋データから見た兵庫医科大学病院とは・多変量解析の手法を用いて(第2段研究) | H30.3.14~H34.3.31 |
| 15009-4 | 薬学部 | 教 授 | 辻野 健 | 循環器内科外来受診患者におけるポリファーマシーの要因探索 | H30.3.30~H31.3.31 |
| 16045-3 | 薬学部 | 講 師 | 清 水 忠 | EBMを実践できる薬剤師養成のための学習プログラム構築に向けたTBL & PBLハイブリッド学習プログラムの実施による学習効果の評価 | H30.3.30~H31.3.31 |
| 17024-2 | 薬学部 | 講 師 | 清 水 忠 | 効果的な初年次数学学習補完プログラム策定に向けた『計算演習補習』の学習効果の評価 | H30.3.30~H31.3.31 |
| 17039-2 | 薬学部 | 講 師 | 清 水 忠 | 初年次教育において化学の臨床応用を意識づけるチーム基盤型学習の取り組みとその評価 | H30.3.30~H31.3.31 |

25) 共同機器室運営委員会

概要

共同機器室運営委員会規程は兵庫医療大学共同機器室規程第4条第2項の規定に基づき、共同機器室運営委員会に関する必要な事項を定める。

委員会は共同機器室長、本学専任教員から2名以上、研究支援課長、その他委員長が必要と認め、指名する者から組織され、委員長は共同機器室長が兼ねる。

主な審議事項

- ・共同機器室の管理・運営に関すること
- ・共同機器室に設置された機器の維持・管理に関すること
- ・共同機器室の整備計画に関すること
- ・その他、共同機器室の円滑な運営に必要な事項

26) 情報センター運営委員会

概要

情報センター運営委員会は、担当副学長と学長により指名された情報センター長、各学部・共通教育センターからそれぞれ2名選出された教員、入試・広報課情報系の事務職員で構成される組織である。本委員会は、兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目的としている。

主な審議事項

- ・ネットワークシステムフロアスイッチの部分リプレイス
- ・監視カメラシステムの部分リプレイス
- ・入退室管理システムの部分リプレイス
- ・拠点間スイッチ更新
- ・テレビ会議システムの法人内利用
- ・教育・薬学支援室移転

27) 紀要委員会

概要

紀要委員会は、本学の学術研究の成果を発表する目的として兵庫医療大学紀要の発行を行う。当委員会は、図書館長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名および図書課長の9名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

主な審議事項

- ・投稿論文の査読者選出について
- ・投稿論文の査読結果について

特記事項

- ・兵庫医療大学紀要投稿要領第2条（投稿資格）の改正が承認された。
- ・英文抄録は、全ての論文種類において不要（任意）とすることとなった。

掲載原稿一覧

第5巻第1号（平成29年6月発行）

| 原稿種類 | タイトル | 著者名 |
|------|---|--|
| 研究報告 | 総合病院看護師の社会人基礎力の構成要素とクリニカルラダーによる相違の検討 | 笠松由利、今村恭子 |
| | 新生児聴覚スクリーニングにおいて要検査（Refer）となった家族への精密検査機関における看護支援の現状 | 藤井加那子 |
| 実践報告 | 学士課程入門を履修した看護学部学生における学習に関する自己評価の推移 | 増田富美子、府川晃子、堀口和子、竹田千佐子 |
| | 第7回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー実践報告 | 平上尚吾、塚越累、藤岡宏幸、川口浩太郎、曾田幸一朗、打田明、三島淳一、萩野智之、道免和久 |
| 資料 | 日本の救急外来における看護師教育の現状と課題 | 森島千都子 |

第5巻第2号（平成29年12月発行）

| 原稿種類 | タイトル | 著者名 |
|------|--|------------------------------|
| 原著 | 1年次有機化学系科目における授業連携型学習支援の実施とその評価 | 清水忠、中尾周平、関まどか、大森志保、南畝晋平、伊藤崇志 |
| | 手指機能や握力に依存せず簡単に絞れる「ふきん絞り器」の開発とリウマチ患者への適用 | 神崎初美、元木絵美、浅井剛 |
| 実践報告 | サービス・ラーニングに注目した公衆衛生看護学実習の試み | 魚崎須美 |
| | 変形性股・膝関節症患者に対する体幹機能に着目した理学療法介入の検討～Lower-crossed syndromeの概念を用いて～ | 小山智士、川口浩太郎、藤岡宏幸、西川哲夫 |
| 資料 | がん化学療法に対する看護師の曝露対策の現状と課題 | 河合莉奈、寺岡菜緒子、府川晃子、田中登美 |
| 実践報告 | 学習者の内発的動機づけを高める教育実践介入 | 森沢知之、玉木彰 |
| | 多機種連携教育の中の初年次教育 | 紀平知樹、常見幸 |

28) キャンパス有効利用委員会

概要

キャンパス有効利用委員会は、限りあるキャンパスを効率よく活用するために、学長の諮問機関として平成22年度より活動を行ってきた。本委員会では適宜召集されてさまざまな案件の検討を行ってきた。

平成26年度には、学長および本委員会メンバーが協議を行い、各部署にて学内の有効利用アイデアを募集することとなり、様々なアイデアが集まった。

その後、意見を反映する形で、平成27年度にはレストランの混雑緩和のための席の増設やG棟4階の居室等の再編成が実施された。

29) 将来構想委員会

概要

将来構想委員会は、学長の諮問に応じ、兵庫医療大学の将来構想および事業計画について検討し、答申することを目的としている。

30) 防火防災対策委員会

概要

開学年度より防火訓練（自衛消防訓練）を毎年1回実施している。地震・津波防災訓練は平成24年度から毎年1回実施している。阪神・淡路大震災のような都市直下型地震や今後起こるかもしれない地震による津波災害に対する啓発と教育、訓練を行っている。

地震・津波防災訓練の際には、学生の意識啓発のために、訓練当日の1週間前から備蓄品や救助工具の実物、および、神戸市・ポートアイランドの防災情報のパネル等を学内に展示している。

防災備蓄品の保管場所としてM棟4階倉庫、M305およびM309に、毛布900枚、飲料水2L×2,700本（900人×3日分）、食料8,100食（900人×3日分）、簡易トイレ6,000回分を保管している。

また、大規模災害時の通信手段の確保として、平成27年度から衛星電話を導入した。防火訓練および地震・津波防災訓練の約1ヶ月前に委員会を招集し、訓練内容を決定している。

特記事項

- ・平成29年度 自衛消防訓練

実施日：平成29年12月7日（木）12時40分～

- 対象者：薬学部 第2学年次157名 第3学年次142名 計299名
- ・平成29年度 地震・津波防災訓練
- 実施日：平成29年7月28日（金）16時20分～
- 対象者：薬学部 第1学年次188名、看護学部第1学年次127名、リハビリテーション学部第1学年次 42名 計407名

31) 衛生委員会

概要

本委員会は、労働安全衛生法に基づき、教職員の健康障害の防止、労働災害の原因および再発防止、健康の保持増進をはかるための対策を検討・実施するために設置されている。原則、月1回の開催としている。

特記事項

毎年実施している職員定期健康診断、インフルエンザワクチン補助事業に加え、本法人の方針に準拠するかたちで平成29年11月にストレスチェックを実施し、本学内の集団ごとにおけるストレス状況の組織分析を行った。

32) 医療人育成研修センター運営委員会

概要

医療人育成研修センター運営委員会は、センターの企画・運営方針に関すること、センターが運営する初期・後期臨床研修の充実に関すること、センターが推進する連携教育体制の整備・充実に関すること、その他センターの運営に関すること等、学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センターの運営に関して審議するために設置されている。兵庫医科大学の委員および本学の教務部長、教育支援室長、各学部・共通教育センター教員等で構成されている。

主な審議事項

- ・医療人育成研修センターの役割について
- ・平成29年度学校法人兵庫医科大学医療人育成研修センター認定看護師教育課程非常勤講師（兼任教員含む）の委嘱について
- ・兵庫医療大学の兵庫医科大学病院および兵庫医科大学ささやま医療センターにおける平成30年度学外実習（案）について
- ・看護師特定行為研修課程に関する規程の改定について
- ・平成30年度兼任教員および非常勤講師の委嘱について

33) 社会学連携推進機構運営委員会

概要

本機構は、医療、福祉、介護、健康づくり、未病等の観点から、地域の住民、地方自治体、公共団体、医療福祉施設、各種企業等、つまり、地域の社会と医療総合大学である本学との連携活動において、異なる分野の人たちをつなぐプラットフォームとしての役割を担うとともに、社会学連携に関するノウハウの蓄積、新しい社会学連携形態の企画立案にも取り組むために平成27年4月1日に発足した。

本機構の目的は、本学が策定した「社会学連携ポリシー」に基づき、本学の教育・研究成果を広く社会に還元し、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を精力的に実践することである。

特記事項

- ・「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」採択に係る対応について平成29年度も、前年度に引き続き「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1、タイプ2、タイプ3に加えて、タイプ5「プラットフォーム形成」についても選定された。
- ・平成30年度地域交流プロジェクトについて
平成30年度地域交流プロジェクトについては、新規応募3件を含む、計13件の応募があり、申書の検討の結果、新規2件をポーアイ4大学連携事業へ移管し、11件を承認し、1件あたり上限9万円の補助を支給することとした。

34) 大学院運営委員会

概要

大学院運営委員会は、研究科相互の円滑な連携および運営を図る目的で、各研究科の共通事項（教育・研究、教務、入学試験、その他大学院の運営）に関して協議している。協議した事項については、各研究科で報告し、大学協議会で報告または承認を得ている。

委員会は、副学長（教育担当）、各研究科長、共通教育センター長、事務部長の6名の委員により構成され、委員長は副学長（教育担当）が務めている。

主な審議事項

- ・大学院入学試験について
- ・規程の制定、改正について
- ・学生生活（通学手段、証明書発効、学研災・学研賠の加入）について
- ・職業実践力育成プログラム（BP）について
- ・一般教育訓練給付金講座指定の申請について（看護学研究科、医療科学研究科）

Hyogo University of Health Sciences



学校法人 **兵庫医科大学**

西宮市武庫川町1丁目1番 TEL.0798-45-6111